

LogVillage 2.0

導入マニュアル

V2.3J

株式会社 蒼 天

logVillage2.0 導入マニュアル

revision : MD-23-20161220

- *本書に記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- *本ソフトウェアを無断で複製することを禁止します。
- *本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- *本書の内容に関しては、将来予告なしに変更する場合があります。

株式会社蒼天

<http://www.so-ten.co.jp/>

support@so-ten.co.jp

〒135-0032

東京都江東区福住 1-14-4 山崎ビル 1F

TEL:03-5809-8406 FAX:03-5809-8495

Copyright © 2007- 2012 SO-TEN, Inc. All Rights Reserved.

目次

1. LogVillage の基本構成	5
1-1. 稼働環境	5
1-2. LogVillage の構成要素	8
1-3. 構成図	9
1-4. LogVillage の動作概要	10
1-5. インストールプログラムの説明	11
2. 本番運用までの手順	12
3. 導入前の準備と確認	13
3-1. LogVillageMGR⇔LogVillagePS 間通信方式についての確認	13
3-2. LogVillagePS→管理対象 PC への接続確認	14
3-3. 管理対象 PC 情報の準備	16
4. LogVillageMGR のインストール	17
4-1. LogVillageMGR のインストール	17
4-2. LogVillageMGR のライセンス登録	22
5. LogVillagePS のインストール	25
5-1. インストールおよび運用環境について	25
5-2. LogVillagePS のインストール手順	32
5-3. LogVillagePS のセットアップ	35
6. LogVillage の初期設定	36
6-1. 初期設定項目と設定方法	37
6-2. LogVillagePS を複数台設置した場合の管理対象 PC との関係	38
6-3. ログ収集の仕組みと注意点	39
6-3-1. ログ収集スケジュール	39
6-3-2. ログ収集タイミング	40
7. 管理対象 PC の設定変更	41
7-1. 設定変更項目の一覧	42
7-2. 設定変更の方法	43
7-3. WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容	44
7-4. ActiveDirectory 環境での管理対象 PC 設定内容	79
7-4-1. グループポリシー設定変更項目	81
7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)	82
7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)	111
7-4-2. LogVillageMGR に登録する管理対象 PC のユーザー設定項目	135
7-4-2-1. Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と	

LogVillage への登録	136
7-4-2-2. Active Directory 上で OU の管理者権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録.....	144
8. LogVillageMGR 画面の基本操作	156
8-1. LogVillageMGR 画面の表示方法.....	156
8-2. 画面概要.....	157
8-3. システム設定画面	158
9. 管理対象 PC 自動設定ツール（オプション）	159
9-1. LogVillage 管理対象 PC 設定ツール（ダウンロード版）	159
9-1-1. 対応 OS	159
9-1-2. 管理対象 PC での実行時の注意事項	159
9-1-3. 前準備.....	159
9-1-4. 設定手順.....	160
9-2. LogVillage 管理対象 PC 設定ツール（ActiveX 版）	163
9-2-1. 対応 OS	163
9-2-2. 管理対象 PC での実行時の注意事項	163
9-2-3. 前準備.....	163
9-2-4. 設定手順.....	164
9-3. 管理対象 PC を LogVillage マネージャに登録する.....	167
10. LogVillage 運用のための情報	168
10-1. LogVillage マネージャ動作関連ログファイル.....	168
10-1-1. ログ保存場所.....	168
10-1-2. ログ保存期間.....	168
10-2. LogVillage ポーリングサーバー動作関連ログファイル.....	169
10-2-1. ログ保存場所.....	169
10-2-2. ログ保存期間.....	169
10-3. Apache2 動作関連ログファイル.....	170
10-3-1. ログ設定方法.....	170
10-3-2. ログ保存場所.....	170
10-3-3. ログ保存期間.....	170
11. お問い合わせ	171
<< 補足資料 >>.....	172

1. LogVillage の基本構成

LogVillage の基本構成について説明します。

1-1. 稼働環境

LogVillage の稼働環境について説明します。

■LogVillage マネージャ（以下：LogVillageMGR とする）

OS Windows Server 2012 R2
 Windows Server 2012
 Windows Server 2008 R2
 Windows Server 2008
 Windows10 Pro, Education, Enterprise
 Windows8.1 Pro, Enterprise
 Windows 7 Professional, Windows 7 Enterprise, Windows 7 Ultimate

CPU Pentium4 2GHz 相当以上

メモリ 1GB 以上

ハードディスク

4GB 以上（LogVillage システム用領域）
※データ保管用として別途 HDD 容量が必要です。
※ディスクのフォーマット形式は NTFS 限定です。

※他のアプリケーションと共存の場合、アプリケーション間の競合（干渉）が発生し、LogVillageMGR の動作が不安定となる場合がありますので、LogVillageMGR 専用の環境にインストールいただくことを推奨いたします。
※インストール時に TCP80 番ポートが開いている必要があります。

【ご注意事項】

LogVillage マネージャをインストールいただく PC サーバに、一定周期の OS 再起動処理の設定を強く推奨いたします。

Windows Server 2003, Windows Server 2008 : 30 日に 1 回

Windows XP, Windows 7 : 1 日に 1 回

■LogVillage ポーリングサーバー（以下：LogVillagePS とする）

OS Windows Server 2012 R2
 Windows Server 2012
 Windows Server 2008 R2
 Windows Server 2008
 Windows10 Pro, Education, Enterprise
 Windows8.1 Pro, Enterprise
 Windows 7 Professional, Windows 7 Enterprise, Windows 7 Ultimate

CPU Pentium4 2GHz 以上

メモリ 512MB 以上

ハードディスク

 1GB 以上（LogVillage システム用領域）

 ※ディスクのフォーマット形式は NTFS 限定です。

※LogVillagePS のインストールは「Workgroup」環境で行ってください。

- ・「ActiveDirectory」に参加している状態で LogVillagePS をインストールすると、正常動作しません。
- ・LogVillagePS をインストールしたサーバが「ActiveDirectory」環境で、管理対象 PC の環境が「WorkGroup」場合、ドメインコントローラ側でセキュリティレベルの変更が必要な事をご留意ください。（詳細は「5.LogVillagePS のインストール」をご参照ください）

※Microsoft .NET Framework 3.5 または、Microsoft .NET Framework 3.5 sp1 がインストールされていることが必要です。

※ドメインコントローラとの共存は行えません。

※他のアプリケーションと共存の場合、アプリケーション間の競合(干渉)が発生し、LogVillagePS の動作が不安定となる場合がありますので、LogVillagePS 専用の環境にインストールいただくことを推奨いたします。

。

【ご注意事項】

LogVillage PS をインストールいただく PC サーバに、一定周期の OS 再起動処理の設定を強く推奨いたします。

再起動周期は OS 種別によって異なります。

Windows Server OS : 30 日に 1 回

Windows クライアント OS : 1 日に 1 回

■管理対象PCのOS

OS Windows10 Pro, Education, Enterprise
 Windows8.1 Pro, Enterprise
 Windows 7 Home Premium, Windows 7 Professional, Windows 7 Ultimate, Enterprise
 Windows XP Professional
 Windows Vista Business, Windows Vista Ultimate, Windows Vista Enterprise
 Windows Server 2012 R2
 Windows Server 2012
 Windows Server 2008 R2
 Windows Server 2008
 Windows Server 2003 R2
 Windows Server 2003
 Mac OSX 10.3 以降 (※1)

※1. 別途 Mac OSX 対応ツール（オプション）が必要となります。

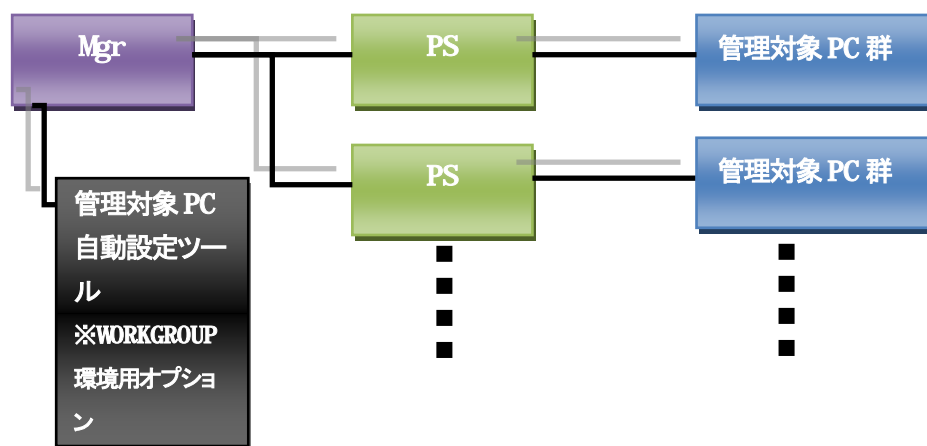
1-2. LogVillage の構成要素

LogVillage は以下により構成されます。

LogVillage マネージャ : LogVillageMGR	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> ーLogVillage 全体のシステム設定画面 ーログ情報の検索・参照画面 ー稼働状況のモニタリング画面 ・ データベース <ul style="list-style-type: none"> ーログ情報の蓄積 ーシステム設定情報の保存
LogVillage ポーリングサーバー : LogVillagePS	<ul style="list-style-type: none"> ・ ログ情報の収集（ポーリング） ・ アラート通知（メール、ポップアップ） ・ 1つのLogVillageMGRに対して複数のLogVillagePSを設置可能
管理対象 PC 自動設定ツール （オプション製品）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理対象 PC へ管理者権限を有するユーザーアカウント、パスワードを自動作成 ・ 管理対象 PC に対してログ収集を行うための設定を自動化
管理対象 PC	<ul style="list-style-type: none"> ・ LogVillage にてログ情報を収集される PC 端末（被管理 PC） ・ プログラムのインストールは不要、但し、設定変更が必要

1-3. 構成図

構成図は下図の通りです。



1-4. LogVillage の動作概要

LogVillage の動作概要について説明します。

■管理対象 PC のデータが LogVillage データベースに格納されるまで

- ① LogVillagePS が管理対象 PC を監視し、情報などを取得します。
- ② LogVillagePS は、データを暗号化し LogVillageMGR の Spool フォルダへ送信します。
- ③ LogVillageMGR は、Spool フォルダに書き込まれたデータを復号化して LogVillage データベースに書き込みます。

■格納された LogVillage データをブラウザで閲覧する

- ④ 管理コンソールよりブラウザを通してデータベースの内容を確認します。
(この場合は、HTTP と HTTPS が使用可能です。)

■LogVillagePS と管理対象 PC 間の通信について

以下のポートが解放されている必要があります。

- ・ NetBIOS 用 139:TCP, 445:TCP, 137:UDP, 138:UDP
- ・ DCOM 用 135:TCP, 未使用の TCP20 ポート程度

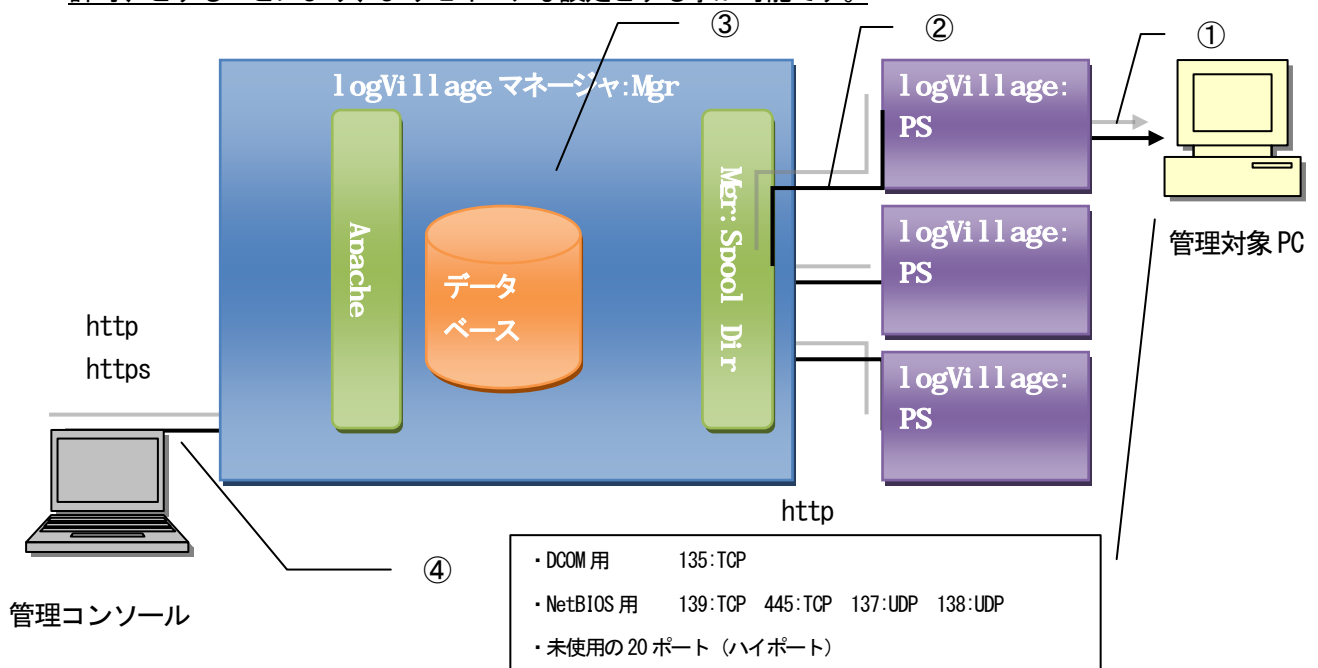
(WindowsOS のデフォルトでは 1024 から 65535 までの範囲の中で自動的に割り当てられます)

※DCOM 用のポートを開ける必要性に関しては、以下 URL の「Windows 2000 RPC ポート構成」をご参照ください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/archive/itsolutions/idc/rag/rage03.mspx?mfr=true>

※LogVillagePS → 管理対象 PC の方向のみ。

※LogVillagePS に固定 IP を付与できる環境である場合、「LogVillagePS の固定 IP」からのみ通信許可、とすることにより、よりセキュアな設定とする事が可能です。



1-5. インストールプログラムの説明

LogVillage インストールプログラムについて説明します。

■LogVillage マネージャ : LogVillageMGR

※通常のインストールフォルダ

C:\Program Files\S0-TEN\LogVillage

- ・ Apache2 LogVillage で使用する WWW サーバープログラム格納フォルダ
- ・ MySQL ログデータ蓄積用データベースの格納フォルダ

※インストール時に他のインストール先を指定することも可能です。
※管理対象 PC とログ収集スケジュール応じた容量を考慮してください。
参考 : 1 台 1 日 5M (最大)

- ・ Maneger LogVillageMGR プログラムの格納フォルダ
- ・ PHP Web アプリケーション PHP プログラムのフォルダ
- ・ ZendOptimizer PHP 暗号化プログラムの格納フォルダ

C:\

- ・ Spool LogVillagePS から LogVillageMGR へアップロードされた
 ログデータを一時的に格納するフォルダ

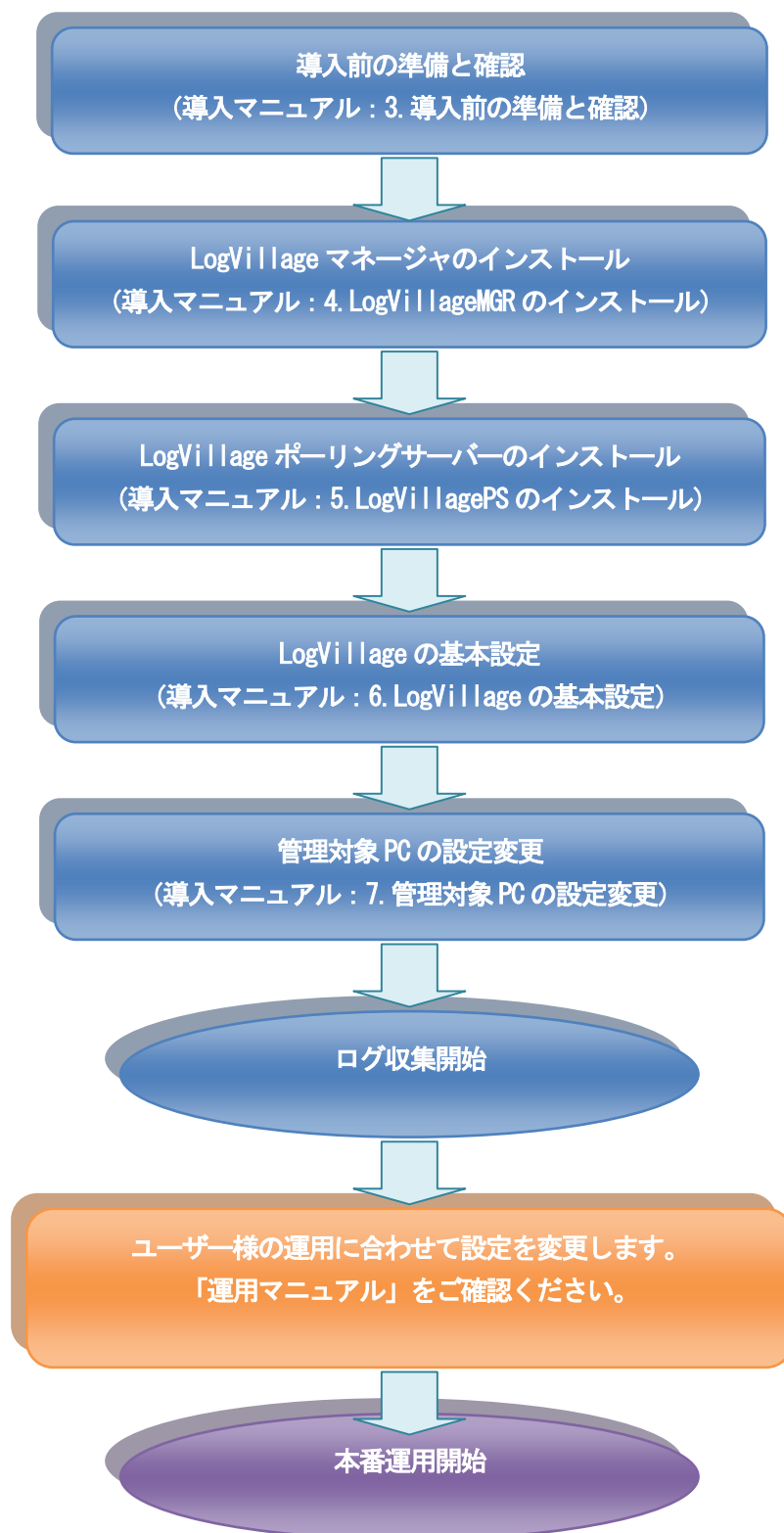
■ポーリングサーバー : LogVillagePS

※通常のインストールフォルダ

C:\Program Files\S0-TEN\LogVillage

- ・ PServer LogVillagePS プログラムの格納フォルダ

2. 本番運用までの手順



3. 導入前の準備と確認

導入前の準備と、その確認方法について説明します。

3-1. LogVillageMGR⇔LogVillagePS 間通信方式についての確認

LogVillageMGR⇔LogVillagePS 間通信方式についての確認について説明します。

LogVillageMGR と LogVillagePS 間は WEBDAV 通信を行います。

LogVillageMGR⇔LogVillagePS 間で以下のポートが利用可能かを確認ください。

＜ポート番号＞

- ・「80」番ポートを使用

3-2. LogVillagePS→管理対象 PC への接続確認

LogVillagePS が管理対象 PC の情報収集するために必要な接続の確認方法について説明します。

1) 通信ポート一覧

LogVillagePS から管理対象 PC への接続には以下の通信ポートを使用します。

No.	プロトコル	通信手段	LogVillagePS 側 ポート番号	通信方向	管理対象 PC 側 ポート番号
1	TCP	NETBIOS セッションサービス	any	LogVillagePS→PC	139
2		NETBIOS セッションサービス	any	No.1 の return	139
3		SMB サービス	any	LogVillagePS→PC	445
4		SMB サービス	any	No.3 の return	445
5		RPC ポート・マッパ	any	LogVillagePS→PC	135
6		RPC ポート・マッパ	any	No.5 の return	135
7		RPC 動的ポート *1	any	LogVillagePS→PC	1024～65535 間の 任意の 20 ポート
8		RPC 動的ポート *1	any	No.7 の return	1024～65535 間の 任意の 20 ポート
9	UDP	NetBIOS 名前サービス	any	LogVillagePS→PC	137
10		NetBIOS 名前サービス	any	No.9 の return	137
11		NetBIOS データグラム・サービス	any	LogVillagePS→PC	138
12		NetBIOS データグラム・サービス	any	No.11 の return	138
13	ICMP	使用しません			

*1 開放するポートが連続している必要はありません。

20 ポートの開放は、RPC（リモートプロシージャコール）を行う際に Microsoft 社より推奨されている設定となります。

2) 必須条件

- －NetBIOS over TCP/IP (NBT) での通信。
- －LogVillagePS より管理対象 PC の名前解決。
- －管理対象 PC に対する LogVillagePS よりアクセスするための設定変更。

* 「7. 管理対象 PC の設定変更」を参照してください。

3) アクセス可否の確認方法

LogVillagePS をインストールする PC の「コマンド プロンプト」より以下のコマンドを実行することにより LogVillagePS からのアクセスの可否を確認できます。

※必ず、管理対象 PC の設定変更を行ってから実行してください。

```
NET USE /USER:<*A> ¥¥<*B>¥IPC$
```

*A：管理対象 PC の管理者権限を有するアカウント名

ActiveDirectory 環境の場合は、<ドメイン名>¥<ユーザー名>

ex) so-ten. local¥logvillage

*B：管理対象 PC のコンピュータ名

○アクセスが OK の場合

```
C:¥>net use /User:< *A> ¥¥<*B>¥ipc$
```

¥¥<*B>¥ipc\$ のパスワードまたはユーザー名が無効です。

' *A' のパスワードを入力してください。' *B' に接続します：

<*A のパスワードを入力>

コマンドは正常に終了しました。

○FireWall 等の影響によるアクセス不可の場合

```
C:¥>net use /User:< *A> ¥¥<*B>¥ipc$
```

システム エラー 53 が発生しました。

ネットワーク パスが見つかりません。

※上記のエラーが発生した場合は以下をご確認ください。

- ・管理対象 PC の設定漏れ
- ・NetBIOS 接続の可否。(NetBIOS 接続が可能である必要があります)
- ・Windows 標準以外のファイアウォールが有効となっている場合、該当ファイアウォールの設定変更が必要です。

○パスワード間違いまたは管理対象 PC の未設定の場合のアクセス不可の場合

```
C:¥>net use /User:< *A> ¥¥<*B>¥ipc$
```

システム エラー 1326 が発生しました。

ログオン失敗：ユーザー名を認識できないか、
またはパスワードが間違っています。

※上記のエラーが発生した場合は以下のをご確認ください。

- ・管理対象 PC の設定漏れ。
- ・パスワード間違い

4) 接続確認ツール

LogVillagePS のインストール後はタスクトレイより接続確認用のツールが利用できます。

タスクトレイアイコンを右クリックし、「接続確認」を選択してください。

操作方法の詳細は別紙接続確認ツールマニュアルをご参照ください。

3-3. 管理対象 PC 情報の準備

管理対象 PC 情報の準備について説明します。

1) 必要となる管理対象 PC 情報

LogVillage で管理するには、管理対象 PC に関する以下の情報を事前に準備しておく必要があります。

- ・ コンピュータ名 (NetBIOS 名)
- ・ 管理者権限を有するアカウント名
- ・ 上記アカウントのパスワード

2) 登録用管理対象 PC 情報の準備

管理対象 PC を LogVillage へ登録する方法は以下の 3 通りの何れかになります。

- ① 登録用 CSV ファイルを作成し「管理対象 PC の設定」画面より一括インポート登録を行います。

<< CSV ファイルの例 >>

■WORKGROUP 環境の場合

```
コンピュータ名, ユーザー名, パスワード, グループ名, ポーリングサーバー名,  
PC-NAME1, user1, passwd1, ALL, ps1,  
PC-NAME2, user2, passwd2, ALL, ps1,  
PC-NAME3, user3, passwd3, ALL, ps1,  
PC-NAME4, user4, passwd4, ALL, ps1,
```

■ActiveDirectory 環境の場合

```
コンピュータ名, ユーザー名, パスワード, グループ名, ポーリングサーバー名  
PC-NAME1, user.local¥logvillage, passwd1, ALL, ps1,  
PC-NAME2, user.local¥logvillage, passwd1, ALL, ps1,  
PC-NAME3, user.local¥logvillage, passwd1, ALL, ps1,  
PC-NAME4, user.local¥logvillage, passwd1, ALL, ps1,
```

- ② 「管理対象 PC の設定」画面より 1 台ずつマニュアル登録を行います。
- ③ 「管理対象 PC 自動設定ツール」 (オプション製品) により自動登録を行います。
※WORKGROUP 環境のお客様にてご利用いただくツールとなります。

4. LogVillageMGR のインストール

LogVillageMGR のインストールについて説明します。

4-1. LogVillageMGR のインストール

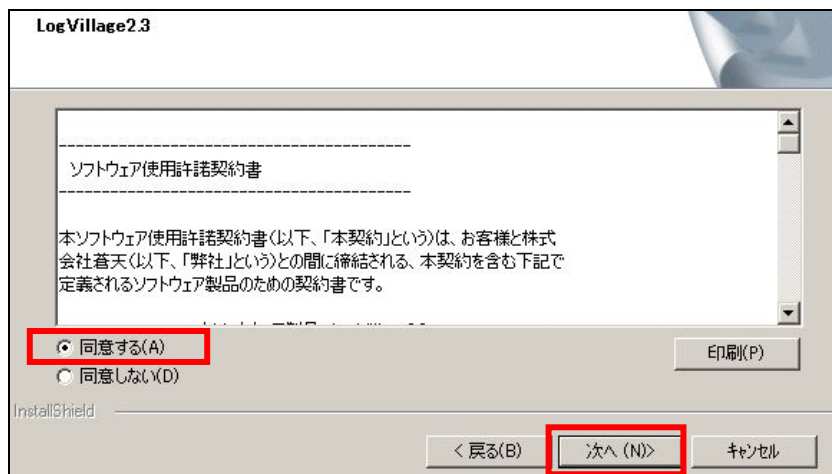
- ① Setup.exe を実行します。
CD-ROM 内 Installer フォルダ下の Manager フォルダを開きます。
Setup.exe をダブルクリックします。



- ② 内容を確認し「次へ」をクリックします。
「次へ」をクリックします。

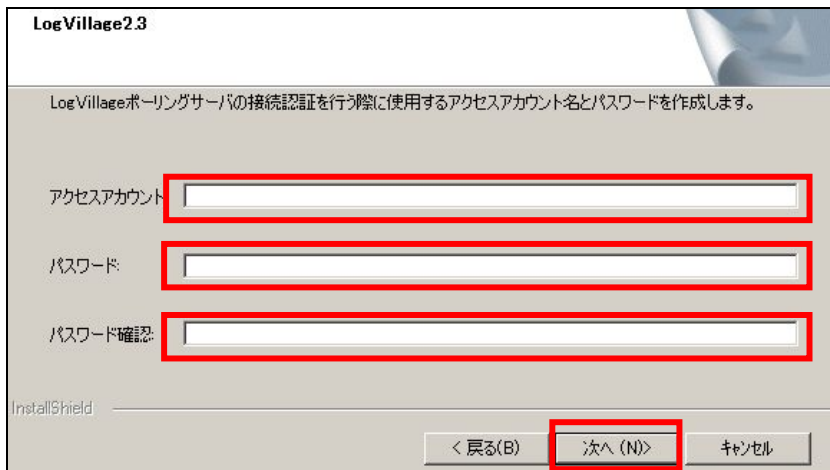


ソフトウェア使用許諾契約書を確認し、問題なければ「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。



③ 必要情報を入力します。

任意のアクセスアカウント、パスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

The screenshot shows the 'LogVillage2.3' installation window. The title bar says 'LogVillage2.3'. Below the title bar, there is a message: 'LogVillageポーリングサーバの接続認証を行う際に使用するアクセスアカウント名とパスワードを作成します。' (Create an access account name and password to be used for connection authentication of the LogVillage polling server). There are three input fields: 'アクセスアカウント' (Access Account), 'パスワード' (Password), and 'パスワード確認' (Password Confirmation). Each field is highlighted with a red rectangle. At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ (N)>' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ (N)>' button is highlighted with a red rectangle.

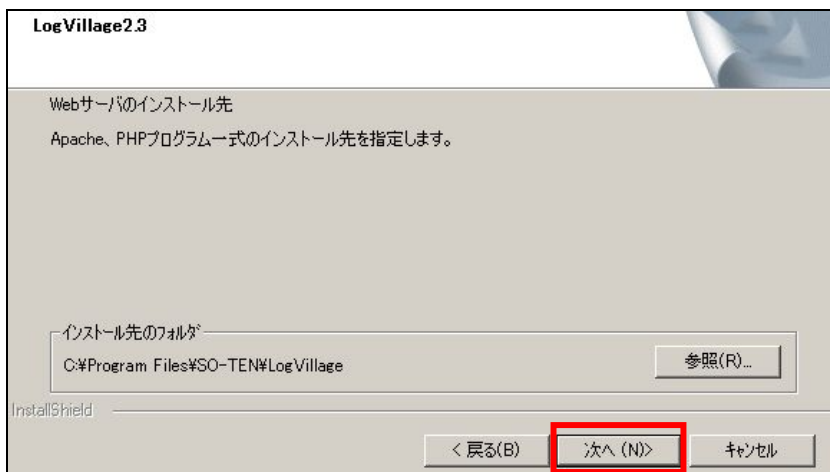
アクセスアカウント、パスワードは「5-2. LogVillagePS のセットアップ」時で必要になりますので、大切に保管下さい。

忘れると、LogVillagePS のセットアップが行えませんのでご注意下さい。

④ Web サーバ(Apache)、Web アプリケーション(PHP) プログラム一式のインストール先を指定します。

LogVillageMGR プログラムのインストール先フォルダを変更しない場合は「次へ」をクリックします。

インストール先を変更する場合は、参照からインストール先フォルダを指定後、「次へ」をクリックします。

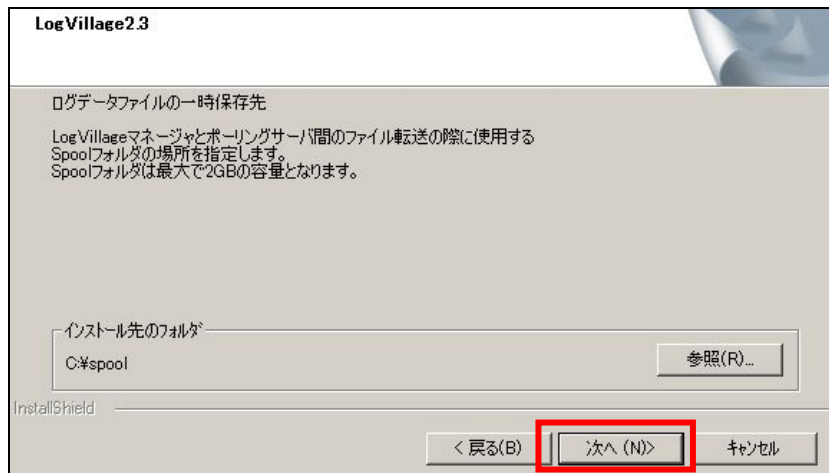
The screenshot shows the 'LogVillage2.3' installation window. The title bar says 'LogVillage2.3'. Below the title bar, there is a message: 'Webサーバのインストール先' (Web server installation destination) and 'Apache、PHPプログラム一式のインストール先を指定します。' (Specify the installation destination for Apache, PHP programs, etc.). There is a text box labeled 'インストール先のフォルダ' (Installation destination folder) containing the path 'C:\Program Files\S0-TEN\LogVillage'. To the right of the text box is a button labeled '参照(R)...' (Browse...). At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ (N)>' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ (N)>' button is highlighted with a red rectangle.

LogVillage マネージャとポーリングサーバ間のファイル転送の際に使用する spool フォルダの場所を指定します。この spool フォルダは最大で 2GB の容量となります。

spool のインストール先フォルダを変更しない場合は「次へ」をクリックします。

インストール先を変更する場合は、参照からインストール先フォルダを指定後、「次へ」をクリックします。

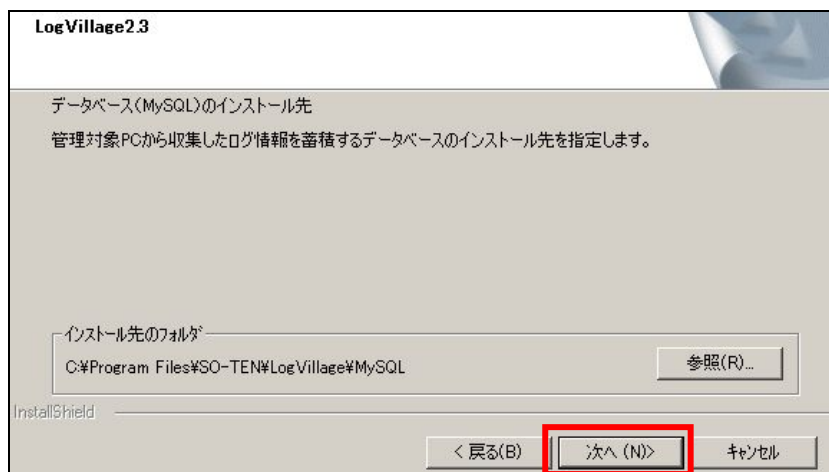
※管理対象 PC に MacOSX が含まれる場合、デフォルト「C:\\$pool」のまま変更しないでください。



データベース (MySQL) のインストール先を指定します。

変更しない場合は「次へ」をクリックします。

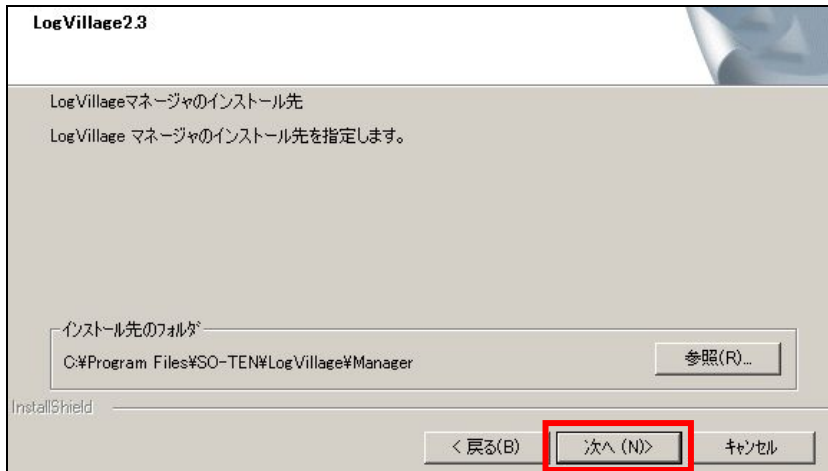
インストール先を変更する場合は、参照からインストール先フォルダを指定後、「次へ」をクリックします。



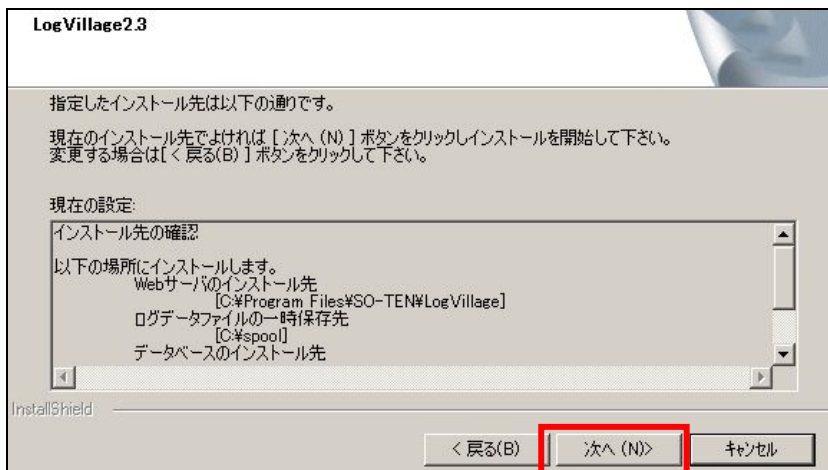
LogVillage マネージャのインストール先を指定します。

変更しない場合は「次へ」をクリックします。

インストール先を変更する場合は、参照からインストール先フォルダを指定後、「次へ」をクリックします。



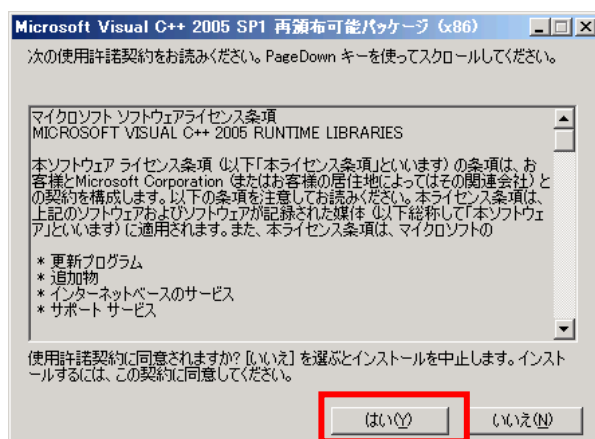
設定内容を確認し、問題なければ「次へ」をクリックします。



LogVillage マネージャでは、マイクロソフト社製の“microsoft Visual C++ 2005 再配布可能パッケージ”を利用しています。

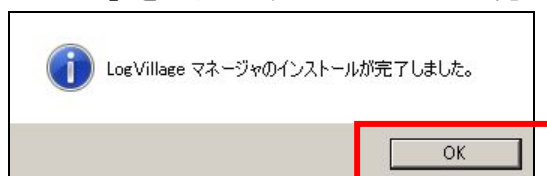
そのため、以下のマイクロソフト ソフトウェアライセンス条項に同意いただく必要があります。

Microsoft Visual C++ 2005 使用許諾書を確認し「はい」をクリックします。



⑤ インストールが開始されますので、数分間お待ち下さい。

⑥ インストールの完了を確認します。
「OK」をクリックするとインストール完了です。



4-2. LogVillageMGR のライセンス登録

LogVillageMGR のライセンス登録について説明します。

- ① LogVillage 管理画面にログインします。

Internet Explorer を起動します。

以下の URL にアクセスすると LogVillage ログイン画面が表示されます。

`http://<LogVillageMGR のコンピュータ名>/lv/login/`

「ユーザー名」「パスワード」を入力し「ログイン」をクリックします。

インストール直後のログインユーザー名、パスワードは以下となります。

- ・ユーザー名 so-ten
- ・パスワード so-ten

※LogVillage ユーザーの設定後は以下の ID は無効となります。

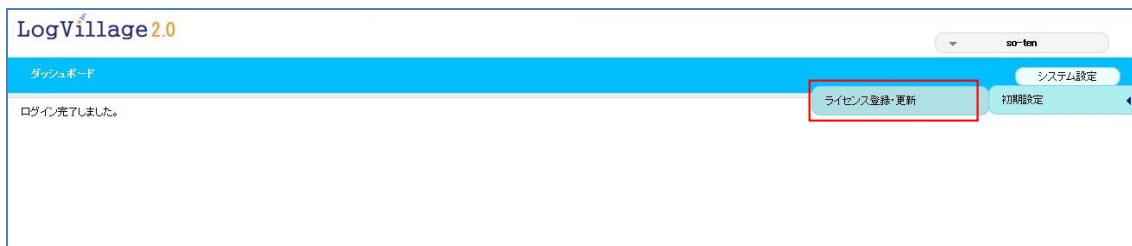
※ご利用ブラウザについて

LogVillageMGR の対応ブラウザは Internet Explorer 6、7、8 となります。

但し、Internet Explorer 6 をご利用いただいた場合、「システム設定」画面の左サイドメニューの一部が表示されない場合があります。この場合、ページ更新を行っていただくことで表示可能となります。

蒼天では、Internet Explorer 7、8 のご利用を強く推奨いたしております。

- ② 「ライセンス登録・更新」画面を開きます。
「システム設定」→「ライセンス登録・更新」をクリックします。



- ③ ライセンスを更新します。
「ライセンス更新」をクリックします。



「LogVillage2.0 ライセンスコード通知書」に記載されているライセンスコードを入力し、
「登録する」をクリックします。



④ 登録完了を確認します。

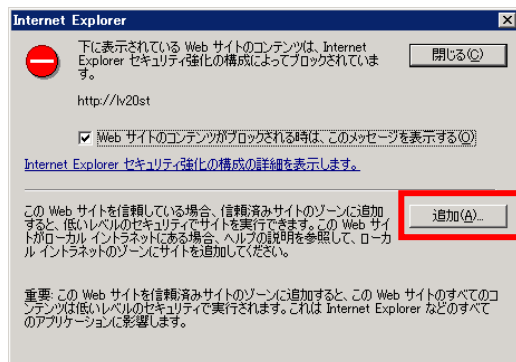
ご購入いただいたライセンス情報が正しく表示されていることをご確認下さい。



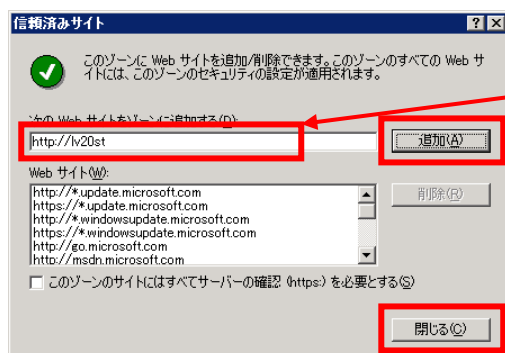
【ご注意ください】

Internet Explorer にて上記操作時に以下の画面が表示される時は、LogVillageMGR の画面を信頼済みサイトに登録する必要があります。

① 「追加」をクリックします。



② 「追加」をクリックし、「閉じる」をクリックします。



http:// [LogVillageMGR のコンピュータ名] が表示されていることを確認してから追加してください。

5. LogVillagePS のインストール

5-1. インストールおよび運用環境について

5-1-1. LogVillagePS インストール時の環境

LogVillagePS のインストールは「WorkGroup」環境で行ってください。

「ActiveDirectory」に参加している状態で LogVillagePS のインストールを行うと、正常動作が行えません。

サーバに PS をインストールする時の環境	動作
WorkGroup	○
ActiveDirectory	×

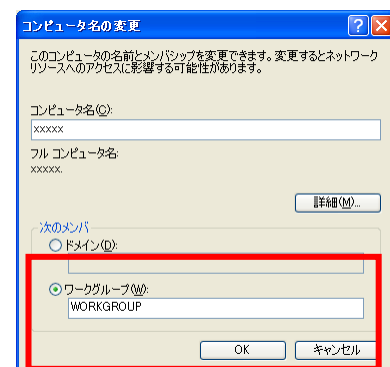
※現在の環境を確認する方法

「マイコンピュータ」を右クリック「プロパティ」を選択します。

「システムのプロパティ」の「コンピュータ名」タブを開き、「変更」ボタンを押下します。

「次のメンバ」が「ドメイン」の場合は「ActiveDirectory」に参加しています。

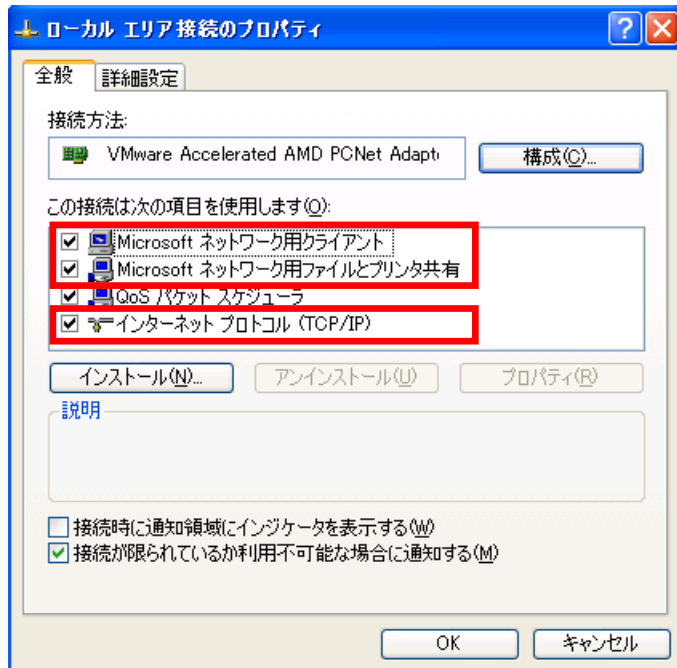
「ワークグループ」の状態ですインストールを実施します。



5-1-2. LogVillagePS のインストール環境

(1) 管理対象 PC の「ファイルとプリンタ共有」がインストールされている事

使用中の「ローカルエリア接続」（または「ワイヤレスネットワーク接続」など）に「Microsoft ネットワーク用クライアント」と「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」、「インターネットプロトコル」がインストールされており、かつ、有効になっている事が前提条件です。



「ローカルエリア接続」（または「ワイヤレスネットワーク接続」など）が無効になっている場合は、ネットワーク接続ができない状態です。有効にしてください。

名前	種類	状態
LAN または高速インターネット		
ローカル エリア接続	LAN または...	無効
ローカル エリア接続 3	LAN または...	無効
ワイヤレス ネットワーク接続	LAN または...	無効

※「Microsoft ネットワーク用クライアント」と「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」の詳細に関しては、以下の URL をご参照ください。

ネットワークとダイヤルアップ接続を構成する

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc758082\(ws.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc758082(ws.10).aspx)

(2)分散 COM 設定が有効となっている事

① 「コンポーネントサービス」を起動します。

・Windows XP・Windows7 の場合

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンポーネント サービス」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいア

アイコン」の選択が必要です。

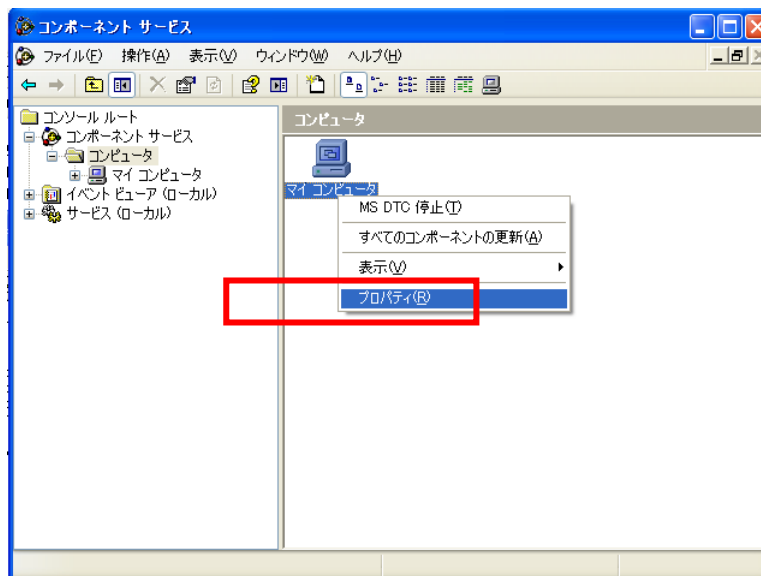
・ WindowsVista の場合

“Windows スタートメニュー”→「ファイル名と指定して実行」で「Comexp. msc」を実行します。

② 「マイコンピュータ」のプロパティを開きます。

「コンソール ルート」→「コンポーネント サービス」→「コンピュータ」→「マイ コンピュータ」を開きます。

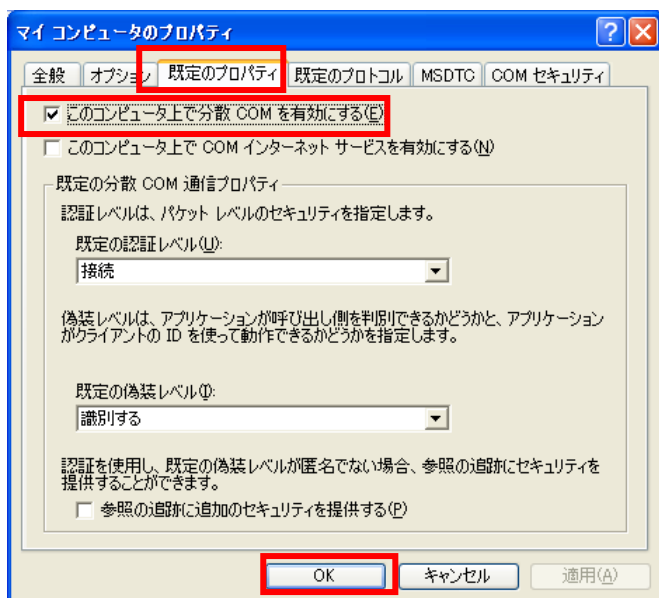
「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。



③ 「このコンピュータ上で分散 COM を有効にする」を変更します。

「既定のプロパティ」タブを開きます。

「このコンピュータ上で分散 COM を有効にする」にチェックが入っている事を確認し、「OK」をクリックします。



(3) 「ネットワークセキュリティ LAN Manager 認証レベル」の確認

◆LogVillagePS 運用時の注意点

管理対象 PC に比べ、LogVillagePS をインストールしたサーバのセキュリティレベルが低い場合、設定変更が必要です。

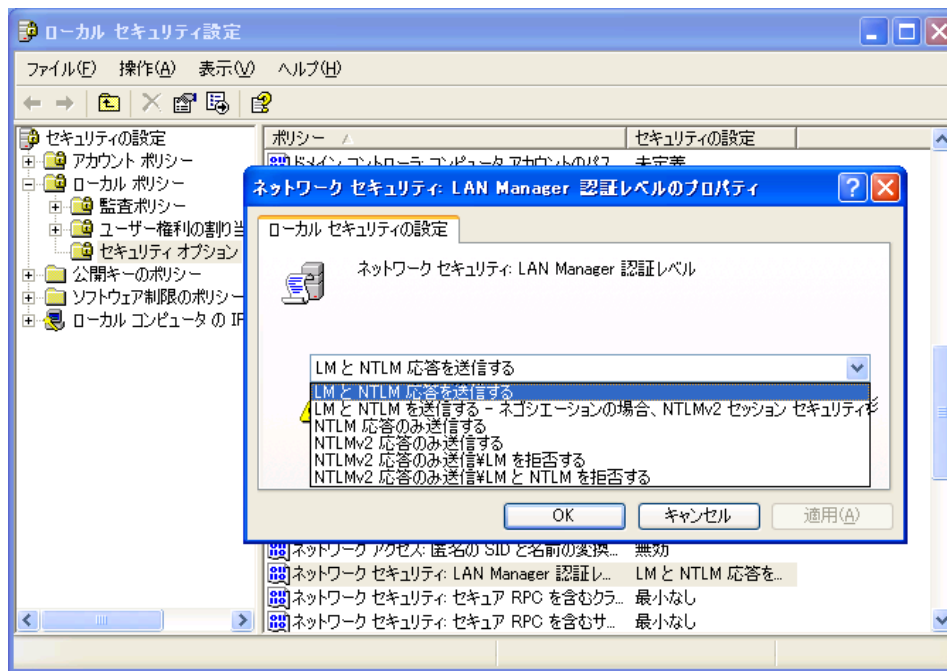
例えば、管理対象 PC で最高レベルの「NTLMv2 応答のみを送信（LM と NTLM を拒否する）」を選択し、LogVillagePS 側で「LM と NTLM 応答を送信する」（XP の初期設定）を選択した場合、ログ収集が行えません。

「ネットワークセキュリティ LAN Manager 認証レベル」のセキュリティレベルを「NTLMv2 応答のみを送信（LM と NTLM を拒否する）」に設定することを推奨します。

但し、セキュリティレベルの変更に伴い、LogVillagePS をインストールしたサーバから他の NAS サーバ等に対するアクセスに影響が出る可能性があるのでご注意ください。

- ① 「ローカルセキュリティポリシー」を起動します。
「Windows スタートメニュー」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンポーネント サービス」を起動します。
- ② 「セキュリティオプション」を開きます。
「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「監査ポリシー」を開きます。
- ③ 「ネットワークセキュリティ LAN Manager 認証レベル」を確認します。

「LM と NTLM 応答を送信する」が最低レベルで、順にレベルが上がり「NTLMv2 応答のみ送信
#LM と NTLM を拒否する」が最高レベルです。



(4) UAC (ユーザアカウント制御) 機能を停止

インストール時は、UAC 機能を停止にさせていただく必要があります。

・ Windows7 の UAC 停止手順

(他の WindowsOS におきましては、画面構成等が異なる場合がありますが同様の設定をお願いいたします)

① 「ユーザー アカウント」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「ユーザー アカウント」を起動します。

※「ユーザー アカウント」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

② 「ユーザー アカウント制御設定の変更」を変更します。

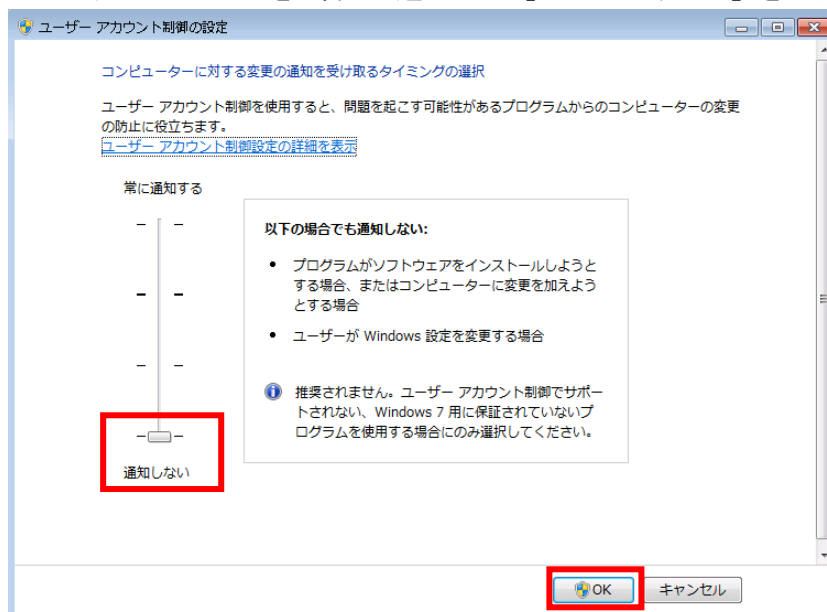
「ユーザー アカウント制御設定の変更」をクリックします。



下図が表示された場合は、「はい」をクリックします。

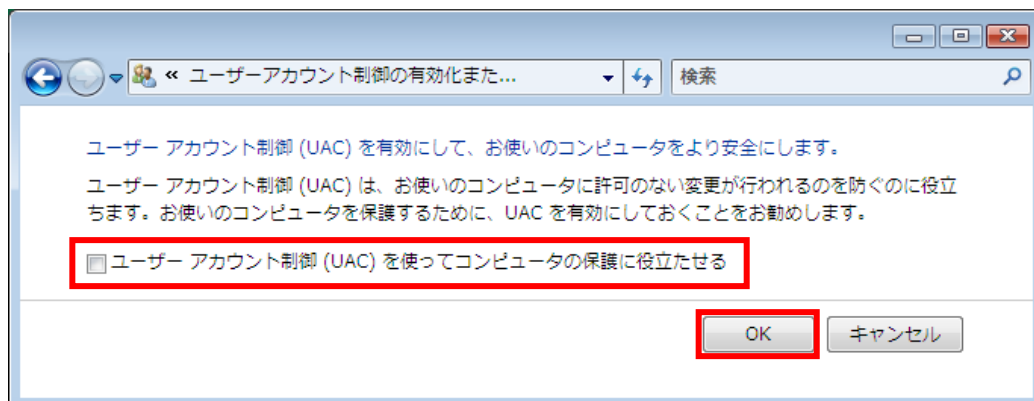


スライダのつまみを一番下「通知しない」まで下げ、「OK」をクリックします。



※OS により、下図場合があります。

その場合は「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立てる」のチェックを外し、「OK」をクリックします。



下図が表示された場合は、「はい」をクリックします。



アプリケーションを終了し、OS を再起動します。

5-2. LogVillagePS のインストール手順

LogVillagePS のインストール手順について説明します。

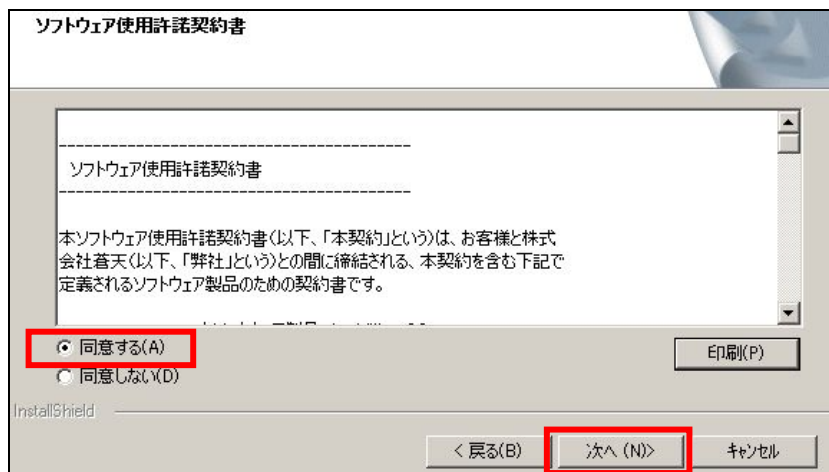
- ① Windows 管理者権限アカウントでログインし、Setup.exe を実行します。
CD-ROM 内 Installer フォルダ下の PServer フォルダを開きます。
Setup.exe をダブルクリックします。



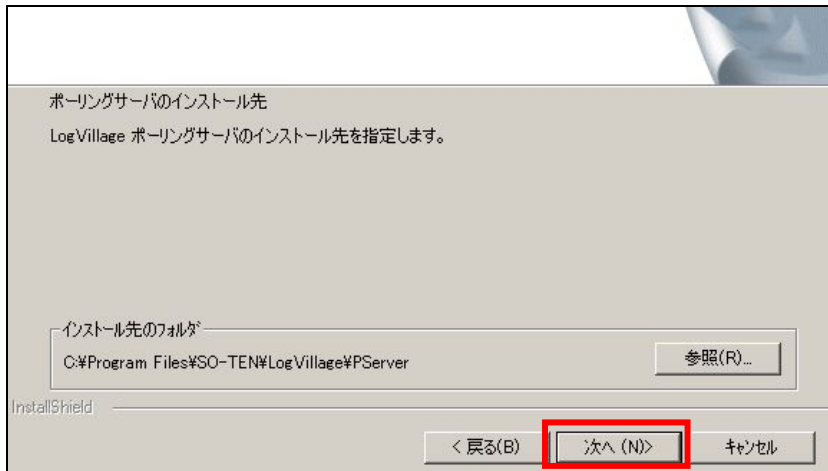
- ② 内容を確認し「次へ」をクリックします。
「次へ」をクリックします。



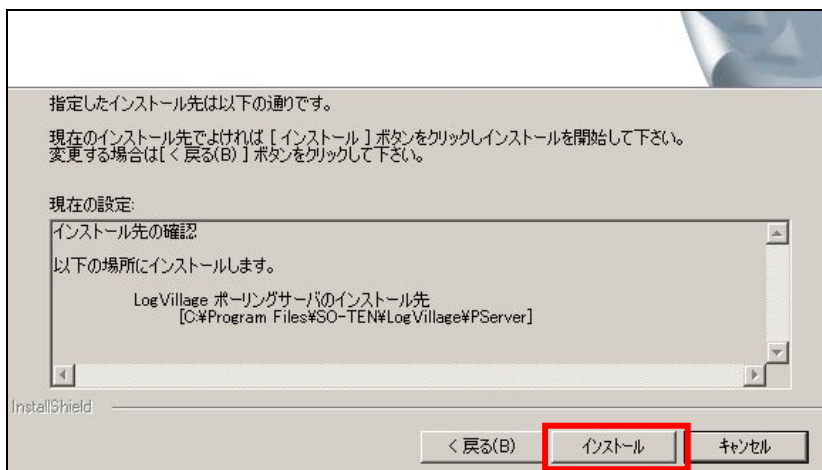
ソフトウェア使用許諾契約書を確認し、問題なければ「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。



LogVillagePS のインストール先フォルダを変更しない場合は「次へ」をクリックします。
インストール先を変更する場合は、参照からインストール先フォルダを指定後、「次へ」をクリックします。

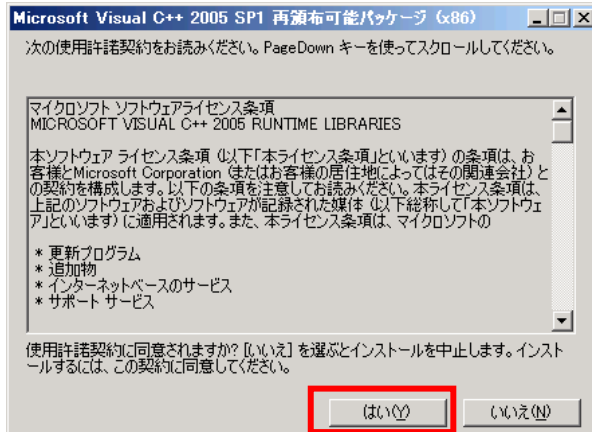


- ③ 「インストール」を実行します。
「インストール」をクリックします。



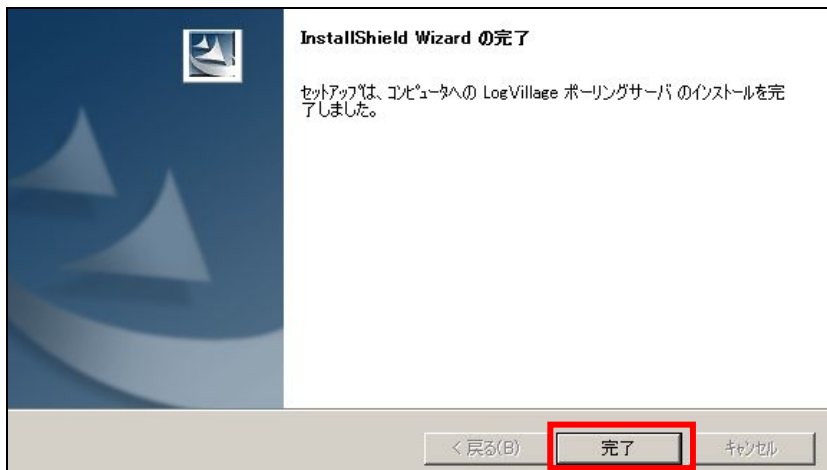
LogVillage マネージャでは、マイクロソフト社製の“Microsoft Visual C++ 2005 再配布可能パッケージ”を利用しています。

そのため、以下のマイクロソフト ソフトウェアライセンス条項に同意いただく必要があります。
Microsoft Visual C++ 2005 使用許諾書を確認し「はい」をクリックします。



※既に Microsoft Visual C++ 2005 がインストールされている場合は、上記画面は表示されません。

- ④ インストール完了まで、しばらく待ちます。
- ⑤ インストールの完了を確認します。
「完了」をクリックするとインストール完了です。



5-3. LogVillagePS のセットアップ

LogVillagePS のセットアップ手順について説明します。

- ① 「LV_TaskTray (PS) の起動」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「すべてのプログラム」→「SO-TEN」→「LogVillage 2.0 ポーリングサーバー」→「LV_TaskTray (PS) の起動」をクリックします。

- ② LogVillagePS の設定内容を入力します。

- a. 任意の LogVillagePS 名を決定します。
- b. LogVillageMGR をインストールした PC のコンピュータ名、もしくは IP アドレス名を入力します。
- c. LogVillageMGR をインストールしたときに設定したアクセスアカウント名を入力します。*1
- d. LogVillageMGR をインストールしたときに設定したアクセスアカウント名のパスワードを入力します。*1
- e. 確認用でパスワードをもう一度入力します。
- f. 「登録」をクリックします。

承認中を知らせるダイアログが表示されます。

しばらくお待ちいただくと自動的に消えますので、ダイアログが消えた後、次に進んでください。

*1 c, d への入力内容は、「4-1. LogVillageMGR のインストール」の「③」で登録したアクセスアカウント、パスワードとなります。

- ③ LogVillage 管理画面にログインします。

Internet Explorer を起動します。

以下の URL にアクセスすると LogVillage ログイン画面が表示されます。

<http://<LogVillageMGRのコンピュータ名>/lv/login/>

④ LogVillage PS の登録の確認を行います。

「システム設定」→「初期設定」→「ポーリングサーバ」をクリックします。



インストールした LogVillagePS が「承認済み」として、リストに表示されていれば LogVillagePS のセットアップは完了です。



【メモ】

初期設定が全て完了するまで、サイドメニュー上部に「初期設定」メニューが表示されます。

そのため、以下の設定項目が「初期設定」と「共通設定」または「グループ単位設定」に2重で表示されますのでご注意ください。

・ライセンス登録・更新 ・ポーリングサーバ ・管理対象PC ・ログ収集スケジュール

2重で表示される設定項目は、どちらをクリックいただいても問題ありません

6. LogVillage の初期設定

LogVillage の初期設定について説明します。

6-1. 初期設定項目と設定方法

初期設定項目	設定方法	
	「システム設定」画面	設定内容
(手順1) ライセンスを登録する	「共通設定」 → 「ライセンス登録・更新」	<ul style="list-style-type: none"> ・LogVillageMGR のインストール直後： LogVillage へのログイン後、「システム設定」メニューのみ表示されています。 ・ライセンスコードを登録 ライセンスコードに応じたメニューが表示されます。
(手順2) LogVillagePS を登録する	「共通設定」 → 「ポーリングサーバ」	<ul style="list-style-type: none"> ・LogVillagePS の登録： LogVillagePS 側より登録することで “ステータス=承認済み” となり登録が完了
(手順5) 管理対象 PC を登録する	「共通設定」 → 「管理対象 PC」	<ul style="list-style-type: none"> ・一括登録： CSV ファイルより一括登録 ・一台ずつ登録： 本画面より登録 ・自動登録： 管理対象 PC 自動設定ツール (オプション) により自動登録
(手順6) ログ収集のスケジュールを設定する	「グループ単位設定」 → 「ログ収集スケジュール」	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に設定可能 ・ログの種類別に設定可能

【メモ】

初期設定が全て完了するまで、サイドメニュー上部に「初期設定」メニューが表示されます。

そのため、以下の設定項目が「初期設定」と「共通設定」または「グループ単位設定」に2重で表示されますのでご注意ください。

・ライセンス登録・更新 ・ポーリングサーバ ・管理対象 PC ・ログ収集スケジュール

2重で表示される設定項目は、どちらをクリックいただいても問題ありません。

6-2. LogVillagePS を複数台設置した場合の管理対象 PC との関係

LogVillagePS を複数台設置した場合の管理対象 PC との関係について説明します。

複数の LogVillagePS を設置した場合、各々の管理対象 PC が所属する LogVillagePS を指定してください。

※指定方法

「システム設定」→「管理対象 PC の設定」画面より、各々の管理対象 PC が所属する PS の指定を行うことができます。

6-3. ログ収集の仕組みと注意点

ログ収集の仕組みと注意点について説明します。

6-3-1. ログ収集スケジュール

ログ収集スケジュールについて説明します。

LogVillage では、以下のログ収集の種類毎に独立した収集スケジュールを設定出来ます。

ログ収集の種類	関係するログ表示画面
サービス	(稼働管理) ・ サービス稼働時間
インベントリ	(資産管理) ・ PC 資産管理台帳→ハードウェア台帳
ウィルス定義ファイル	(稼働管理) セキュリティ対策更新状況 →ウィルス対策ソフト定義ファイルの更新状況
インベントリ	(資産管理) ・ PC 資産管理台帳→ハードウェア台帳
アプリケーション	(稼働管理) ・ アプリケーションインストール履歴 ・ セキュリティ対策更新状況 →WindowsUpdate の適用状況 (資産管理) ・ PC 資産管理台帳→ソフトウェア台帳 ・ 指定アプリケーションの表示
外部記憶デバイス	(操作管理) ・ デバイス接続履歴
Web アクセス履歴	(操作管理) ・ Web アクセス履歴
パフォーマンス・プロセス	(稼働管理) ・ パフォーマンスログ ・ プロセス稼働時間
イベントログ	(稼働管理) ・ イベントログ (操作管理) ・ 印刷履歴 ・ ログオン・オフ履歴
ファイル	(ファイル管理) USB 接続の外部記憶デバイスの情報を自動収集する場合は、デバイス情報をチェックしてください。

※ご購入いただいた機能に限って設定可能です。

Copyright © 2007- 2012 S0-TEN, Inc. All Rights Reserved.

6-3-2. ログ収集タイミング

ログ収集タイミングについて説明します。

管理対象 PC が LogVillagePS からアクセス出来るネットワーク上に接続されていない間のログ情報については以下の通りとなります。

- 1) 前回のネットワーク切断時点から再接続時まで遡ってログ情報が収集できる情報
 - ・アプリケーション情報
 - ・イベントログ情報
 - ・Web アクセス履歴情報
- 2) 接続毎に、最新情報を収集する情報
 - ・WMI 情報
 - ・ウィルス定義ファイル情報
- 3) 前回のネットワーク切断時点から再接続時までのログ情報が収集できない情報
 - ※ログ収集時の情報のみ取得
 - ・外部記憶デバイス情報
 - ・パフォーマンス・プロセス情報
 - ・サービス情報
 - ・ファイル情報

7. 管理対象 PC の設定変更

管理対象 PC の設定変更について説明します。

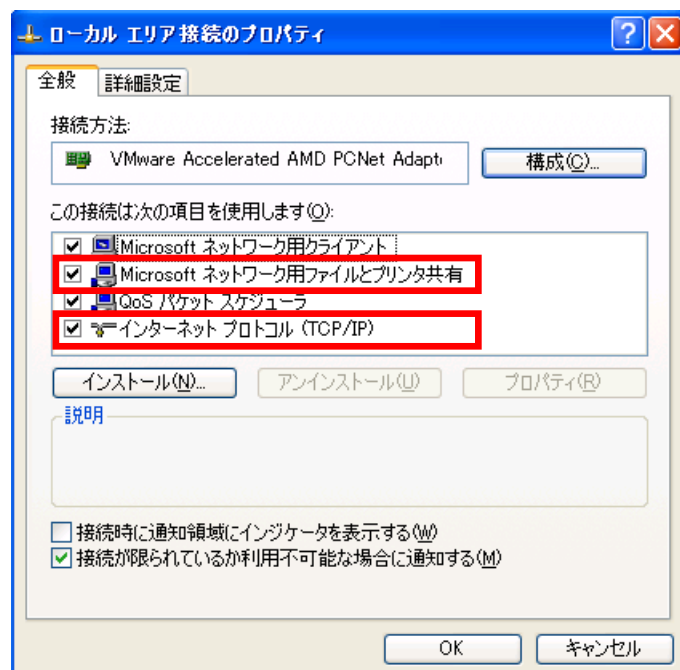
前提条件

- ・管理対象 PC がネットワークに参加している事

※「3-2. LogVillagePS→管理対象 PC へのアクセス確認」を参照してください。

- ・管理対象 PC の「ファイルとプリンタ共有」がインストールされている事

使用中の「ローカルエリア接続」（または「ワイヤレスネットワーク接続」など）に「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」と「インターネットプロトコル」がインストールされており、かつ、有効になっている事が前提条件です。



「ローカルエリア接続」（または「ワイヤレスネットワーク接続」など）が無効になっている場合は、ネットワーク接続ができない状態です。有効にしてください。

名前	種類	状態
LAN または高速インターネット		
ローカル エリア接続	LAN または...	無効
ローカル エリア接続 3	LAN または...	無効
ワイヤレス ネットワーク接続	LAN または...	無効

※「Microsoft ネットワーク用クライアント」と「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」の詳細に関しては、以下の URL をご参照ください。

ネットワークとダイヤルアップ接続を構成する

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc758082\(ws.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc758082(ws.10).aspx)

7-1. 設定変更項目の一覧

設定変更項目の一覧について説明します。

以下に管理対象 PC の設定変更一覧を示します。

設定項目	Windows 2000	Windows Server 2003	Windows XP *1	Windows Vista *2	Windows 7 *3	Windows Server 2008
リモートレジストリサービス 「リモートコンピュータからレジストリ情報を参照できるように設定」	○	○	○	○	○	○
プリンターログ 「イベントログに印刷履歴を保存されるように設定する」	○	○	○	○	○	○
アカウント・ログオンログ 「イベントログにログオン・ログオフ情報を保存されるように設定」	○	○	○	○	○	○
ネットワークアクセス時のアカウント認証方法 「リモートコンピュータからのアクセス時に登録されているローカルアカウント名で認証が行われるように変更」	設定変更の必要なし	○	○	○	○	○
DCOM リモート起動のアクセス許可 「リモートコンピュータから WMI 情報にアクセスできるように設定を変更」	設定変更の必要なし	○	○	○	○	○
ファイアウォール 「リモートコンピュータからアクセスを許可するためにファイアウォールを変更」	設定変更の必要なし	○	○	○	○	○
UAC 機能の停止 「UAC 機能を停止するように変更」	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし	○	○	○
ディスクパフォーマンスログ 「ディスクパフォーマンスデータを収集されるように設定」	○	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし	設定変更の必要なし

*1 : Home Edition はサポート外

*2 : Home Basic、Home Premium はサポート外

*3 : Starter、Home Basic、Home Premium はサポート外

7-2. 設定変更の方法

設定変更の方法について説明します。

1) ActiveDirectory 環境の場合

グループポリシー機能により設定変更が可能です。

※「7-4. ActiveDirectory 環境での管理対象 PC 設定内容」をご参照ください。

2) WorkGroup 環境で管理対象 PC の管理者アカウント、パスワード情報を有する場合

管理対象 PC 自動設定ツール（オプション）にて自動設定が可能です。

※「9. 管理対象 PC 設定ツール（オプション）」をご参照ください。

3) WorkGroup 環境で管理対象 PC の管理者アカウント、パスワード情報を有しない場合

管理対象 PC 自動設定ツール（オプション）にて、管理者アカウント、パスワードの自動生成および自動設定が可能です。

※「9. 管理対象 PC 設定ツール（オプション）」をご参照ください。

4) その他

WorkGroup 環境での管理対象 PC に対するマニュアル操作での設定変更となります。

※「7-3. WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容」をご参照ください。

7-3. WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容

WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容について説明します。

手動で管理対象 PC の設定内容を変更する場合、以下の項目を変更します。

□	1	リモートレジストリーサービス
	目的	アプリケーション情報など、レジストリ情報を必要とするログの収集が可能となります。
	設定内容	・「サービス」の以下を「自動」「開始」に変更します。 「Remote Registry」
□	2	プリンターログ設定
	目的	印刷履歴のログが残るように変更します。
	設定内容	◇WindowsXP, WindowsVista ・「プリント サーバープロパティ」の以下を有効にします。 「スプーラーの情報イベントのログを収集」 ◇Windows7 ・Windows7 の管理対象 PC には設定変更の必要はありません。 LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。
□	3	アカウント・ログオン・ログ
	目的	ログオン・ログオフの履歴が残るように変更します。
	設定内容	・「ローカル セキュリティ ポリシー」の以下の「成功」を有効にします。 「アカウントログオンイベントの監査」 「ログオンイベントの監査」 ・「セキュリティログの最大サイズ」変更します。
□	4	ネットワークアクセス時のアカウント認証方法
	目的	LogVillagePS からの通信に必要な設定で、ネットワークログオンの認証方法を変更します。
	設定内容	・「ローカル セキュリティ ポリシー」の以下を「クラシック - ローカル ユーザーがローカル ユーザーとして認証する」に変更します。 「ネットワーク アクセス:ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル」
□	5	DCOM リモート起動のアクセス許可
	目的	WMI (ハードウェア台帳など) の WMI 情報を必要とするログの収集が可能となります。
	設定内容	・「コンポーネントサービス」の「起動とアクティブ化のアクセス許可」で以下の「許可」を有効にします。 「リモートからの起動」 「リモートからのアクティブ化」 ・「このコンピュータ上で分散 COM を有効にする」を有効にします。

□	6	ファイアウォール
	目的	LogVillagePSからの通信に必要な設定で、ログ収集に必要な通信をブロックしないように変更します。
	設定内容	<p>◇WindowsXPの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下を無効にします。 「例外を許可しない」 ・「例外」で「以下を有効にします。 「ファイルとプリンタの共有」 ・「例外」で以下を作成します。 「TCP135 用のポート設定」 「DCOM 用のポート（約 20 ポート）」 <p>◇WindowsVistaの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下を無効にします。 「すべての着信をブロックする」 ・「例外」で以下を有効にします。 「Windows Management Instrumentation (WMI)」 「ファイルとプリンタの共有」 <p>◇Windows7の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下を無効にします。 「許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする」 ・「例外」で以下を有効にします。 「Windows Management Instrumentation (WMI)」 「ファイルとプリンタの共有」
□	7	UAC 機能の停止
	設定内容	<p>目的 LogVillagePSからの情報収集に必要な設定で、管理者への昇格を求めない状態に変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」の以下のチェックを外します。 「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立てる」 ・または「ユーザー アカウント制御設定の変更」を以下に変更します。 「通知しない」
□	8	ディスク・パフォーマンス・ログ
	設定内容	<p>目的 ディスクの空き容量などを残すため、パフォーマンス・カウンタを記録するように変更します。</p> <p>設定内容 コマンドプロンプトから以下を実行します。(Windows2000のみ) 「diskperf -Y」</p>

※チェックリストとしてご利用ください。

1)リモートレジストリーサービス

LogVillage では、レジストリより様々なデータを収集しています。このサービスが実行されていない場合 PC 利用状況やアプリケーション情報等のデータが収集されません。

WindowsVista、Windows7 以外は、通常本サービスは起動されているため、設定変更は不要です。

① 「サービス」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※WindowsVista の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

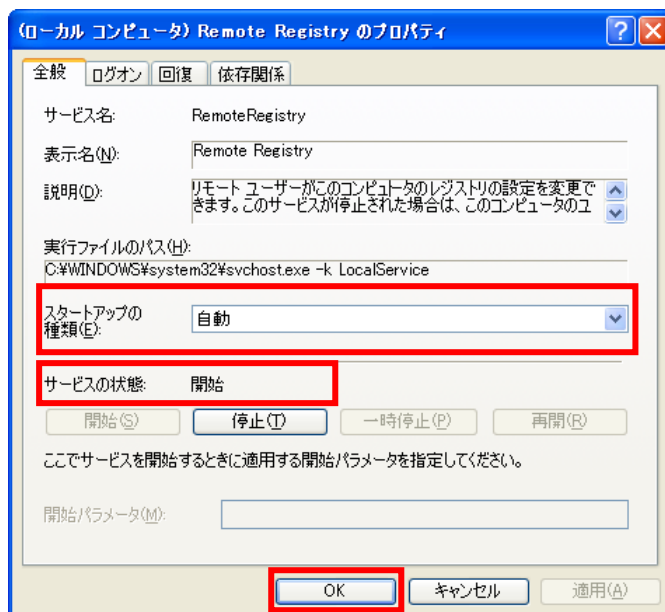
② 「Remote Registry」を変更します。

「Remote Registry」をダブルクリックします。

タートアップの種類が「自動」以外の場合は、「自動」に変更します。

サービス状態が「開始」以外の場合は、「開始」ボタンをクリックします。

「OK」をクリックします。



2) プリンターログ

LogVillage では、イベントログに書かれたプリンタ情報を元に印刷履歴を収集しています。この設定が行われていない場合、印刷履歴が収集されません。

通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

変更方法がOSにより異なります。各項目を参照し、設定変更を行ってください。

・ Windows2000 ・ WindowsXP ・ WindowsVista の場合

① 「プリンタとFAX」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「プリンタとFAX」を起動します。

(WindowsXP の場合)

Windows2000・WindowsVista の場合「プリンタ」を起動します。

※WindowsXP の場合、「プリンタとFAX」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

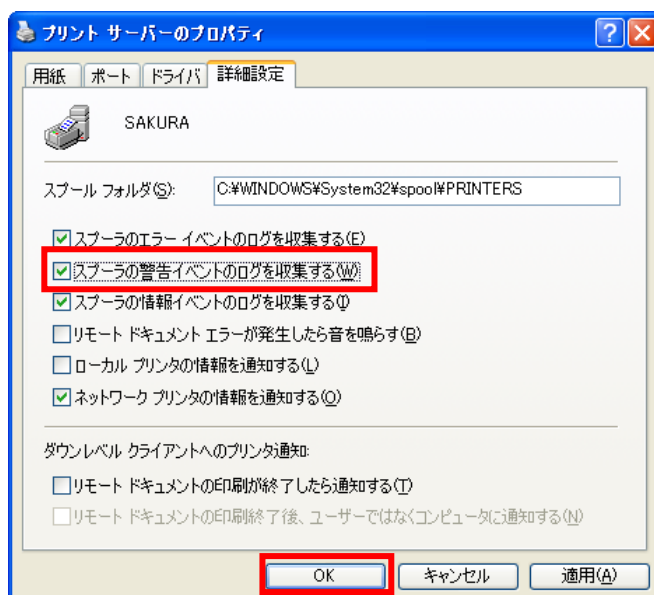
※WindowsVista の場合、「プリンタ」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

② 「詳細設定」を開き、設定を変更します。

メニューバー「ファイル」→「サーバープロパティ」→「詳細設定」をクリックします。

WindowsVista の場合、空白のところで右クリックし「サーバープロパティ」→「詳細設定」をクリックします。

「スプーラーの情報イベントのログを収集」にチェックし、「OK」をクリックします。



・ Windows7 の場合

LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。

そのため、Windows7 の管理対象 PC に対するプリンターログに関する設定変更は必要ありません。

3)アカウント・ログオン・ログ

LogVillage では、イベントログに書かれたログオン・ログオフ情報を元にログオン履歴を収集しています。この設定が行われていない場合、ログオン履歴が収集されません。

Windows2000・WindowsXP・WindowsVista・Windows7 は、通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

- ① 「ローカル セキュリティ ポリシー」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「ローカル セキュリティ ポリシー」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※WindowsVista の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

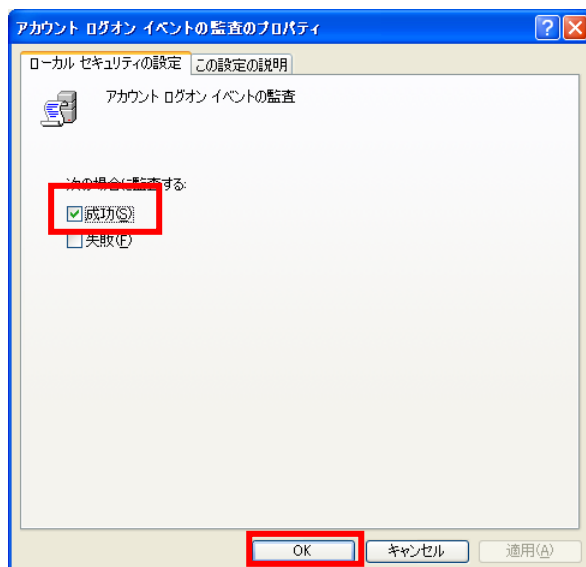
※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

- ② 「監査ポリシー」を開きます。

「セキュリティの設定」→「ローカル ポリシー」→「監査ポリシー」を開きます。

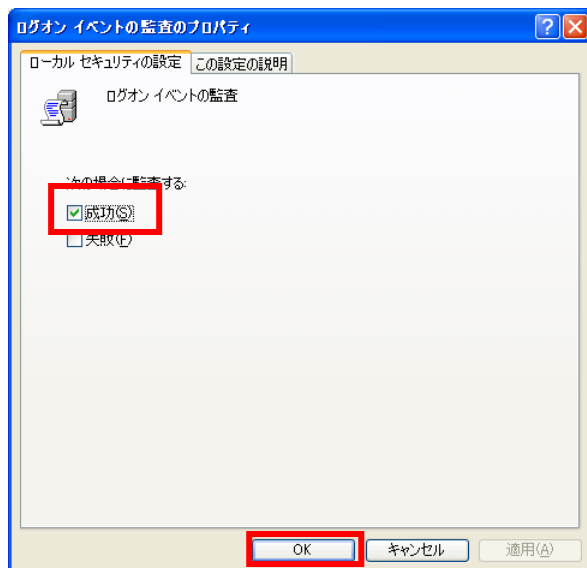
- ③ 「アカウントログオンイベントの監査」を変更します。

「アカウントログオンイベントの監査」の「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



④ 「ログオンイベントの監査」を変更します。

「ログオンイベントの監査」の「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



【ご注意ください】

上述の設定によりイベントログのセキュリティログにはLogVillagePSからのアクセスに対してもログが残ります。

このため、ユーザーのアクセスログを保存するために、セキュリティログの最大サイズを変更してください。

※セキュリティログの「ログサイズ」変更方法

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「イベント ビューア」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※WindowsVista の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

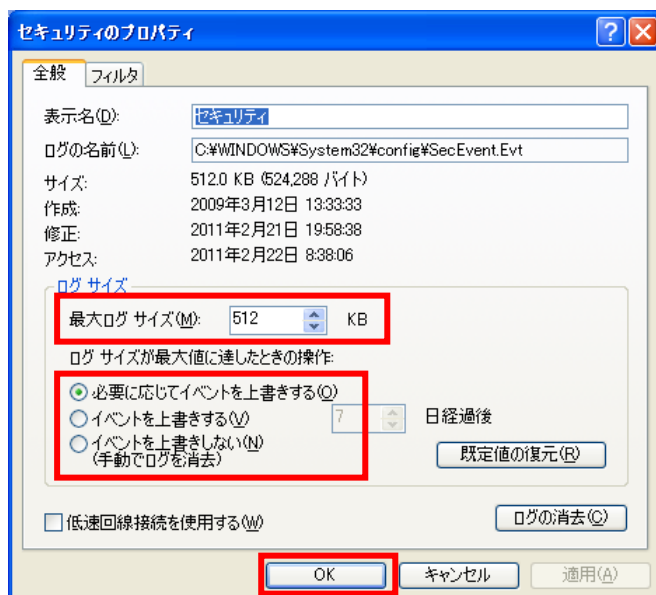
※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

「イベント ビューア (ローカル)」→「セキュリティ」を右クリック「プロパティ」をクリックします。

※WindowsVista・Windows7 の場合、「イベント ビューア (ローカル)」→「Windows ログ」→「セキュリティ」を選択します。

「ログサイズ」の「最大ログ サイズ」を「(任意の数値) KB」に変更し、「OK」をクリックします。(推奨値 163,840KB)

※セキュリティログがいっぱいになる状態が発生する場合には、この値をさらに大きいものに変更します。



※セキュリティログの最大サイズまでログが保存された場合の動作は、3種類あります。ポリシーに適した動作を選択してください。

- ・指定した日数を過ぎたら上書きする

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は、この設定により指定した日数のセキュリティログが必ず保存されます。

指定した日数を経過する前にセキュリティログが最大サイズになった場合、管理者権限を持ったユーザー以外ではOSにログインできなくなります。

指定した日数以上LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

- ・必要に応じてイベントを上書きする

セキュリティログが最大サイズになった場合、古いログから削除されます。

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は「指定した日数を過ぎたら上書きする」を選択する必要があります。

LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

- ・イベントを上書きしない（手動でログを消去）

セキュリティログを手動で削除する必要があります。

各PC毎に手動でイベントログのメンテナンスを行うポリシーの場合のみ、選択してください。

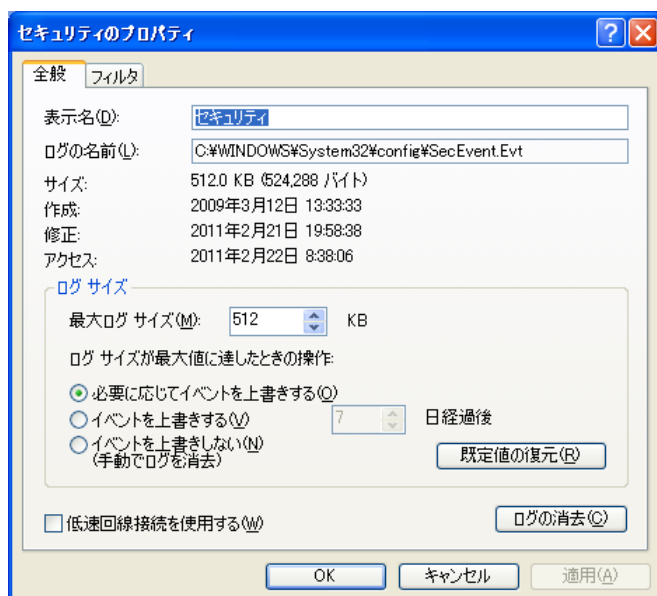
ログが自動的に削除されても問題無い場合は、「必要に応じてイベントを上書きする」を選択してください。

ログの削除を禁止している場合は、「イベントを上書きしない（手動でログを消去）」を選択してください。

※以下では、「指定した日数を過ぎたら上書きする」「7日間」の設定をご案内します。

「イベントを上書きする」にチェックを入れます。

「7日経過後」に変更し、「OK」をクリックします。



4) ネットワークアクセス時のアカウント認証方法

Windows XP 以降、標準の状態では接続は常に「GUEST」アカウントが使用されます。

LogVillage が収集する殆どのデータは Administrator 権限が必要なため、データを収集することが出来ません。この設定が行われていない場合、WEB 履歴などが収集されません。

※この作業により、ネットワークアクセス時に ID とパスワードが必要になります。

※簡易ファイルの共有機能が使えなくなりますので、「共有ファイルを開く」動作に影響が出る可能性があります。

Windows XP は、通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

① 「ローカル セキュリティ ポリシー」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「ローカル セキュリティ ポリシー」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※WindowsVista の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

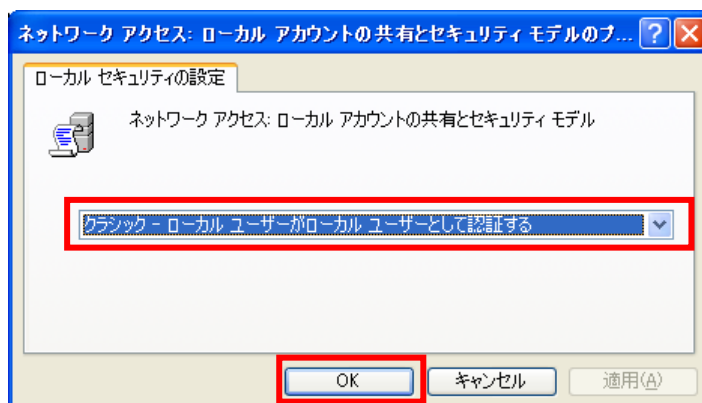
※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

② 「クラシックローカル ユーザーがローカル ユーザーとして認証する」を変更します。

「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」を開きます。

「ネットワーク アクセス: ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル」をダブルクリックします。

「クラシック - ローカル ユーザーがローカル ユーザーとして認証する」に変更し「OK」をクリックします。



5)DCOM リモート起動のアクセス許可

WMI によるデータの収集のため、リモートからの起動許可が必要になります。

またLogVillage では、この WMI 情報を基本としているため、WMI 情報が収集されない場合、それ以外のすべての情報を正しく収集することが出来ません。

通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

④ 「コンポーネントサービス」を起動します。

・ Windows XP・Windows7 の場合

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンポーネント サービス」を起動します。

※WindowsXP の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

※Windows7 の場合、「管理ツール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

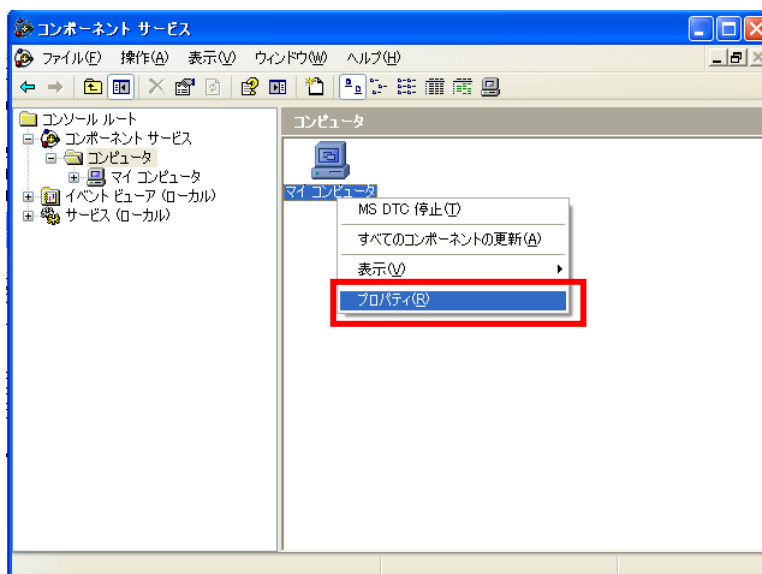
・ WindowsVista の場合

“Windows スタートメニュー”→「ファイル名と指定して実行」で「Comexp.msc」を実行します。

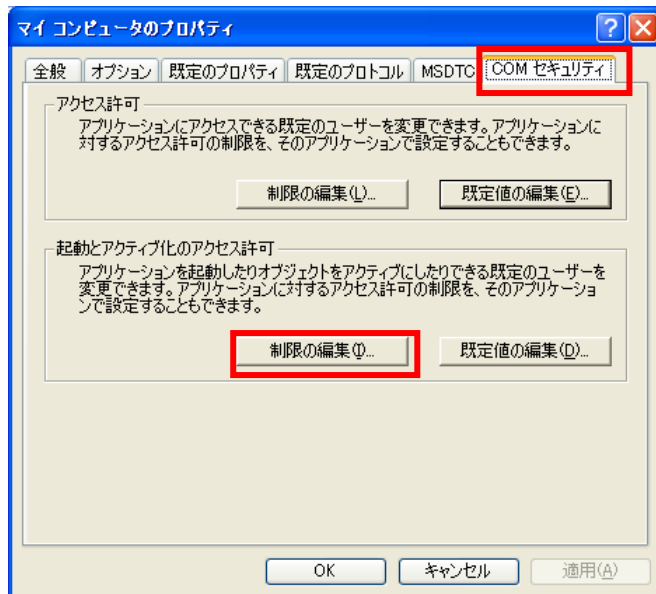
⑤ 「マイコンピュータ」のプロパティを開きます。

「コンソール ルート」→「コンポーネント サービス」→「コンピュータ」→「マイ コンピュータ」を開きます。

「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。



- ⑥ 「起動とアクティブ化のアクセス許可」の「制限の編集」を変更します。
 「COM セキュリティ」タブを開き、「起動とアクティブ化のアクセス許可」の「制限の編集」をクリックします。

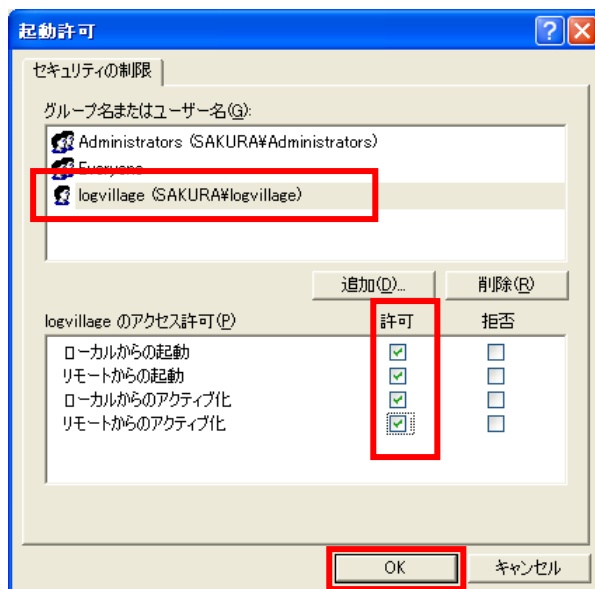


LogVillage で使用するユーザーまたはグループをクリックします。

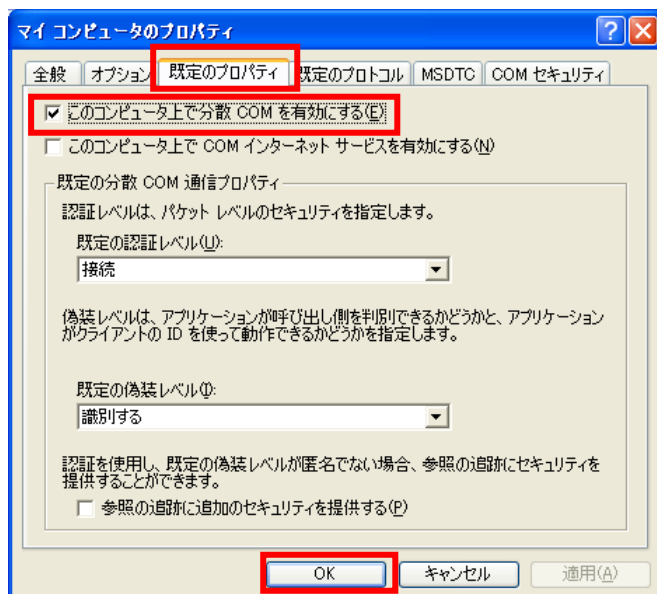
「起動許可」にLogVillagePSからの接続に使用されるユーザーまたはグループ名が表示されない場合は、「追加」をクリックし、アカウント名を入力し、「OK」をクリックします。

「許可」列の「リモートからの起動」にチェックを入れます。

「許可」列の「リモートからのアクティブ化」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



- ⑦ 「このコンピュータ上で分散 COM を有効にする」を変更します。
「既定のプロパティ」タブを開きます。
「このコンピュータ上で分散 COM を有効にする」にチェックが入っている事を確認し、「OK」をクリックします。



設定完了後 OS の再起動が必要です。

6)ファイアウォール

LogVillagePS から管理対象 PC への接続を許可する必要があります。

この設定が行われていない場合、情報を収集することが出来ません。

また、LogVillagePS 以外の PC からのアクセスを禁止できるよう「スコープの変更」を行うことを強く推奨いたします。

Windows XP・WindowsVista・Windows7 の場合は、通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

OS 標準以外のファイアウォールがインストールされている場合、該当ファイアウォール製品にて同様の設定変更が必要となります。

Windows ファイアウォール機能を利用していない（無効）場合は、以下の設定は必要ありません。

Windows ファイアウォール機能を利用している場合は、変更方法が OS により異なりますので、各項目を参照し、設定変更を行ってください。

・WindowsXP の場合

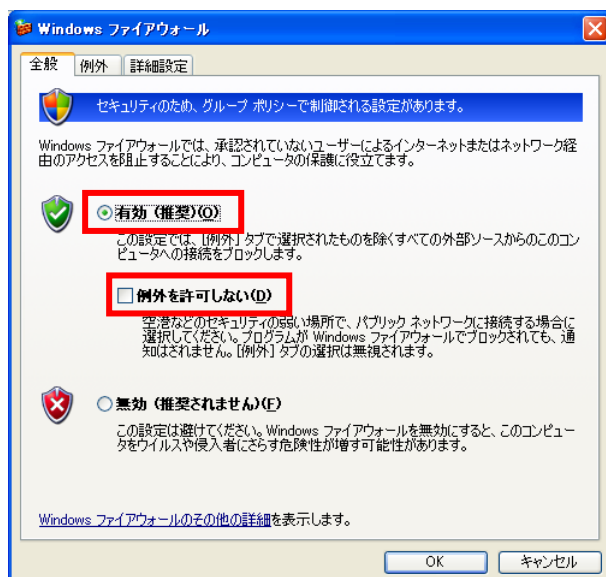
- ① 「Windows ファイアウォール」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォール」を起動します。

※「Windows ファイアウォール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

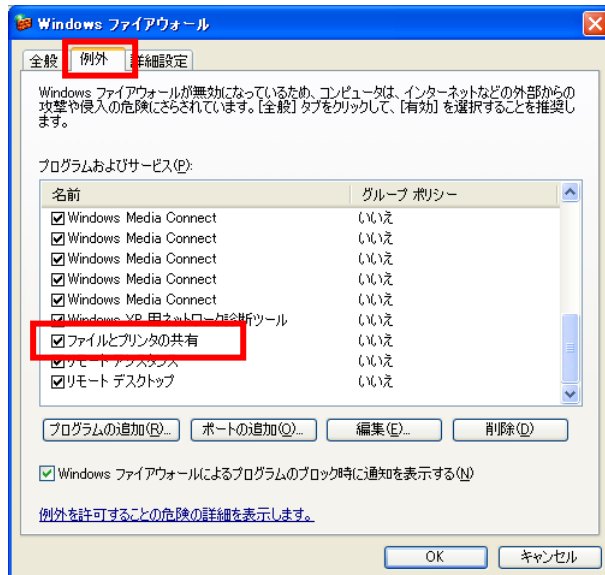
「全般」タブで「有効（推奨）」にチェックが入っている事を確認します。

「例外を許可しない」にチェックが無い事を確認します。



② 「ファイルとプリンタの共有」を変更します。

「例外」タブを開き、「ファイルとプリンタの共有」にチェックを入れます。

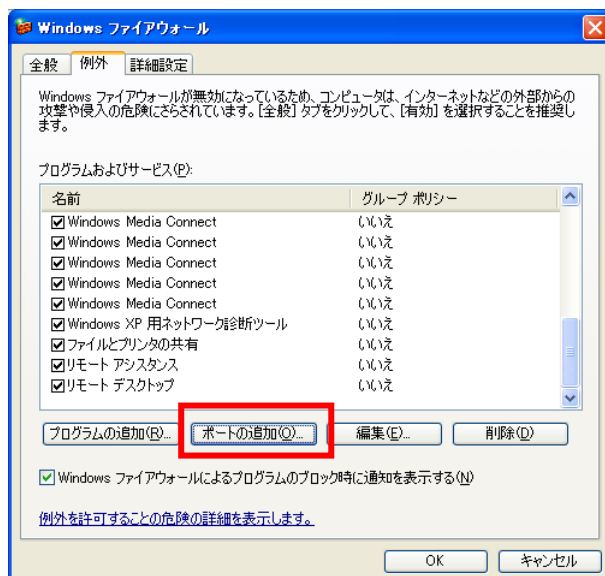


※ファイルとプリンタの共有ポートは以下のとおりです。

NetBIOS 名前サービス	UDP	137
NetBIOS 名前サービス	TCP	137
NetBIOS データグラム・サービス	UDP	138
NetBIOS セッション・サービス	TCP	139
ダイレクト・ホスティング SMB サービス	TCP/UDP	445 (Windows2000 以降)

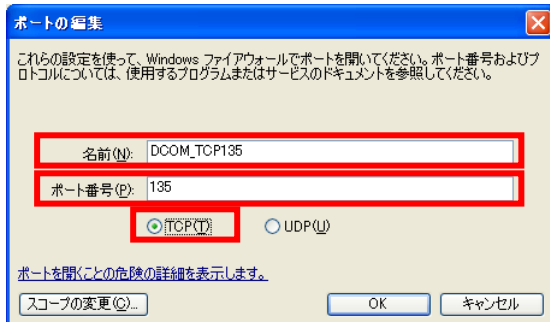
③ 「DCOM_TCP135」を設定します。

「ポートの追加」をクリックします。



Copyright © 2007- 2012 S0-TEN, Inc. All Rights Reserved.

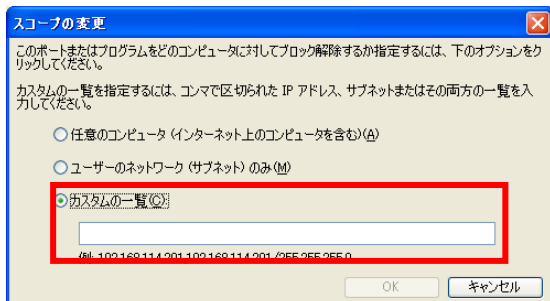
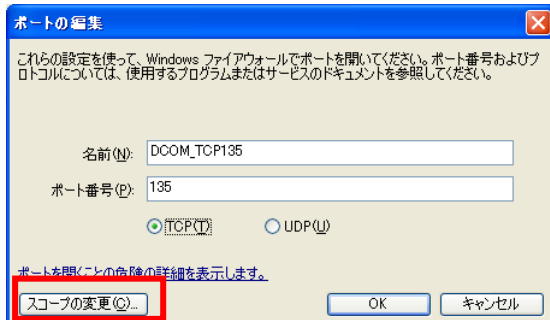
「名前」に「DCOM_TCP135」、「ポート番号」に「135」を入力し、「TCP」をクリックします。
開いている全ての画面を「OK」で閉じます。



※セキュリティ強化のため、許可するホストを限定する場合は、以下の作業を行います。
ホストを限定しない場合は、以下の手順を省略します。

「Windows ファイアウォール」 「例外」 タブを開きます。

「編集」→「スコープの変更」→「カスタムの一覧」から LogVillagePS の IP アドレス/サブネットマスクを登録し、開いている全ての画面を「OK」で閉じます。



④ DCOM 用のポート（約 20 ポート）を作成します。

※他のプログラムで使用していない、未使用の 20 ポートを含む範囲をご使用ください。
（PC により使用しているポートが異なるため、ポート番号の指定は行っておりません。）

※DCOM 用のポートを開ける必要性に関しては、以下 URL の「Windows 2000 RPC ポート構成」をご参照ください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/archive/itsolutions/idc/rag/ragc03.msp?mfr=true>

例：5050～5069 ポートを使用する場合。

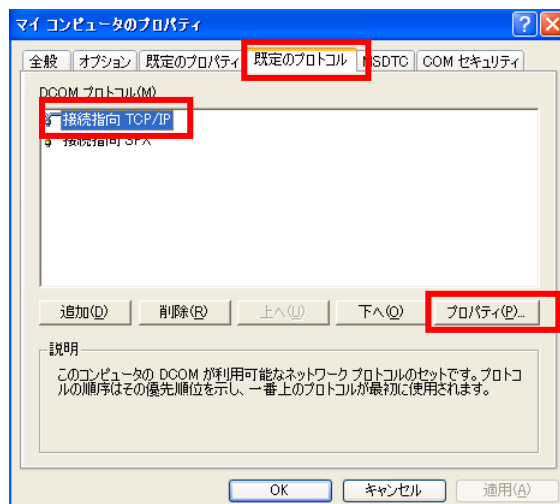
1. “Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンポーネント サービス」を起動します。

※「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

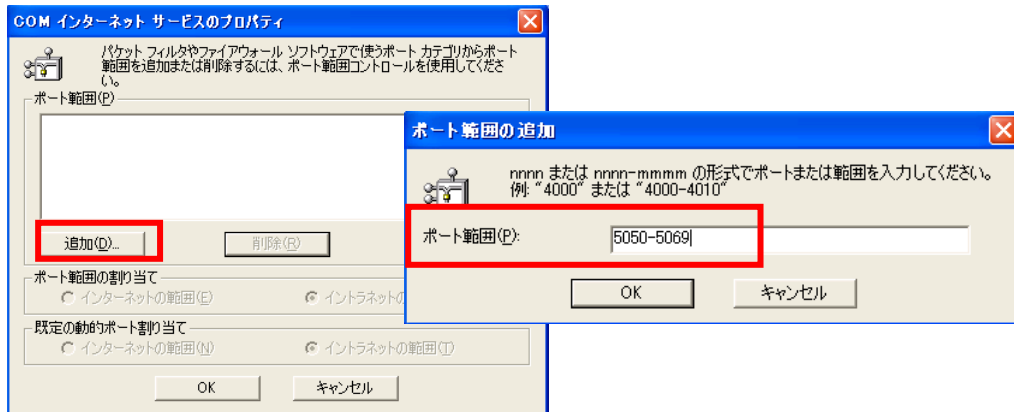
2. 「コンソール ツール」→「コンポーネント サービス」→「コンピュータ」→「マイ コンピュータ」を開きます。

3. 「マイコンピュータ」を右クリック「プロパティ」をクリックします。

4. 「既定のプロトコル」タブを開き、「DCOM プロトコル」の「接続指向 TCP/IP」をクリック後、「プロパティ」をクリックします。



5. 「追加」ボタンをクリック、「ポート範囲」に「5050-5069」を入力し、全ての画面を「OK」で閉じます。

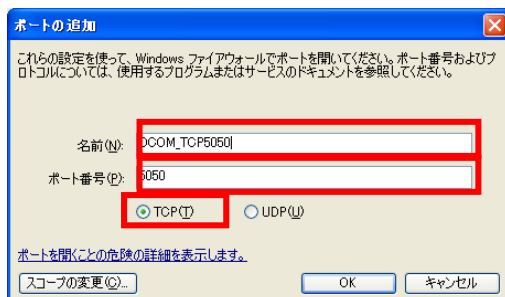


6. “Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォール」を起動します。

「例外」タブをクリックし、「ポートの追加」をクリックします。

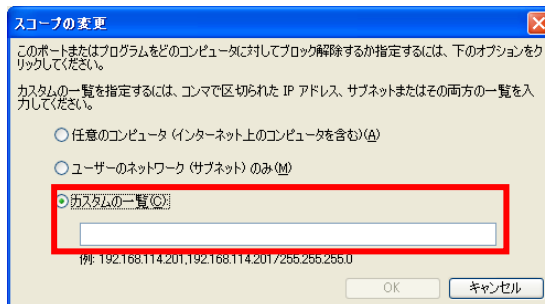
※「コントロールパネル」で「クラシック表示に切り替える」の選択が必要です。

7. 「名前」ボックスに DCOM_TCP5050 と入力し、「ポート番号」ボックスに 5050 と入力し「TCP」をクリックします。



8. セキュリティ強化のため、許可するホストを限定する場合は、以下の作業を行います。ホストを限定しない場合は、以下の手順を省略します。

「編集」→「スコープの変更」→「カスタムの一覧」から LogVillagePS の IP アドレス/
サブネットマスクを登録し、全ての画面を「OK」で閉じます。



9. 手順「6」「7」「8」の 5050 のポート番号部分を、5051 から 5069 の各々のポート番号に読み替え、同様に追加します。
この作業により DCOM 用のポートとして、計 20 ポート追加されます。

※「コンポーネント サービス」の変更に伴い、設定完了後 OS の再起動が必要です。

・WindowsVista の場合

Windows ファイアウォールの種類として「パブリック ネットワーク」と「プライベート ネットワーク」があり、「パブリック ネットワーク」とは、空港、喫茶店など、公共のネットワークを指しています。

LogVillage は社内環境にてご利用いただく事を想定しているため、「プライベート ネットワーク」でご利用いただく事を推奨いたします。

- ① 「Windows ファイアウォール」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォール」を起動します。

※「Windows ファイアウォール」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

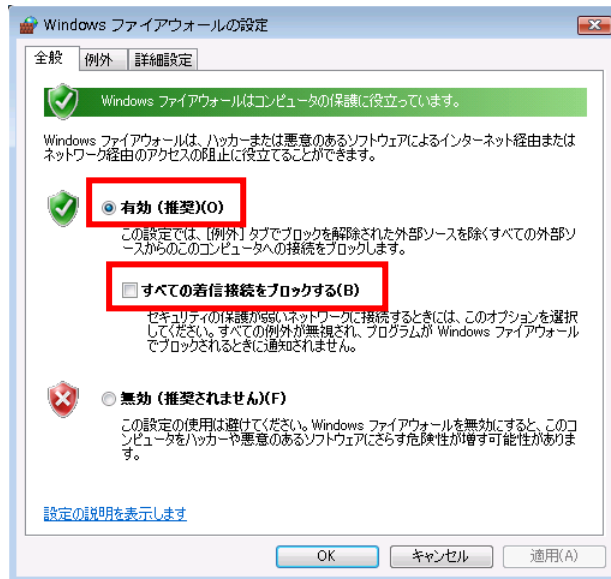
- ② 「有効（推奨）」と「すべての着信をブロックする」を確認します。

「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」をクリックします。



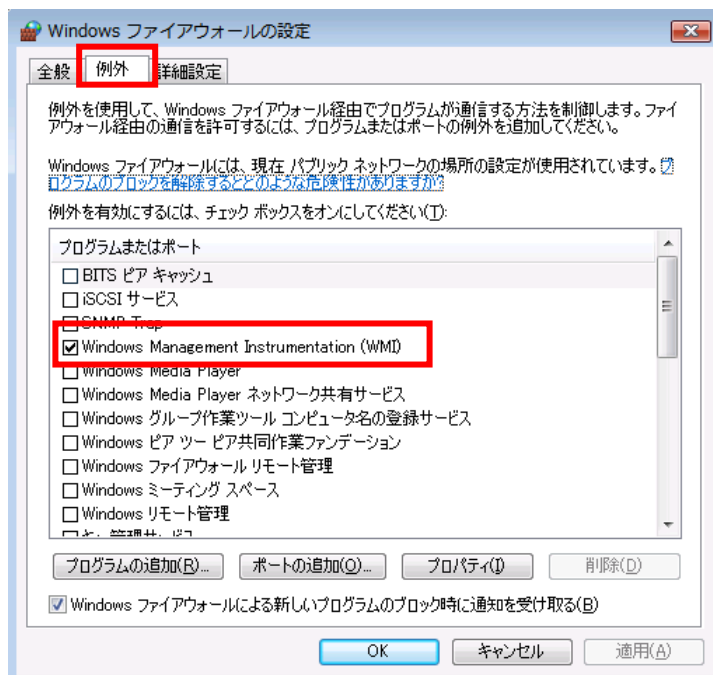
「全般」タブを開き、「有効（推奨）」にチェックが入っている事を確認します。

「すべての着信接続をブロックする」にチェックが無い事を確認します。



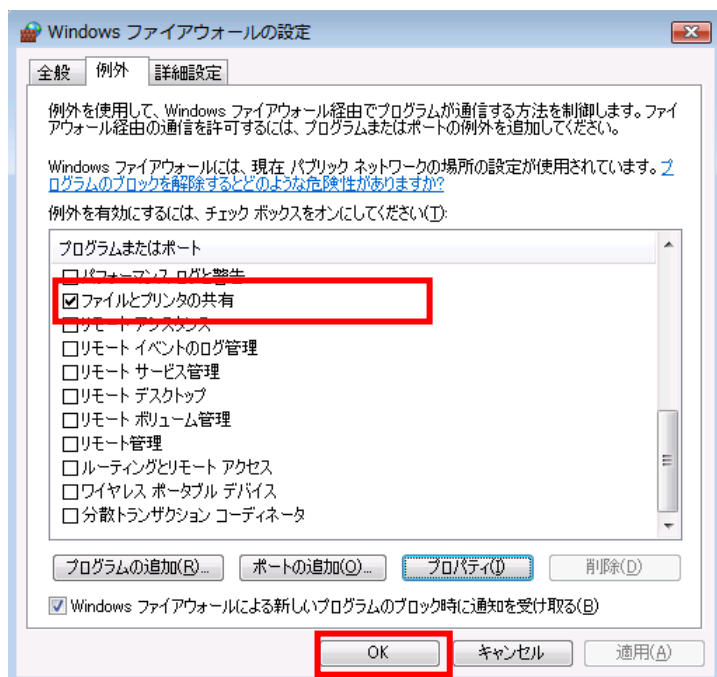
③ 「Windows Management Instrumentation (WMI)」を変更します。

「例外」タブをクリックし、「Windows Management Instrumentation (WMI)」にチェックを入れます。



④ 「ファイルとプリンタの共有」を変更します。

「ファイルとプリンタの共有」にチェックを入れ、全ての画面を「OK」で閉じます。



・Windows7 の場合

Windows ファイアウォールの種類として「パブリック ネットワーク」と「ホーム ネットワークまたは社内（プライベート）ネットワーク」があり、「パブリック ネットワーク」とは、空港、喫茶店など、公共のネットワークを指しています。

LogVillage は社内環境にてご利用いただく事を想定しているため、「プライベート ネットワーク」でご利用いただく事を推奨いたします。

※「ホーム ネットワークまたは社内（プライベート）ネットワーク」と「パブリック」の設定については、後述の「Windows7 のネットワーク設定と Windows ファイアウォールの関係」をご覧ください。

① 「Windows ファイアウォール」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォール」を起動します。

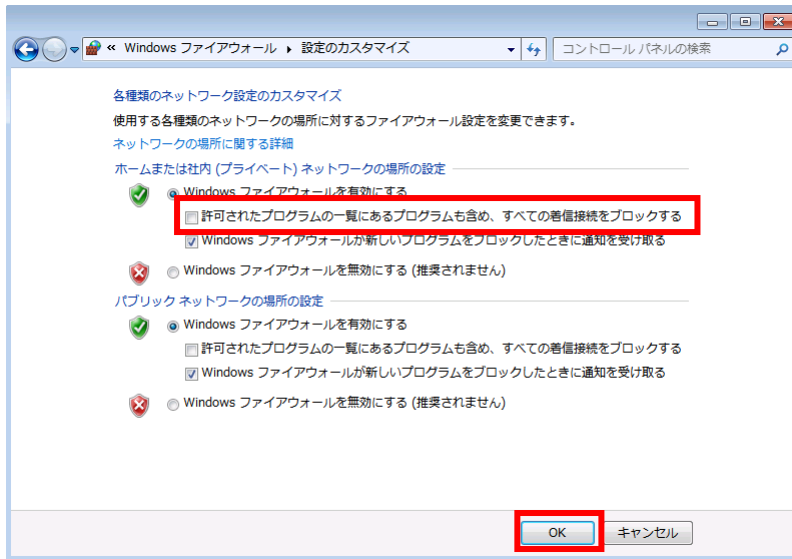
※「Windows ファイアウォール」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

② 「許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする」を確認します。

「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」をクリックします。



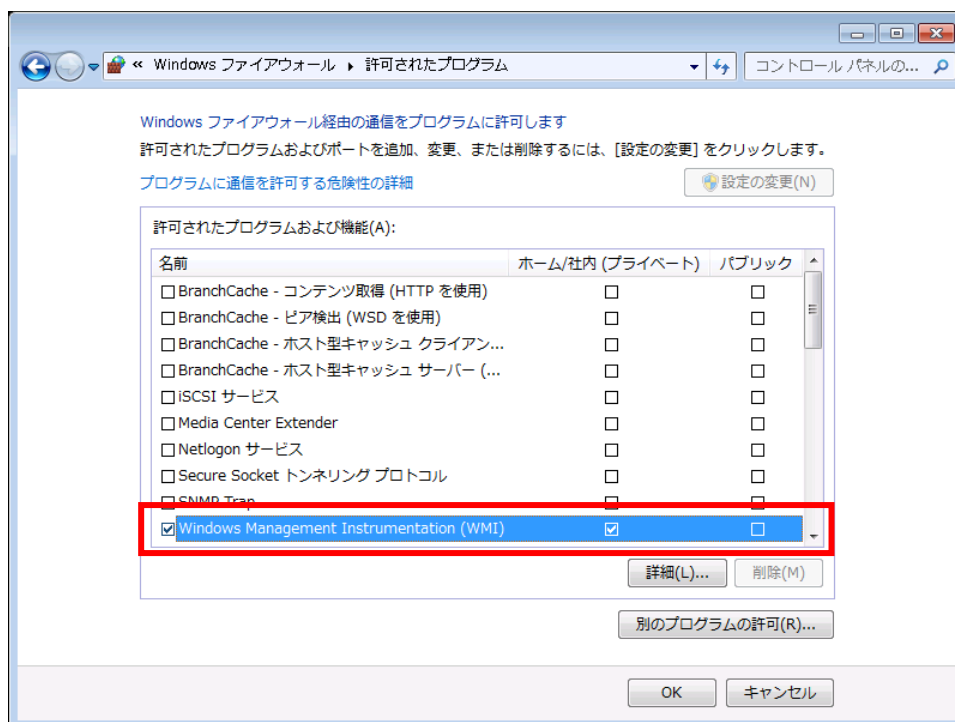
接続中ネットワークの「許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする」にチェックが無い事を確認し、「OK」をクリックします。



- ③ 「Windows Management Instrumentation (WMI)」を変更します。
 「Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する」をクリックします。

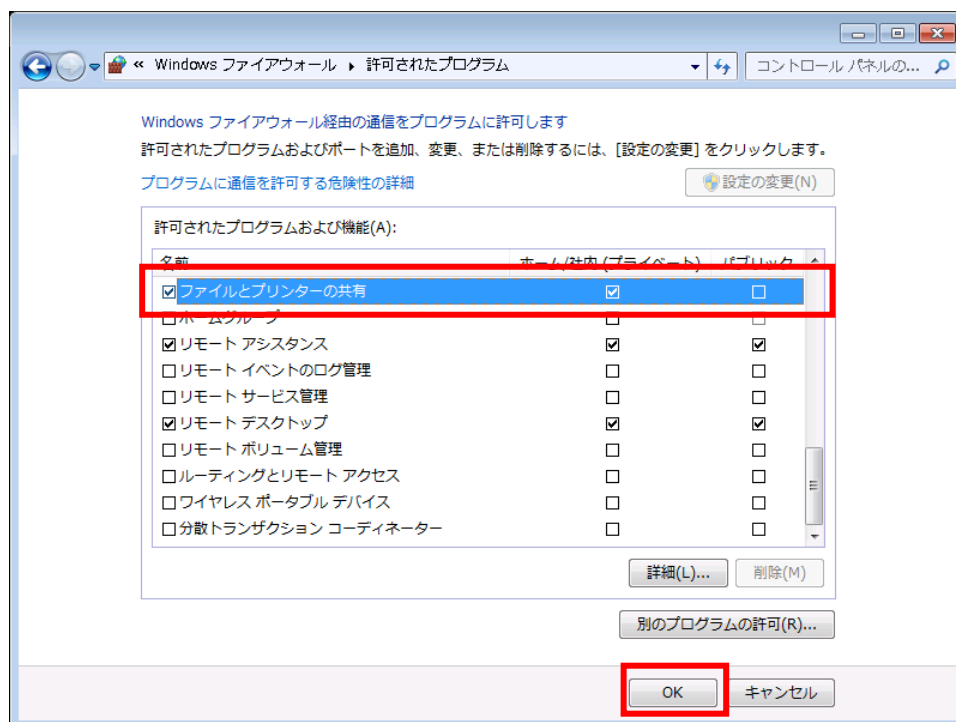


接続中ネットワークの「Windows Management Instrumentation (WMI)」にチェックを入れます。



- ④ 「ファイルとプリンターの共有」を変更します。

接続中ネットワークの「ファイルとプリンターの共有」にチェックを入れ、全ての画面を「OK」で閉じます。



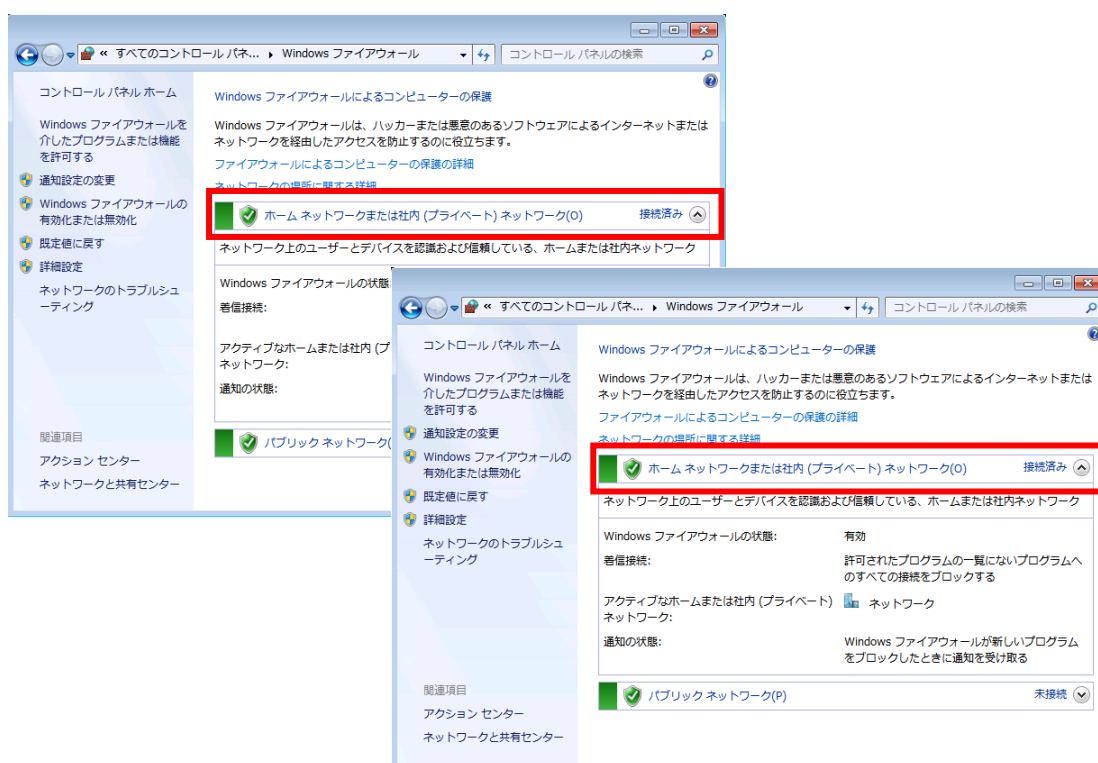
・ Windows7 のネットワーク設定と Windows ファイアウォールの関係

LogVillagePS と管理対象 PC が別セグメントで「ネットワークと共有センター」のアクティブなネットワークが「ホーム／社内 ネットワーク」の場合、Windows ファイアウォールの「ホーム／社内」に LogVillage 用の設定を行っても、情報が収集できません。この場合「パブリック」をご利用ください。

・ ネットワークの場所を確認する方法

・ Windows ファイアウォールが下図の場合は「ホーム/社内（プライベート）」です。

※LogVillagePS と管理対象 PC が別セグメントの場合、この環境ではログが収集できません。



・ Windows ファイアウォールが下図の場合「パブリック」です。



7)UAC 機能の停止

UAC 機能を停止するように変更します。

WindowsVista・Windows7 のみの設定となります。

通常この設定は行われていないため必ず設定変更が必要です。

変更方法がOSにより異なりますので、各項目を参照し、設定変更を行ってください。

・WindowsVista の場合

① 「ユーザー アカウント」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「ユーザー アカウント」を起動します。

※WindowsVista の場合、「ユーザー アカウント」の表示のためには「コントロールパネル」で「クラシック表示」の選択が必要です。

「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリックします。

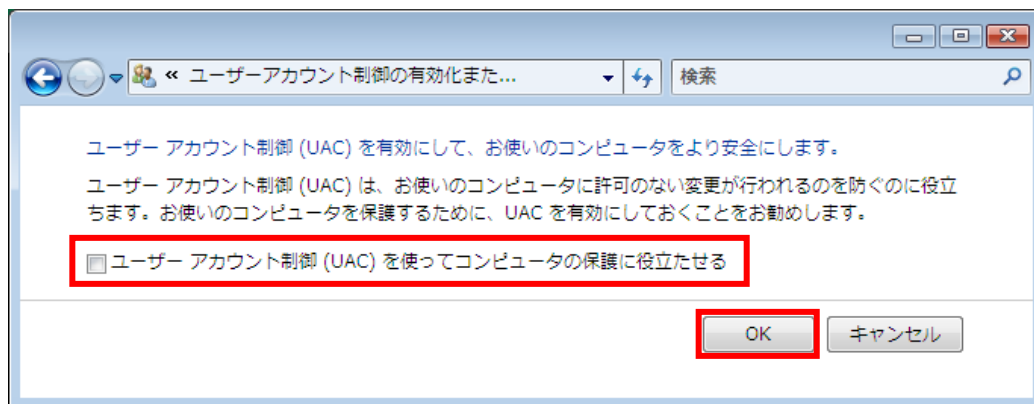
※OSにより「ユーザーアカウント制御設定の変更」場合があります。



ユーザーアカウント制御画面「続行するにはあなたの許可が必要です。」メッセージが表示された場合は、「続行」をクリックします。

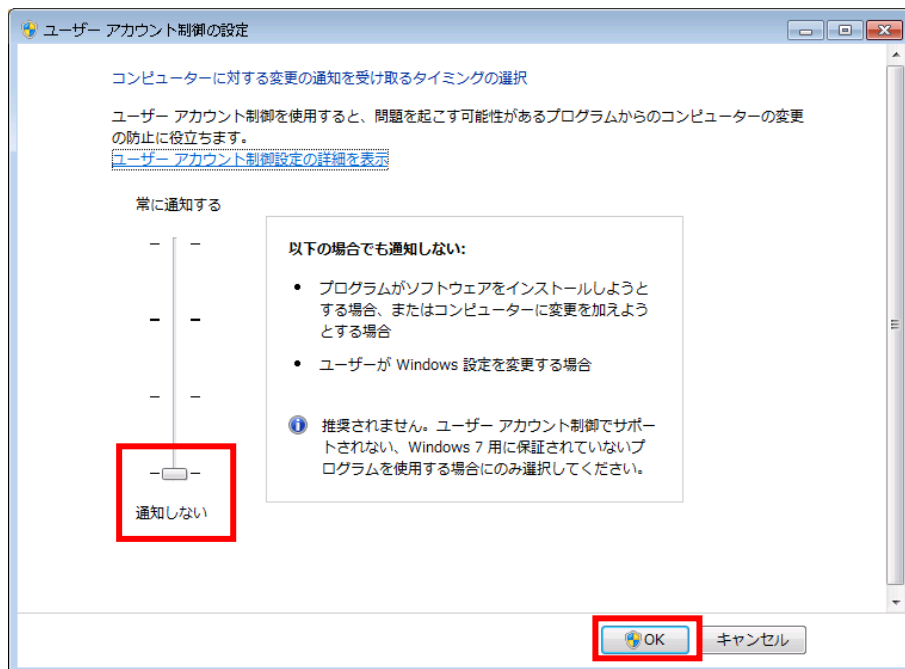
※メッセージが表示されない場合もあります。

- ② 「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立てる」を変更します。
「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立てる」のチェックを外し、「OK」をクリックします。



※OS により、下図場合があります。

その図の場合は、スライダのつまみを一番下「通知しない」まで下げ、「OK」をクリックします。



設定完了後 OS の再起動が必要です。

「これらの変更を適用するにはコンピュータを再起動する必要があります」と表示された場合、「今すぐ再起動する」を選択し、OS を再起動します。

※あらかじめアプリケーションを終了しておいてください。

・Windows7 の場合

③ 「ユーザー アカウント」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「ユーザー アカウント」を起動します。

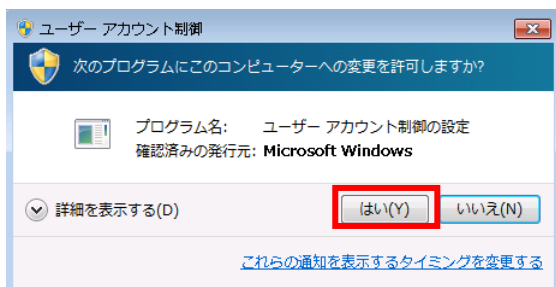
※「ユーザー アカウント」の表示のためには「コントロールパネル」で「小さいアイコン」または「大きいアイコン」の選択が必要です。

④ 「ユーザー アカウント制御設定の変更」を変更します。

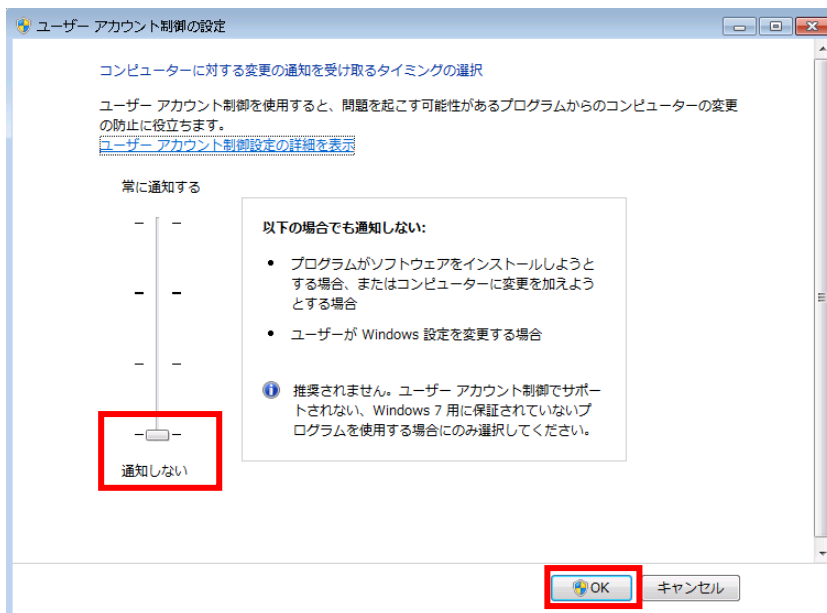
「ユーザー アカウント制御設定の変更」をクリックします。



下図が表示された場合は、「はい」をクリックします。

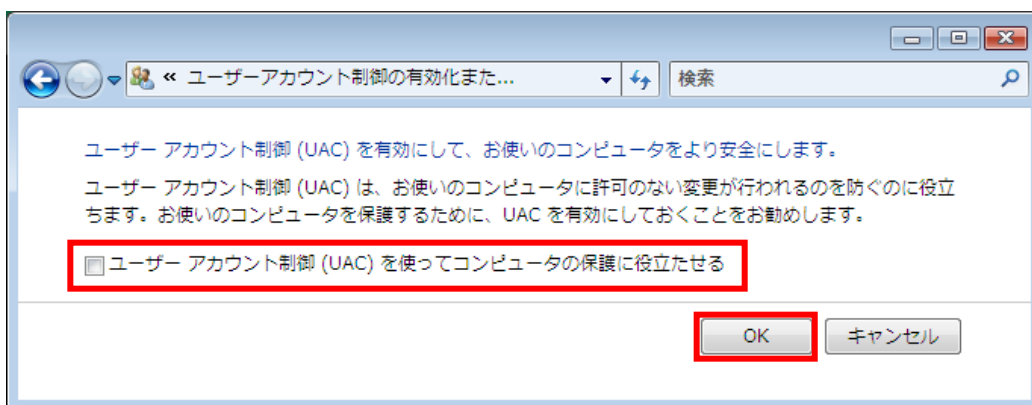


スライダのつまみを一番下「通知しない」まで下げ、「OK」をクリックします。



※OS により、下図の場合があります。

その場合は「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立てる」のチェックを外し、「OK」をクリックします。



下図が表示された場合は、「はい」をクリックします。



アプリケーションを終了し、OS を再起動します。

8) ディスク・パフォーマンス・ログ

ディスクのパフォーマンスログを収集されるように設定を行います。この設定が行われていない場合、ディスクの空き容量などのディスクに関するデータが収集されません。

Windows2000 のみの設定となります。

この設定変更を有効にするには再起動が必要です。

- ① コマンドプロンプトを起動します。
- ② 「diskperf -Y」 を実行します。
- ③ OS を再起動します。

7-4. ActiveDirectory 環境での管理対象 PC 設定内容

ActiveDirectory 環境での管理対象 PC 設定内容について説明します。

グループポリシーを変更することにより、管理対象 PC の設定を行います。

LogVillage を導入する環境により、参照先が異なりますのでご注意ください。

ActiveDirectory を構築した OS	Directory 上に作成するユーザーの権限
Windows Server 2003 または Windows 2000 Server	Domain Admins
参照先 1. 7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)	
参照先 2. 7-4-2-1. Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録	

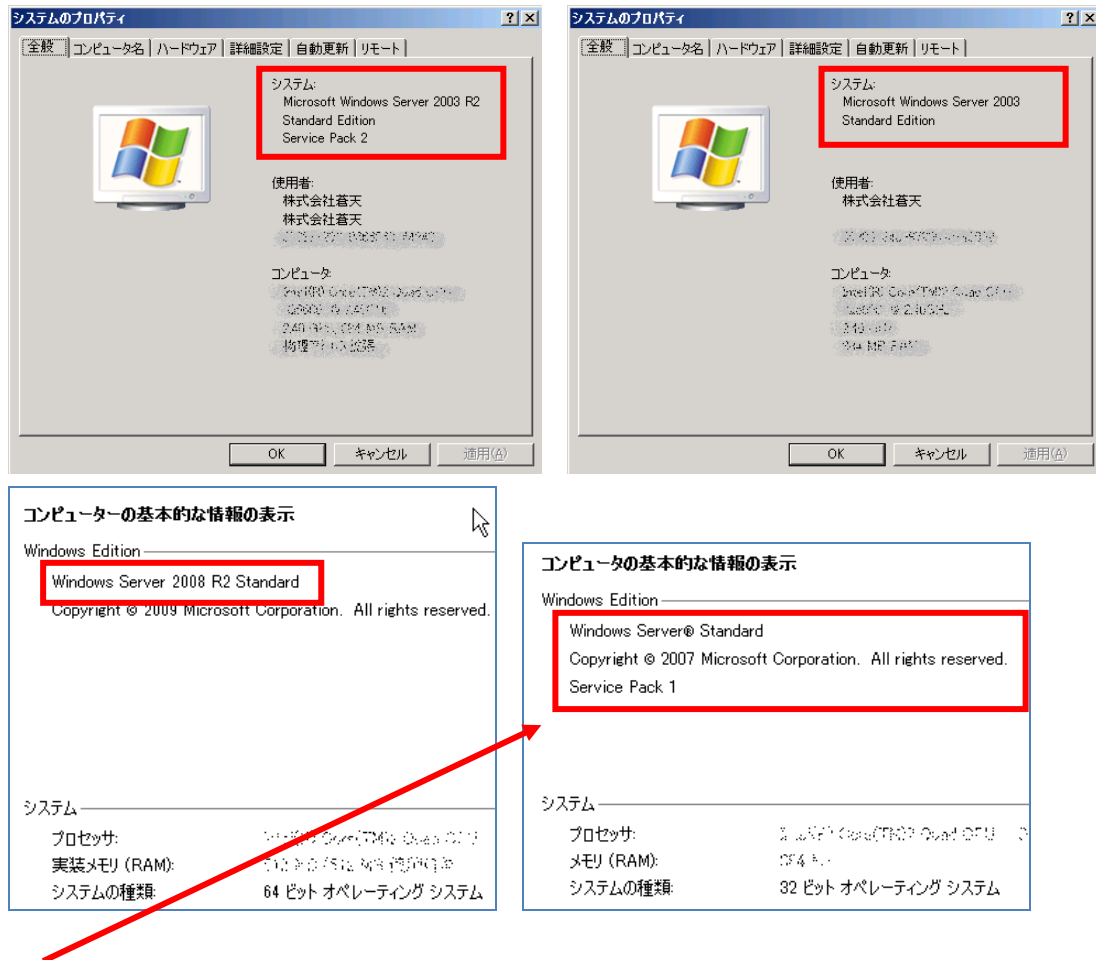
ActiveDirectory を構築した OS	Directory 上に作成するユーザーの権限
Windows Server 2003 または Windows 2000 Server	OU の管理者権限
参照先 1. 7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)	
参照先 2. 7-4-2-2. Active Directory 上で OU の管理者権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録	

ActiveDirectory を構築した OS	Directory 上に作成するユーザーの権限
Windows Server 2008	Domain Admins
参照先 1. 7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)	
参照先 2. 7-4-2-1. Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録	

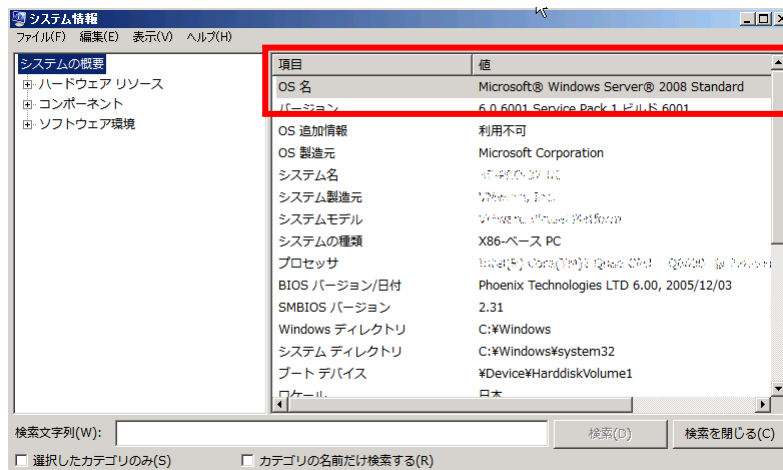
ActiveDirectory を構築した OS	Directory 上に作成するユーザーの権限
Windows Server 2008	OU の管理者権限
参照先 1. 7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)	
参照先 2. 7-4-2-2. Active Directory 上で OU の管理者権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録	

・OS 確認方法

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「システム」を起動します。
赤枠部分を確認します。



右図のように、OS が表示されない場合は、“Windows スタートメニュー”→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システム ツール」→「システム情報」を起動し、OS 名を確認します。



7-4-1. グループポリシー設定変更項目

グループポリシー設定変更項目について説明します。

「Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境」 「Windows Server 2008 Active Directory 環境」 それぞれの設定方法をご案内します。

7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)

※Windows Server 2008 Active Directory 環境の場合は「7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)」をご参照ください。

グループポリシーで管理対象 PC の設定内容を変更する場合、以下の項目を変更します。

<input type="checkbox"/>	1	リモートレジストリーサービス
	目的 設定内容	アプリケーション情報など、レジストリ情報を必要とするログの収集が可能となります。 ・「システムサービス」の以下を「自動」に定義します。 「Remote Registry」
<input type="checkbox"/>	2	プリンターログ設定
	目的 設定内容	印刷履歴のログが残るように変更します。 ・「WindowsVista 以前用*.adm ファイル」を配置し、有効にします。 ・Windows7 の管理対象 PC には設定変更の必要はありません。 LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。
<input type="checkbox"/>	3	アカウント・ログオン・ログ
	目的 設定内容	ログオン・ログオフの履歴が残るように変更します。 ・「ローカルポリシー」の以下を「成功」に定義します。 「アカウント ログオンイベントの監査」、「ログオンイベント の監査」 ・「セキュリティログの最大サイズ」を変更します。
<input type="checkbox"/>	4	ネットワークアクセス時のアカウント認証方法
	目的 設定内容	LogVillagePS からの通信に必要な設定で、ネットワークログオンの認証方法を変更します。 ・「ローカルポリシー」の以下を「クラシックローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する」に定義します。 「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」
<input type="checkbox"/>	5	DCOM リモート起動のアクセス許可
	目的 設定内容	WMI (ハードウェア台帳など) の WMI 情報を必要とするログの収集が可能となります。 ・「ローカルポリシー」の「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」の以下を全ての項目で「許可」に定義します。 「Administrators」 ・「分散 COM 設定用*.adm ファイル」を配置し、「管理用テンプレート」に追加し、「有効」に定義します。
<input type="checkbox"/>	6	ファイアウォール
	目的 設定内容	LogVillagePS からの通信に必要な設定で、ログ収集に必要な通信をブロックしないように変更します。 ・「ドメインプロファイル」の以下を有効に定義します 「Windows ファイアウォール: リモート管理の例外を許可する」 「Windows ファイアウォール: ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」 「Windows ファイアウォール: ポートの例外を許可する」 ・以下に「TCP135」を追加します。 「Windows ファイアウォール: ポートの例外を定義する」

※チェックリストとしてご利用ください。

以下の項目は変更していません。

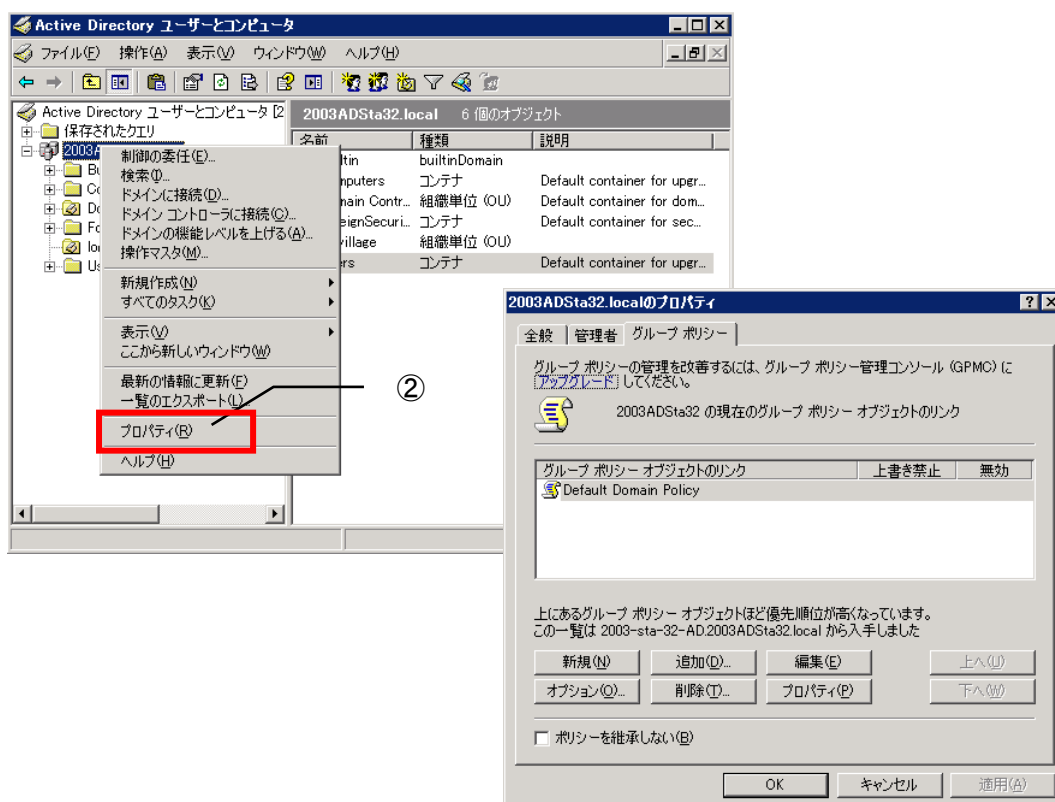
<input type="checkbox"/>	7	UAC 機能の停止
	理由	AD の場合、変更の必要はありません
<input type="checkbox"/>	8	ディスク・パフォーマンス・ログ
	理由	管理対象 PC が Windows2000 のみ必要な設定です。クライアント側で実行してください。

グループポリシー設定画面の表示方法

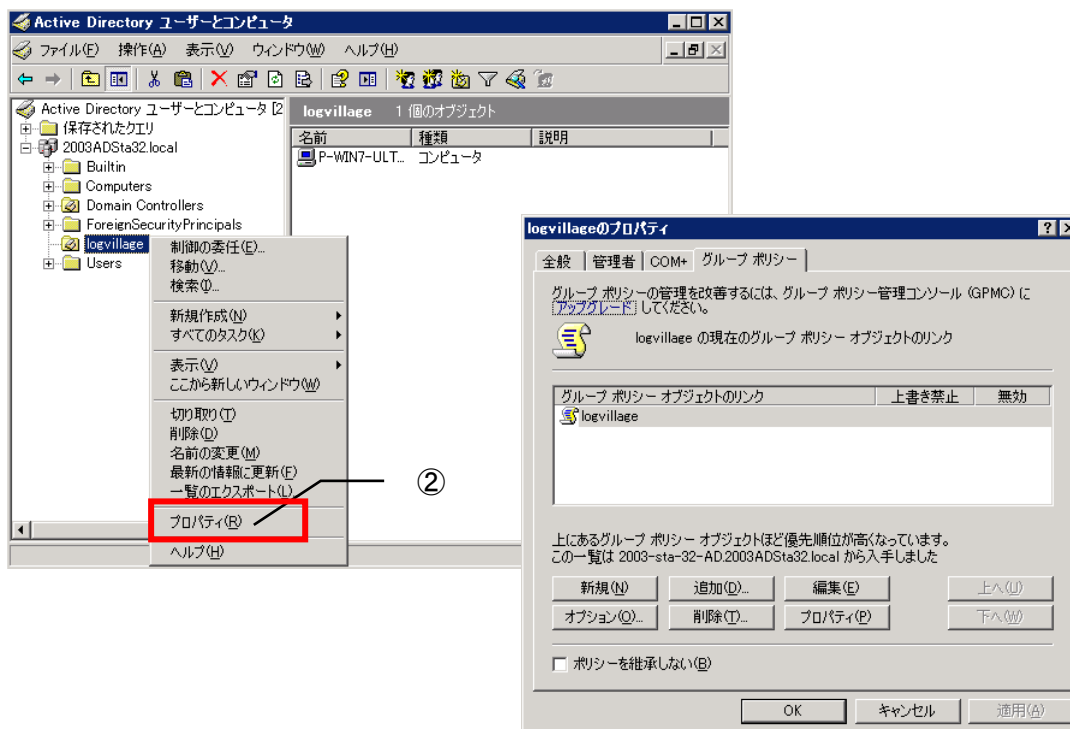
- ① 「ActiveDirectory ユーザーとコンピュータ」を起動します。
 “Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「ActiveDirectory ユーザーとコンピュータ」を起動します。

設定を行うドメイン名またはOUの上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

※下図は、Default Domain Policy（全体）に設定する場合の例です。

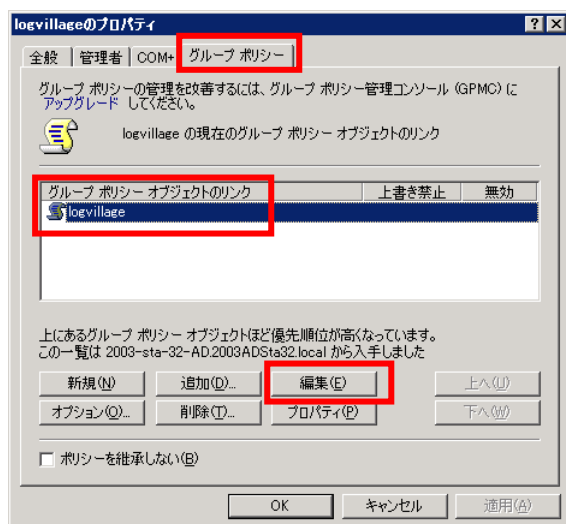


※下図は、OU 名「logvillage」に、GPO 名「logvillage」を作成し、設定する場合の例です。



② 「グループポリシー オブジェクトのリンク」を開きます。

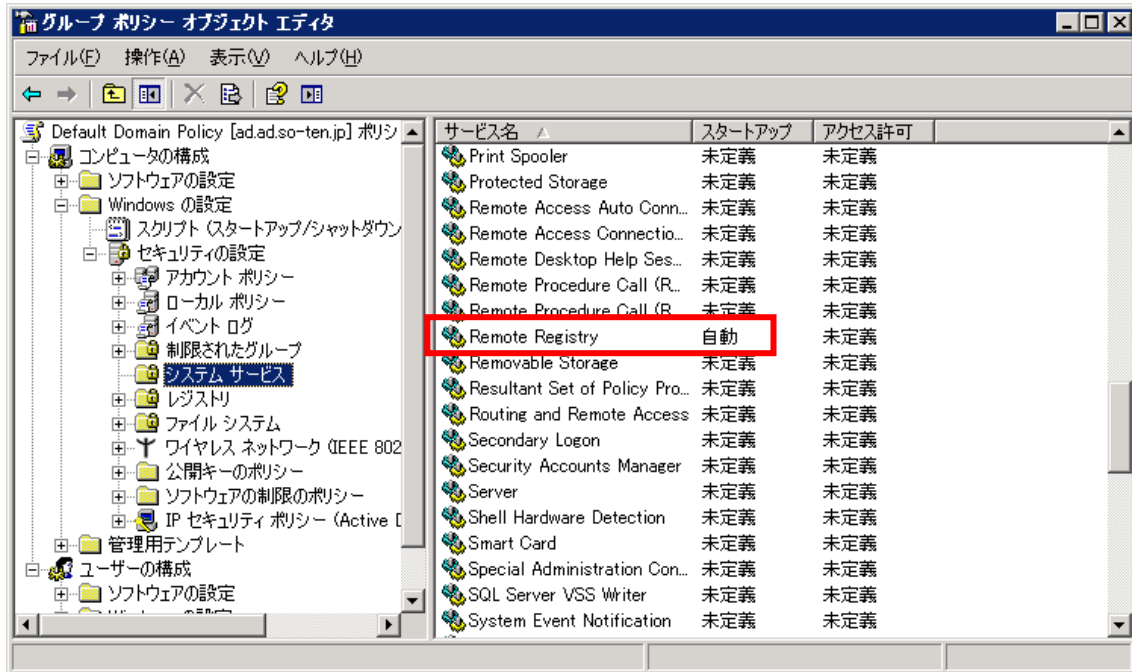
「グループポリシー」タブを開き、設定する「グループポリシー オブジェクトのリンク」をクリック後、「編集」をクリックします。



1) リモートレジストリーサービス

① 「システムサービス」を開きます。

「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「システムサービス」を開きます。

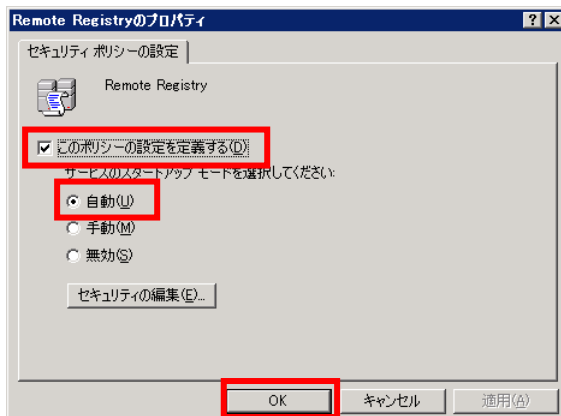


② 「Remote Registry」を設定します。

「Remote Registry」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

「自動」に変更し「OK」をクリックします。



2) プリンターログ設定

■WindowsVista 以前の管理対象 PC 用の設定のみ必要となります

① 設定変更用ファイルを配置します。

設定変更用ファイル（インストール媒体内 Tools フォルダ下の LV_Printer.adm）をドメインコントローラーサーバの x:\¥Windows¥inf へコピーします。

※x は OS インストールドライブです。

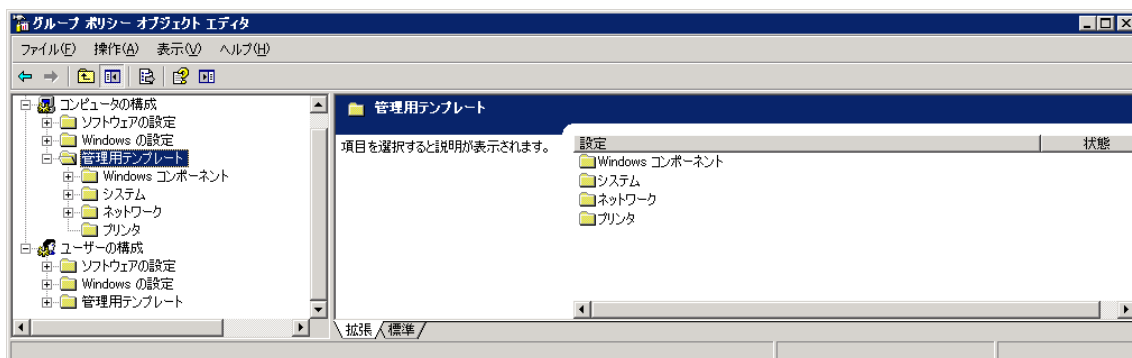
LV_Printer.adm は以下の内容のテキストファイルです。

```
CLASS MACHINE

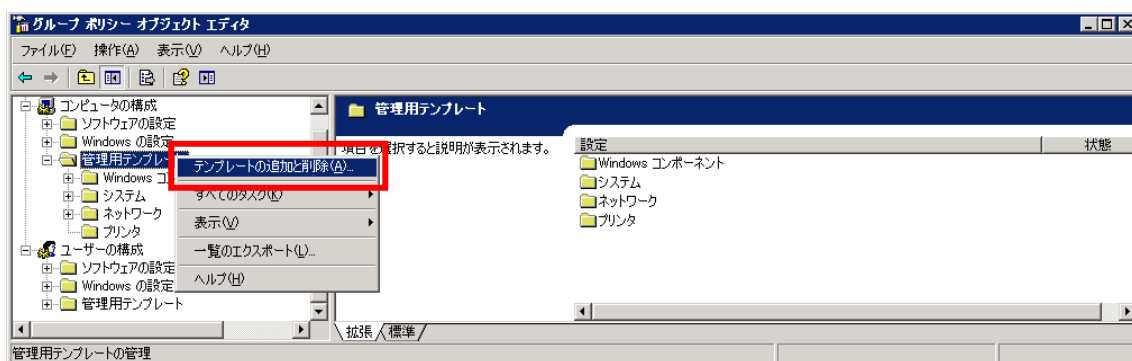
CATEGORY !!LogVillagePrint
    POLICY !!ChangePrintEventlogPolicy
        KEYNAME "System¥CurrentControlSet¥Control¥Print¥Providers"
        Valuename "EventLog"
            VALUEON NUMERIC 7
            VALUEOFF NUMERIC 3
        END POLICY
    END CATEGORY

[strings]
LogVillagePrint="LogVillage 用プリンタ設定"
ChangePrintEventlogPolicy="LogVillage 用プリンタ設定"
```

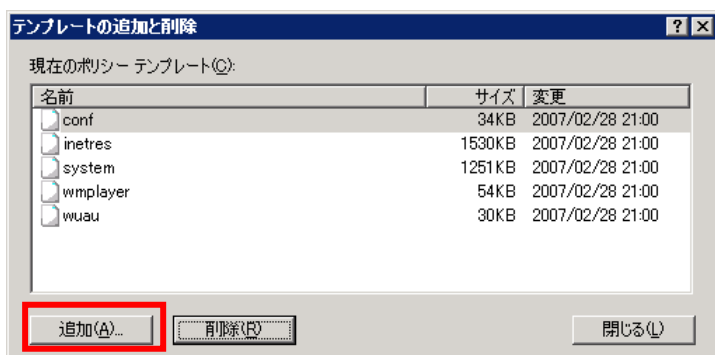
- ② 「LogVillage 用プリンタ設定」を追加します。
「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」を開きます。



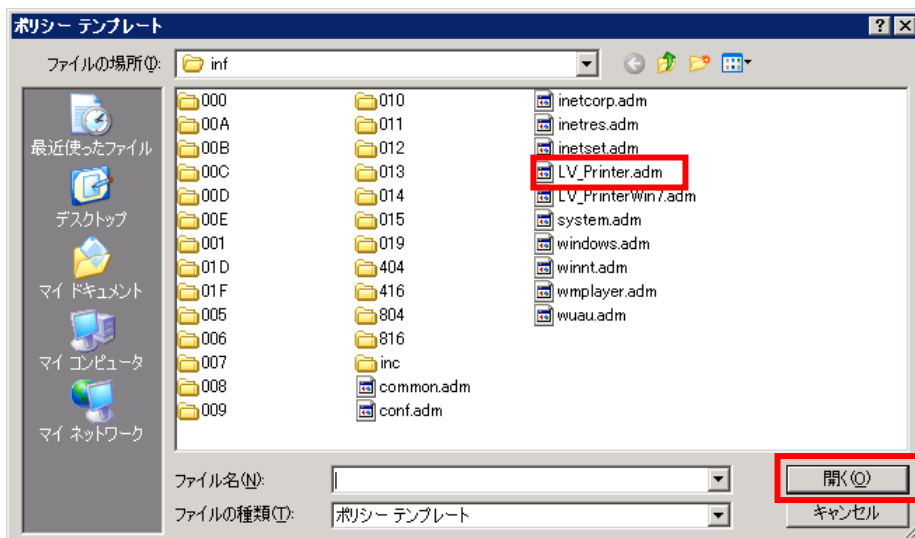
「管理者テンプレート」を右クリック、「テンプレートの追加と削除」をクリックします。



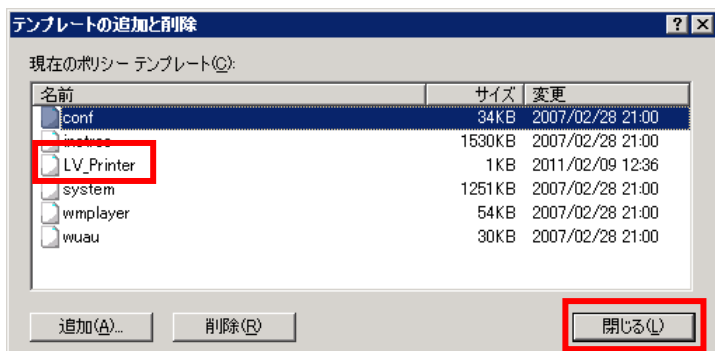
「追加」をクリックします。



「LV_Printer.adm」をクリック後「開く」をクリックします。

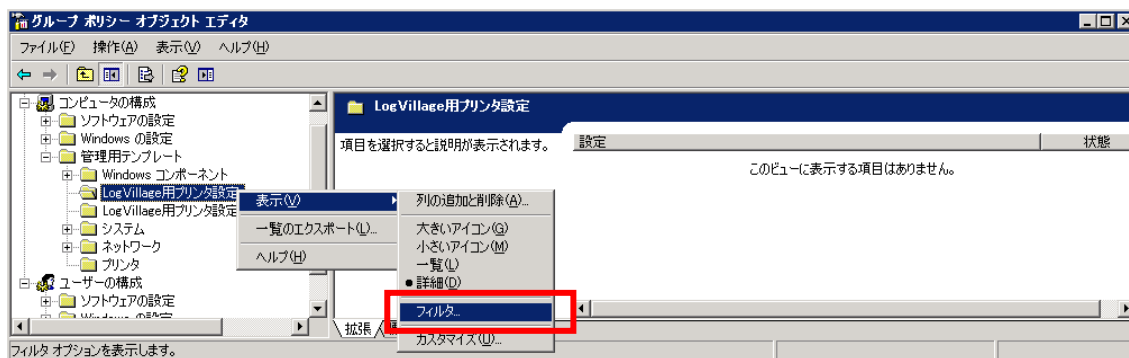


「LV_Printer」が一覧に表示された事を確認し、「閉じる」をクリックします。

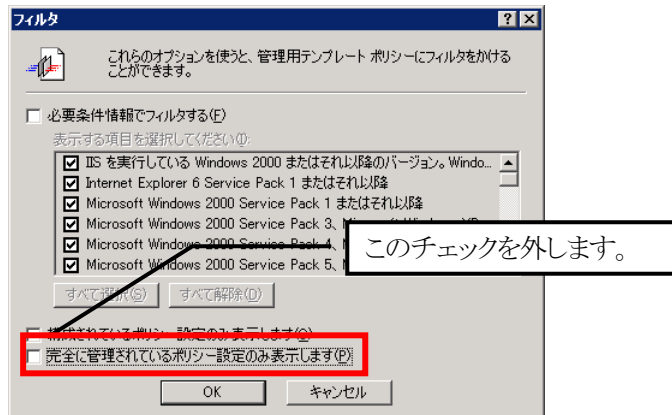


③ 「LogVillage 用プリンタ設定」のフィルタを設定します。

「LogVillage 用プリンタ設定」を右クリック「表示」→「フィルタ」をクリックします。

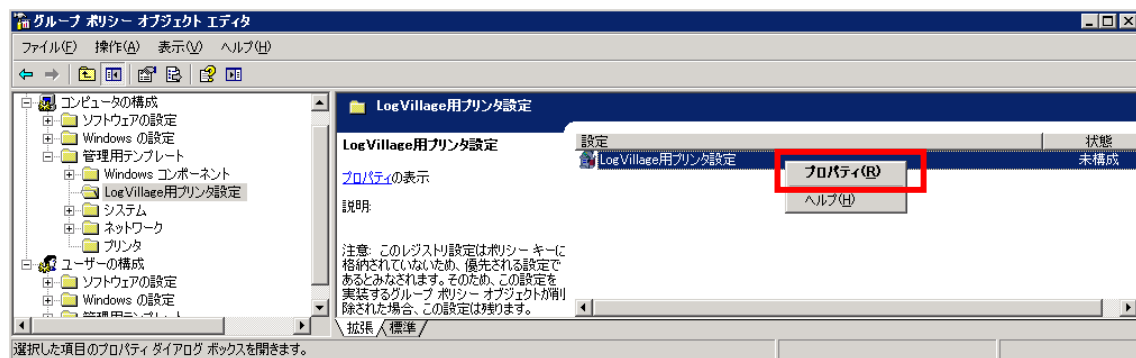


「完全に管理されているポリシー設定のみ表示します」のチェックを外し「OK」をクリックします。

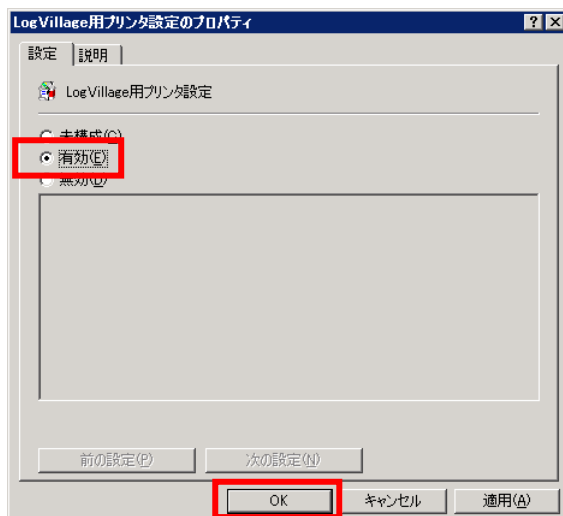


④ 「LogVillage 用プリンタ設定」を有効に変更します。

「LogVillage 用プリンタ設定」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



「有効」をクリック後、「OK」をクリックします。



※管理対象PCがWindows7の場合

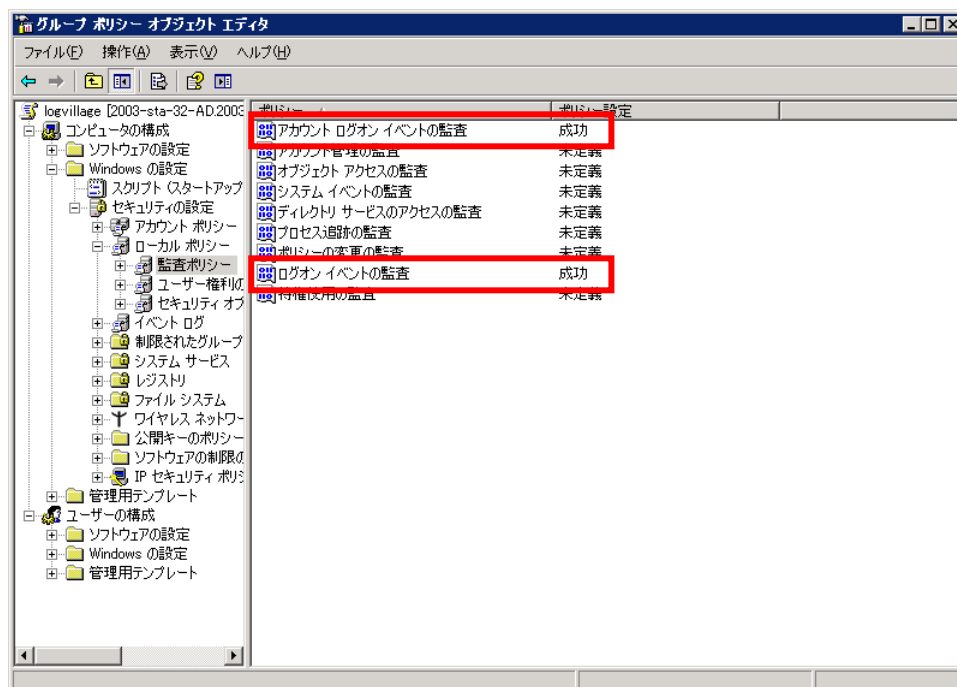
LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。

そのため、Windows7 の管理対象PCに対するプリンターログに関する設定変更は必要ありません。

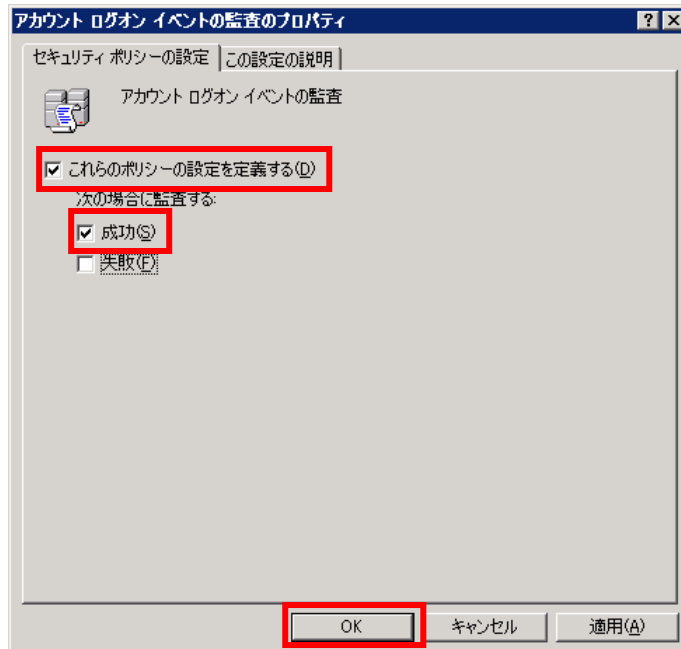
3) アカウント・ログオン・ログ

① 「監査ポリシー」を開きます。

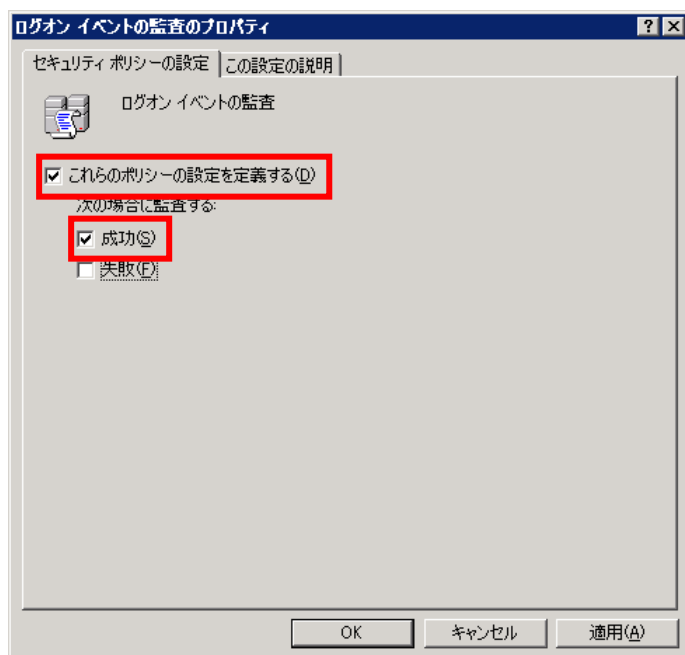
「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「監査ポリシー」の設定を開きます。



- ② 「アカウント ログオンイベントの監査」を設定します。
「アカウント ログオンイベントの監査」をダブルクリックします。
「これらのポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。
「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



- ③ 「ログオンイベント の監査」を設定します。
「ログオンイベント の監査」をダブルクリックします。
「これらのポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。
「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



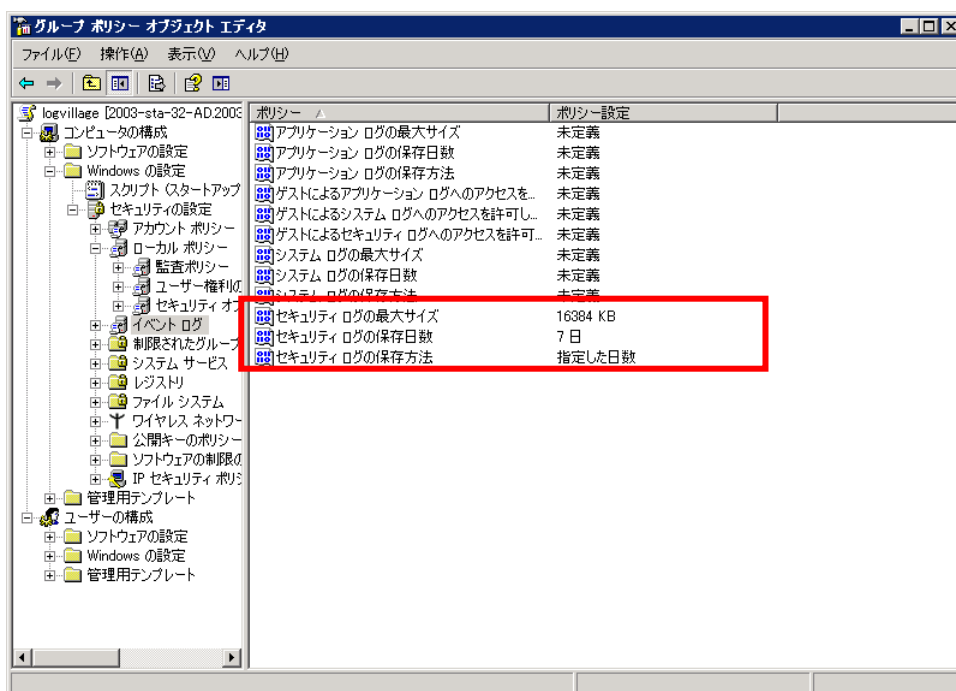
イベントログの修正

※手順③までの設定によりイベントログのセキュリティログにはLogVillagePSからのアクセスに対してもログが残ります。

このため、ユーザーのアクセスログを保存するために、セキュリティログの最大サイズを変更してください。

① 「イベントログ」を開きます。

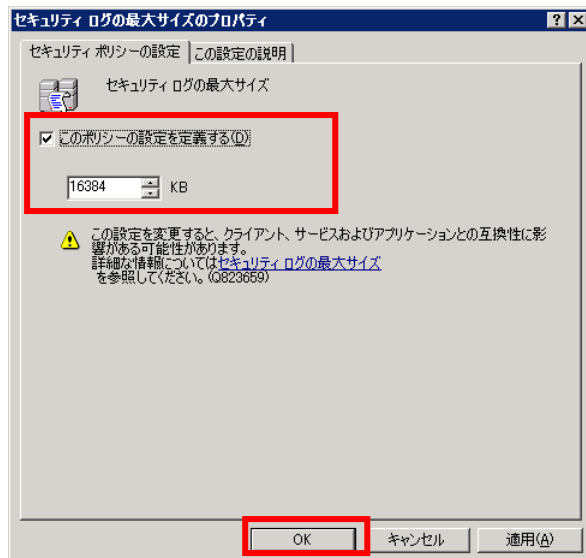
「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「イベントログ」の設定を開きます。



② 「セキュリティログの最大サイズ」を変更します。

「セキュリティログの最大サイズ」をダブルクリックします。

「（任意の数値）KB」に変更し、「OK」をクリックします。（推奨値 163,840KB）



※セキュリティログの最大サイズまでログが保存された場合の動作は、3種類あります。ポリシーに適した動作を選択してください。

・指定した日数を過ぎたら上書きする

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は、この設定により指定した日数のセキュリティログが必ず保存されます。

指定した日数を経過する前にセキュリティログが最大サイズになった場合、管理者権限を持ったユーザー以外ではOSにログインできなくなります。

指定した日数以上LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

・必要に応じてイベントを上書きする

セキュリティログが最大サイズになった場合、古いログから削除されます。

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は「指定した日数を過ぎたら上書きする」を選択する必要があります。

LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

・イベントを上書きしない（手動でログを消去）

セキュリティログを手動で削除する必要があります。

各PC毎に手動でイベントログのメンテナンスを行うポリシーの場合のみ、選択してください。

ログが自動的に削除されても問題無い場合は、「必要に応じてイベントを上書きする」を選択してください。

ログの削除を禁止している場合は、「イベントを上書きしない（手でログを消去）」を選択してください。

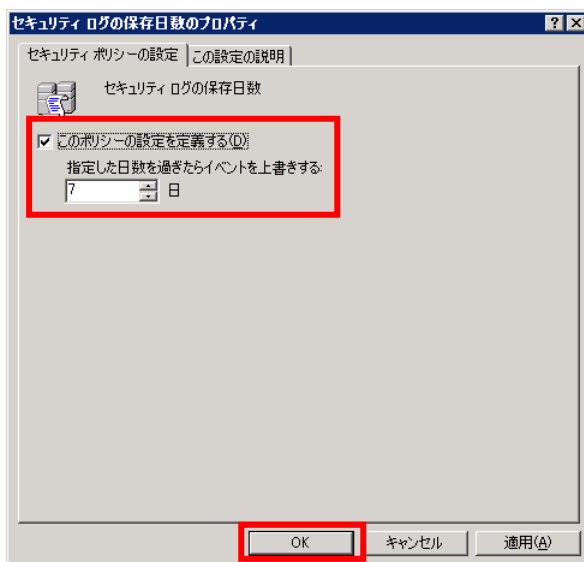
※以下では、「指定した日数を過ぎたら上書きする」「7日間」の設定をご案内します。

③ 「セキュリティログの保存日数」を変更します。

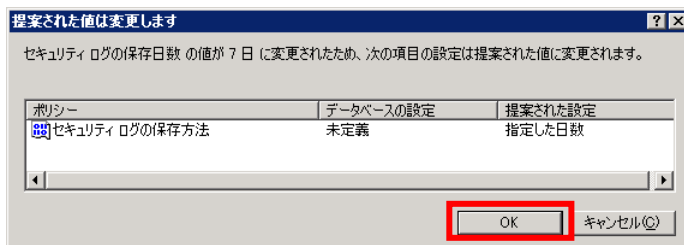
「セキュリティログの保存日数」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

「（任意の数値）日」に変更し、「OK」をクリックします。



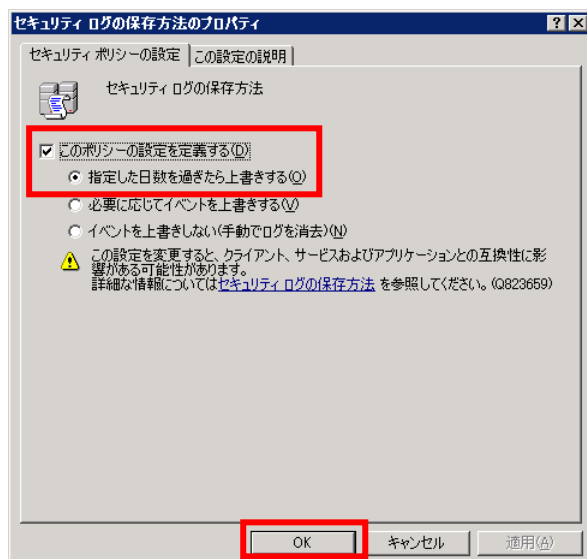
下図が表示されたら「OK」をクリックします。



④ 「セキュリティログの保存方法」を変更します。

「セキュリティログの保存方法」をダブルクリックします。

「指定した日数」にチェックが入っている事を確認し、「OK」をクリックします。

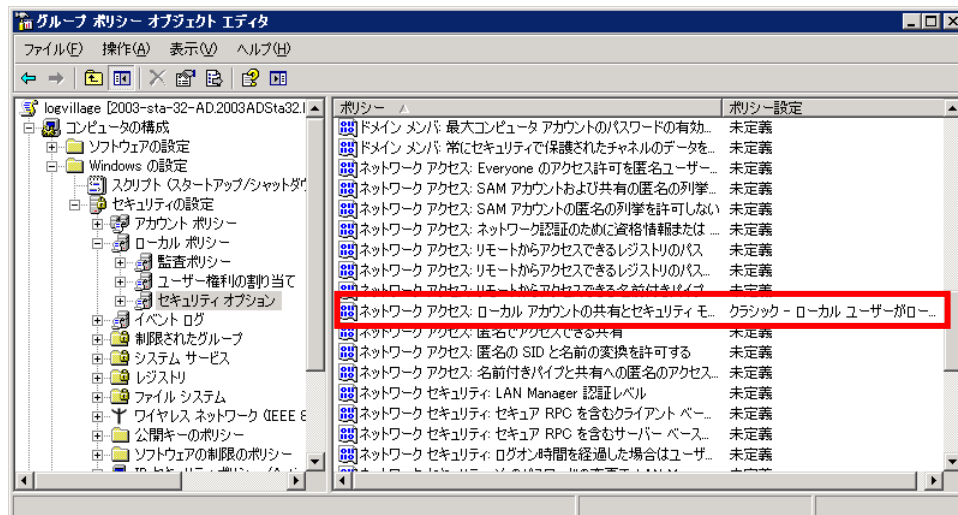


4) ネットワークアクセス時のアカウント認証方法

※以下の設定は、WindowsXP 以降必要な設定項目（Windows Server 2003 でのみ設定可能）

① 「セキュリティオプション」を開きます。

「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」の設定を開きます。

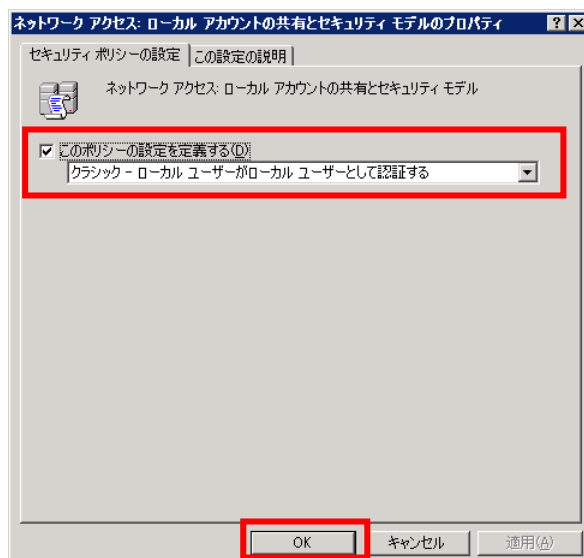


② 「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」を設定します。

「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

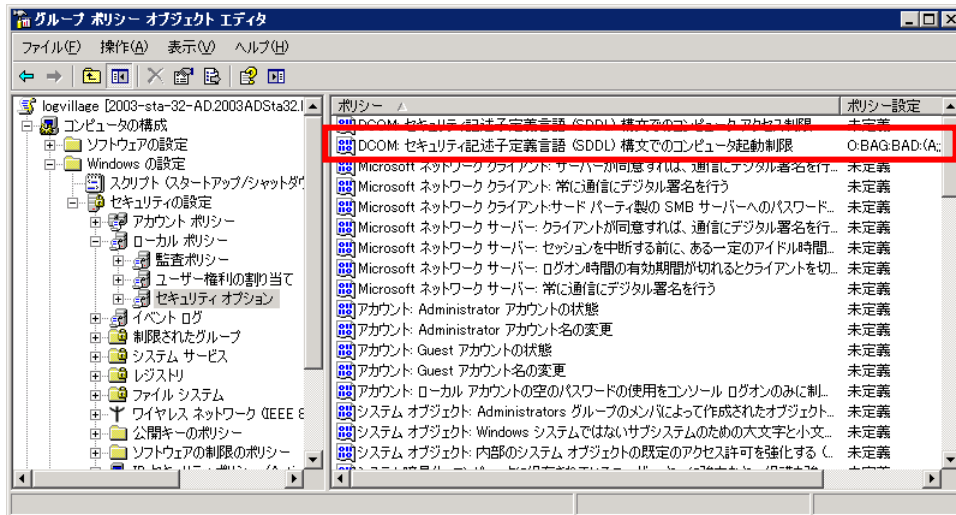
「クラシックローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する」に変更し「OK」をクリックします。



5)DCOM リモート起動のアクセス許可

① 「セキュリティオプション」を開きます。

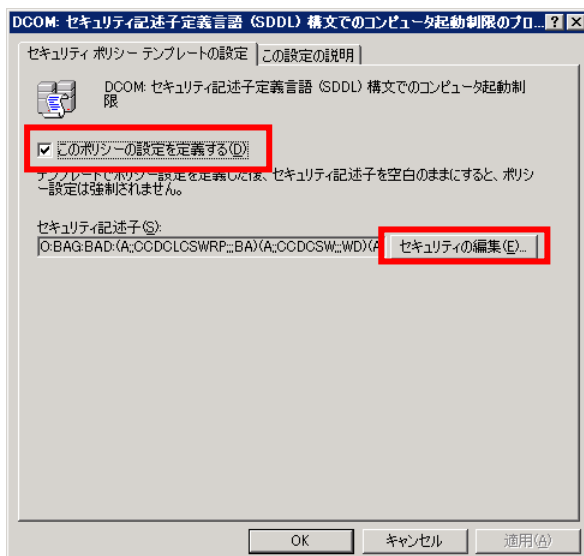
「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」の設定を開きます。



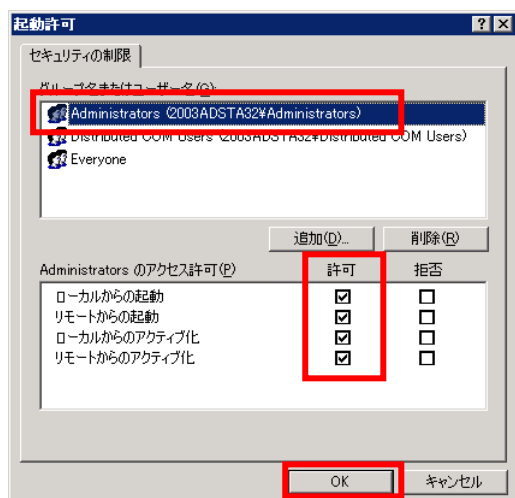
② 「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」を設定します。

「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」をダブルクリックします。

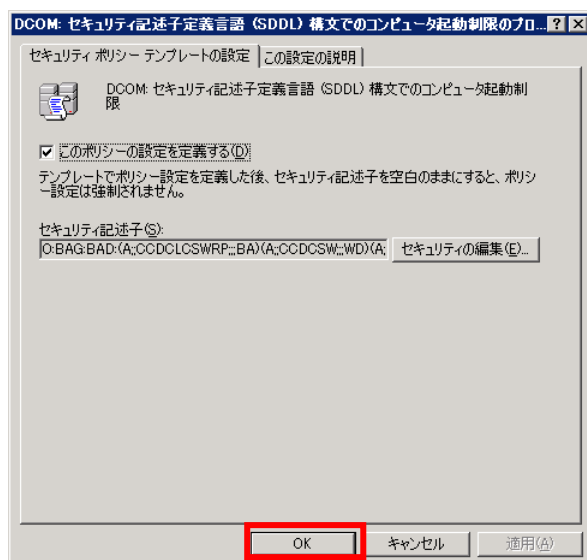
「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れ「セキュリティの編集」をクリックします。



「Administrators」をクリックし、「許可」に全てチェックが入っている事を確認後、「OK」をクリックします。



「OK」をクリックします。



③ 分散 COM 設定用の設定変更用ファイルを配置します。

設定変更用ファイル（インストール媒体内 Tools フォルダ下の LV_DCOM.adm）をドメインコントローラーサーバの x:\¥Windows¥inf へコピーします。

※x は OS インストールドライブです。

LV_DCOM.adm は以下の内容のテキストファイルです。

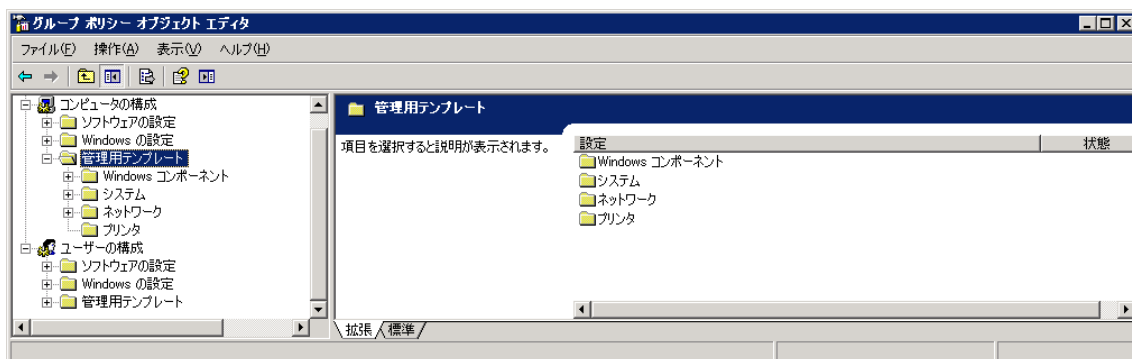
```
CLASS MACHINE

CATEGORY !!LogVillageDCOM
    POLICY !!ChangeEnabledDCOMPolicy
        KEYNAME "SOFTWARE¥Microsoft¥Ole"
        Valuename "EnabledDCOM"
        VALUEON "Y"
        VALUEOFF "N"
    END POLICY
END CATEGORY

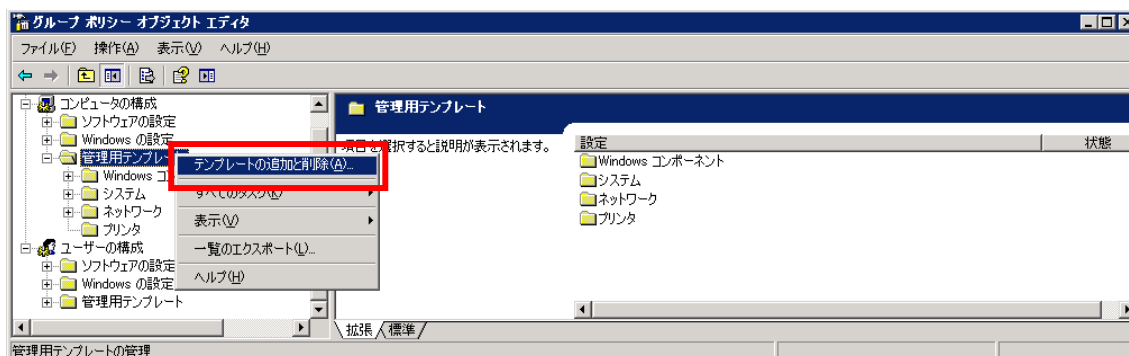
[strings]
LogVillageDCOM="LogVillage 用 DCOM 設定"
ChangeEnabledDCOMPolicy="LogVillage 用 DCOM 設定"
```

④ 「LogVillage 用 DCOM 設定」を追加します。

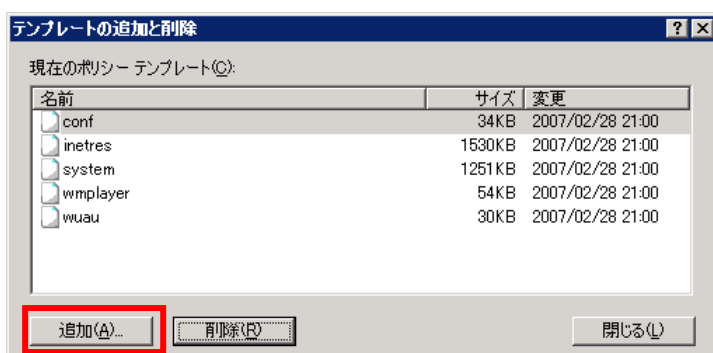
「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」を開きます。



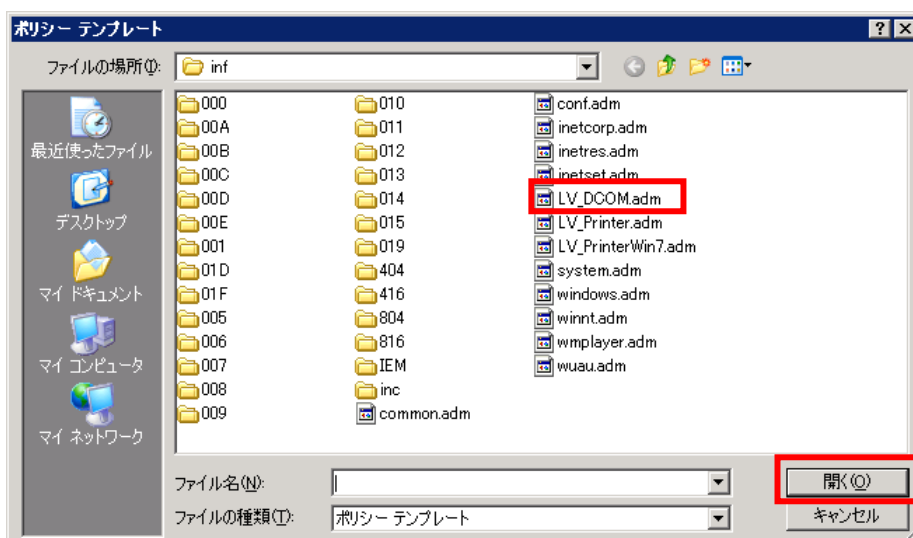
「管理者テンプレート」を右クリック、「テンプレートの追加と削除」をクリックします。



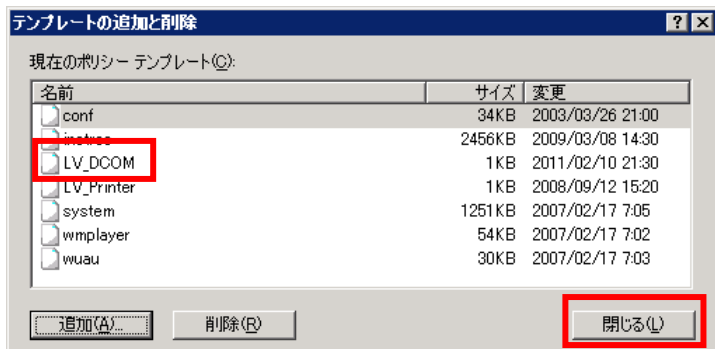
「追加」をクリックします。



「LV_DCOM.adm」をクリック後、「開く」をクリックします。



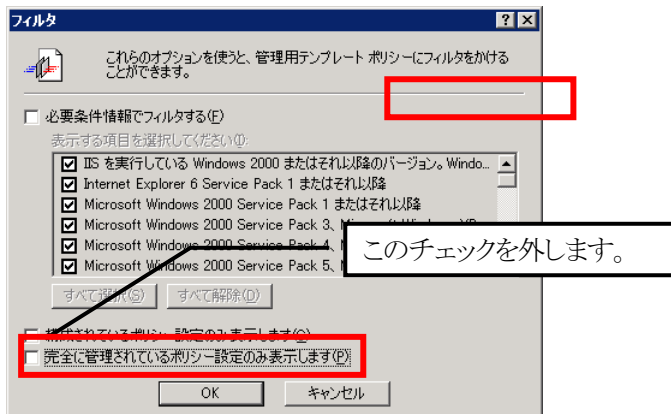
「LV_DCOM」が一覧に表示された事を確認し、「閉じる」をクリックします。



- ⑤ 「LogVillage 用 DCOM 設定」のフィルタを設定します。

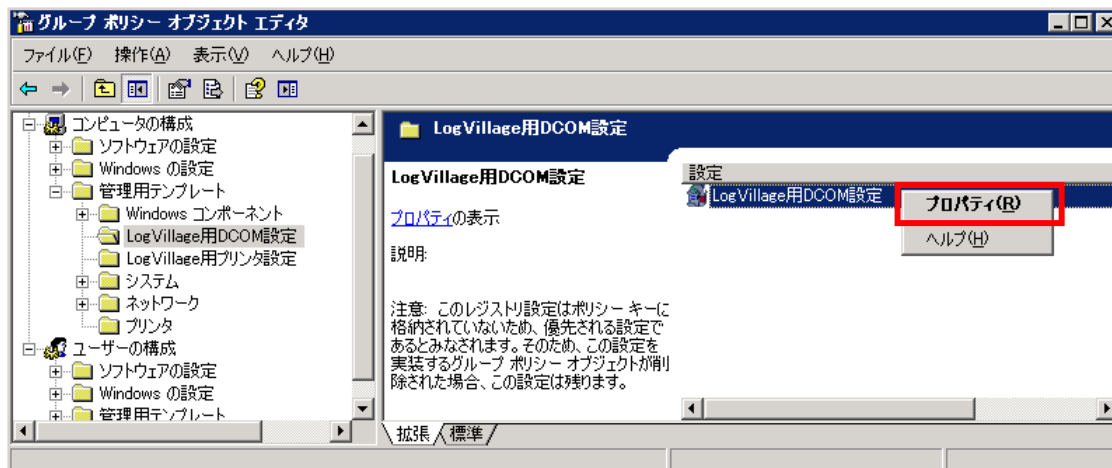
「グループポリシー オブジェクト エディタ」の「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「LogVillage 用 DCOM 設定」を右クリック「表示」→「フィルタ」をクリックします。

「完全に管理されているポリシー設定のみ表示します」のチェックを外し「OK」をクリックします。



⑥ 「LogVillage 用 DCOM 設定」を有効に変更します。

「LogVillage 用 DCOM 設定」を右クリック「プロパティ」をクリックします。



「有効」をクリック後、「OK」をクリックします。

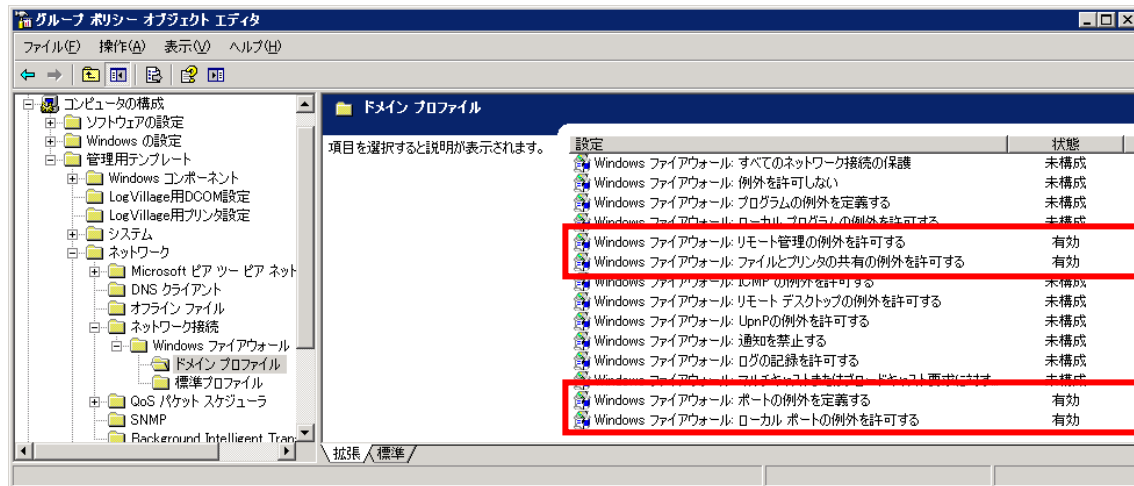


6) ファイアウォール

※以下の設定は、WindowsXP 以降必要な設定項目（Windows Server 2003 でのみ設定可能）

① 「ドメインプロファイル」を開きます。

「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「ネットワーク」→「ネットワーク接続」→「Windows ファイアウォール」→「ドメインプロファイル」の設定を開きます。

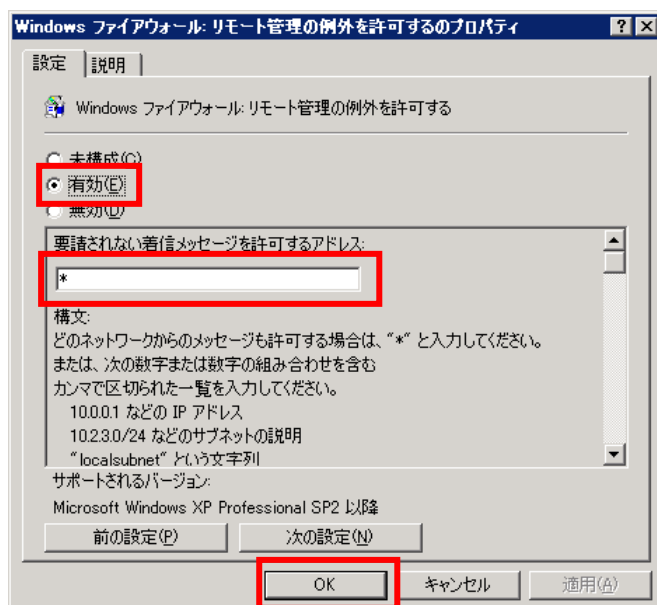


② 「Windows ファイアウォール: リモート管理の例外を許可する」を設定します。

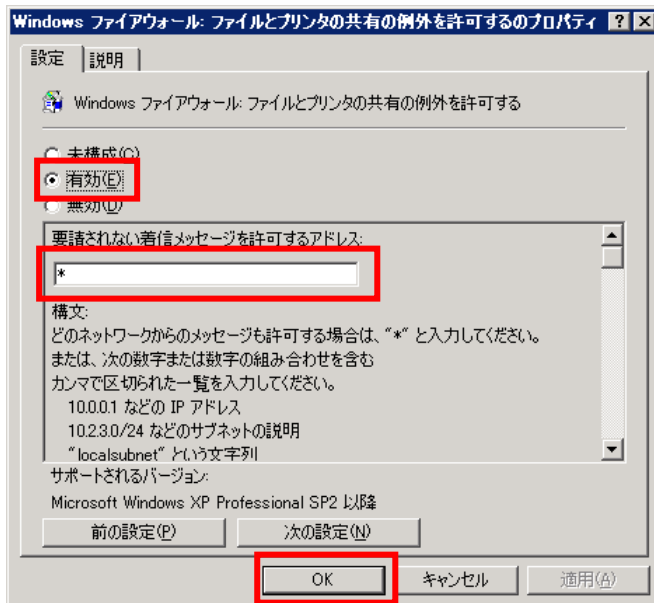
「Windows ファイアウォール: リモート管理の例外を許可する」をダブルクリックします。

「有効」に変更し、「要請されない着信メッセージを許可するアドレス」に * を入力し「OK」をクリックします。

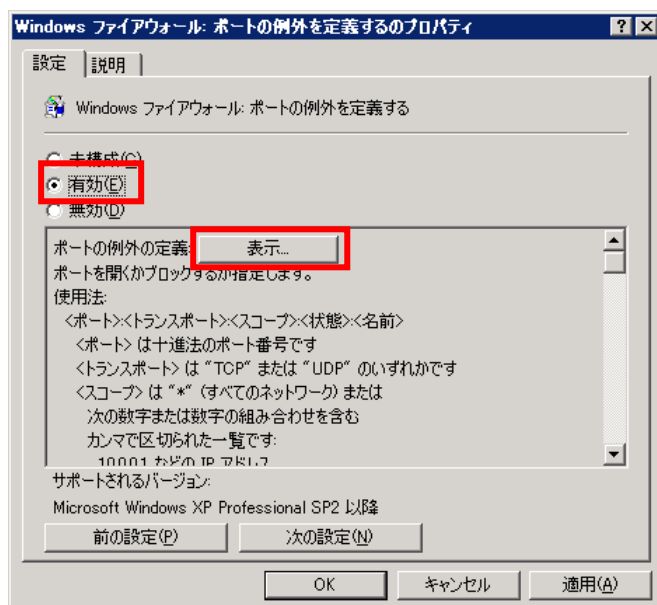
※各管理対象 PC 上で、本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合は、* をポーリングサーバーのアドレスに変更します。（スコープ設定）



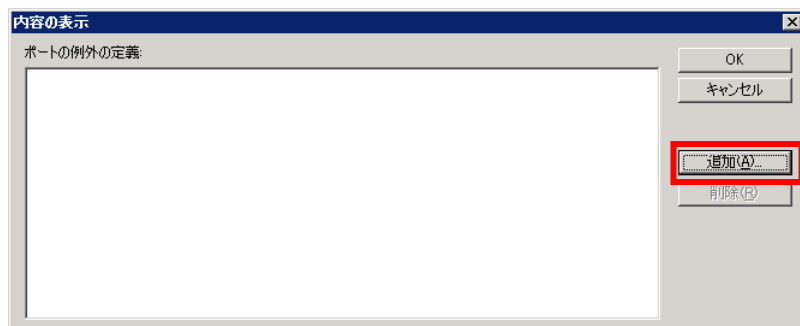
- ③ 「Windows ファイアウォール:ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」を設定します。
 「Windows ファイアウォール:ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」をダブルクリックします。
 「有効」に変更し、「要請されない着信メッセージを許可するアドレス」に * を入力し「OK」をクリックします。
 ※各管理対象 PC 上で、本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合は、* をポーリングサーバーのアドレスに変更します。（スコープ設定）



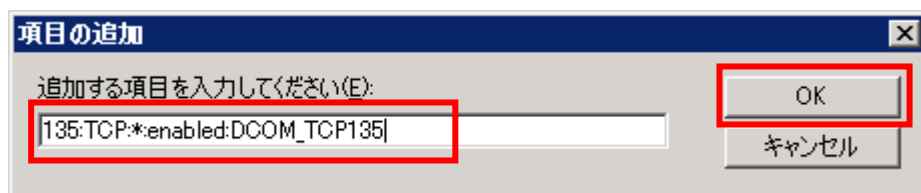
- ④ 「Windows ファイアウォール:ポートの例外を定義する」を設定します。
 「Windows ファイアウォール:ポートの例外を定義する」をダブルクリックします。
 「有効」に変更し、「ポートの例外定義」の「表示」をクリックします。



「追加」をクリックします。

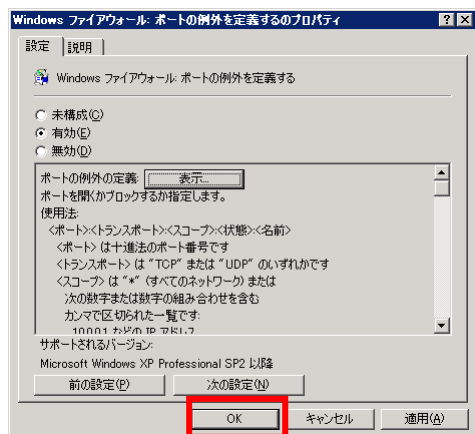
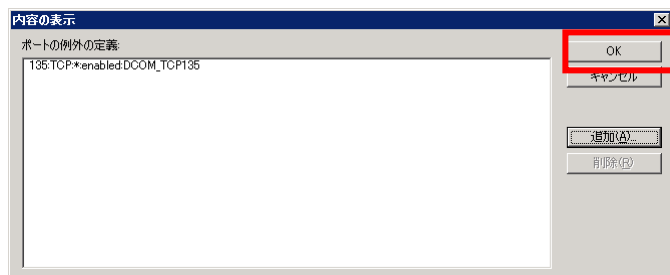


「追加する項目を入力してください」に「135:TCP:*:enabled:DCOM_TCP135」を入力し「OK」をクリックします。

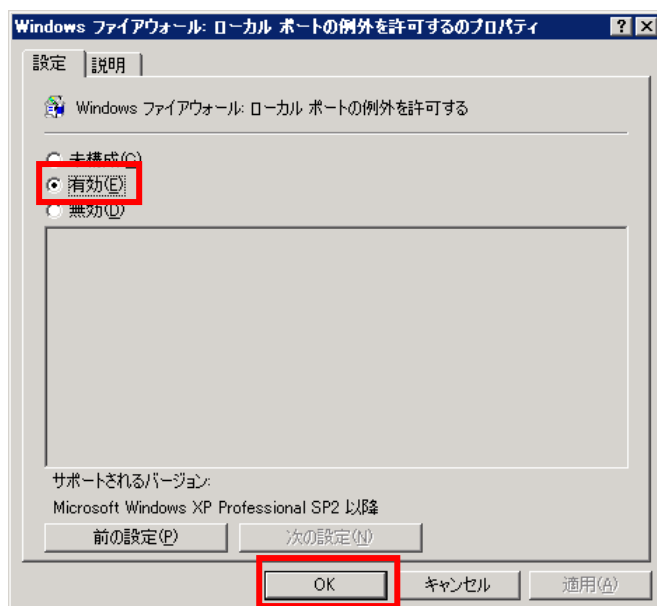


※各管理対象 PC にて本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合、*をポーリングサーバーのアドレスに変更して設定します。（スコープ設定）

「OK」を2回クリックし、画面を閉じます。



- ⑤ 「Windows ファイアウォール: ローカルポートの例外を許可する」を設定します。
「Windows ファイアウォール: ポートの例外を許可する」をダブルクリックします。
「有効」に変更し、「OK」をクリックします。



以上で「7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)」の設定は完了です。

次は「7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)」を行います。

7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2008 Active Directory 環境)

※Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境の場合は「7-4-1-1. グループポリシー設定変更項目 (Windows Server 2003 および Windows 2000 Server ActiveDirectory 環境)」をご参照ください。

グループポリシーで管理対象 PC の設定内容を変更する場合、以下の項目を変更します。

<input type="checkbox"/>	1	リモートレジストリーサービス
	目的 設定内容	アプリケーション情報など、レジストリ情報を必要とするログの収集が可能となります。 ・「システムサービス」の以下を「自動」に定義します。 「Remote Registry」
<input type="checkbox"/>	2	プリンターログ設定
	目的 設定内容	印刷履歴のログが残るように変更します。 ・「WindowsVista 以前用*.adm ファイル」を配置し、有効にします。 ・Windows7 の管理対象 PC には設定変更の必要はありません。 LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。
<input type="checkbox"/>	3	アカウント・ログオン・ログ
	目的 設定内容	ログオン・ログオフの履歴が残るように変更します。 ・「ローカルポリシー」の以下を「成功」に定義します。 「アカウント ログオンイベントの監査」、「ログオンイベント の監査」 ・「セキュリティログの最大サイズ」を変更します。
<input type="checkbox"/>	4	ネットワークアクセス時のアカウント認証方法
	目的 設定内容	LogVillagePS からの通信に必要な設定で、ネットワークログオンの認証方法を変更します。 ・「ローカルポリシー」の以下を「クラシックローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する」に定義します。 「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」
<input type="checkbox"/>	5	DCOM リモート起動のアクセス許可
	目的 設定内容	WMI (ハードウェア台帳など) の WMI 情報を必要とするログの収集が可能となります。 ・「ローカルポリシー」の「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」の以下を全ての項目で「許可」に定義します。 「Administrators」 ・「分散 COM 設定用*.adm ファイル」を配置し、「管理用テンプレート」に追加し、「有効」に定義します。
<input type="checkbox"/>	6	ファイアウォール
	目的 設定内容	LogVillagePS からの通信に必要な設定で、ログ収集に必要な通信をブロックしないように変更します。 ・「ドメインプロファイル」の以下を有効に定義します 「Windows ファイアウォール: リモート管理の例外を許可する」 「Windows ファイアウォール: ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」 「Windows ファイアウォール: ポートの例外を許可する」 ・以下に「TCP135」を追加します。 「Windows ファイアウォール: ポートの例外を定義する」

※チェックリストとしてご利用ください。

以下の項目は変更していません。

<input type="checkbox"/>	7	UAC 機能の停止
	理由	AD の場合、変更の必要はありません
<input type="checkbox"/>	8	ディスク・パフォーマンス・ログ
	理由	管理対象 PC が Windows2000 のみ必要な設定です。クライアント側で実行してください。

Copyright © 2007-2012 SO-TEN, Inc. All Rights Reserved.

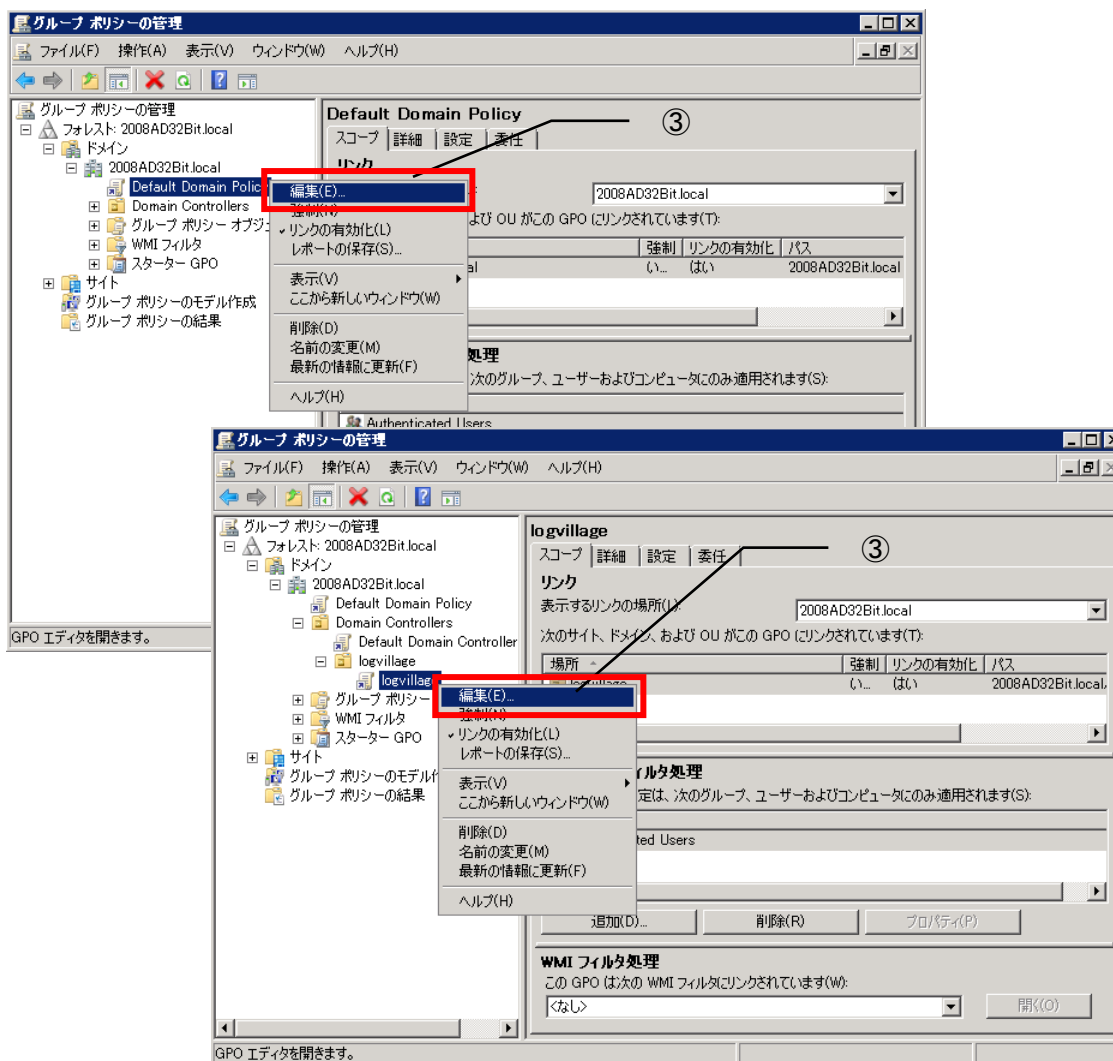
グループポリシー設定画面「グループ ポリシー管理エディタ」の表示方法

① 「グループポリシーの管理」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「管理ツール」→「グループポリシーの管理」を起動します。

② 設定を行うドメイン名またはOUを展開します。

③ 変更するポリシーを右クリックし、「編集」をクリックします。



左上図は、Default Domain Policy（全体）に設定する場合の例です。

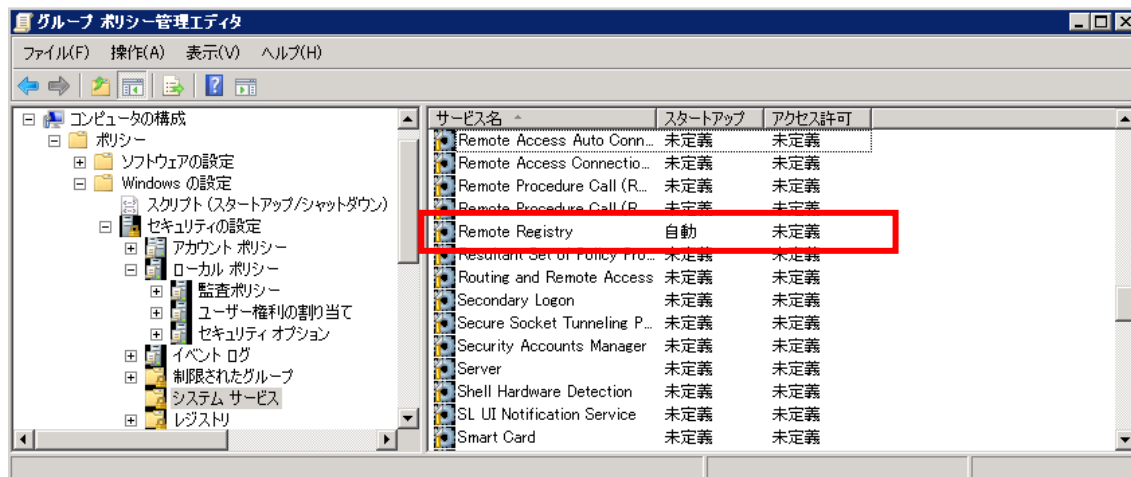
右下図は、OU 名「logvillage」に、GPO 名「logvillage」を作成し、設定する場合の例です。

1) リモートレジストリーサービス

① 「システムサービス」を開きます。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「システムサービス」の設定を開きます。

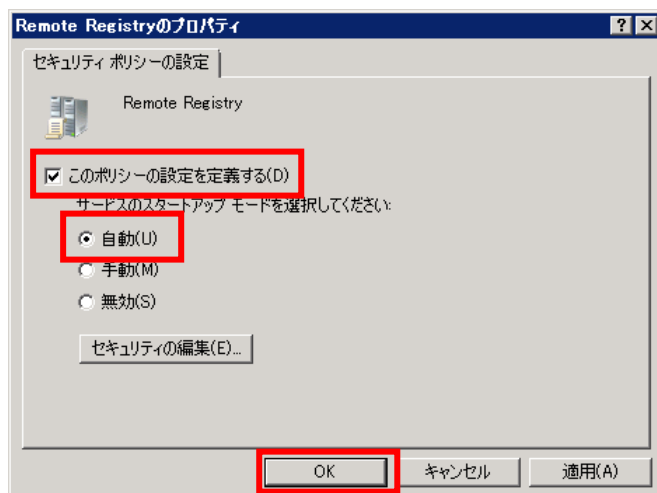


② 「Remote Registry」を設定します。

サービス名「Remote Registry」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する(D)」にチェックを入れます。

「自動」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



2) プリンターログ設定

■WindowsVista 以前の管理対象 PC 用の設定のみ必要となります

① 設定変更用ファイルを配置します。

設定変更用ファイル（インストール媒体内 Tools フォルダ下の LV_Printer.adm）をドメインコントローラーサーバの x:\Windows\inf へコピーします。

※x は OS インストールドライブです。

LV_Printer.adm は以下の内容のテキストファイルです。

```
CLASS MACHINE

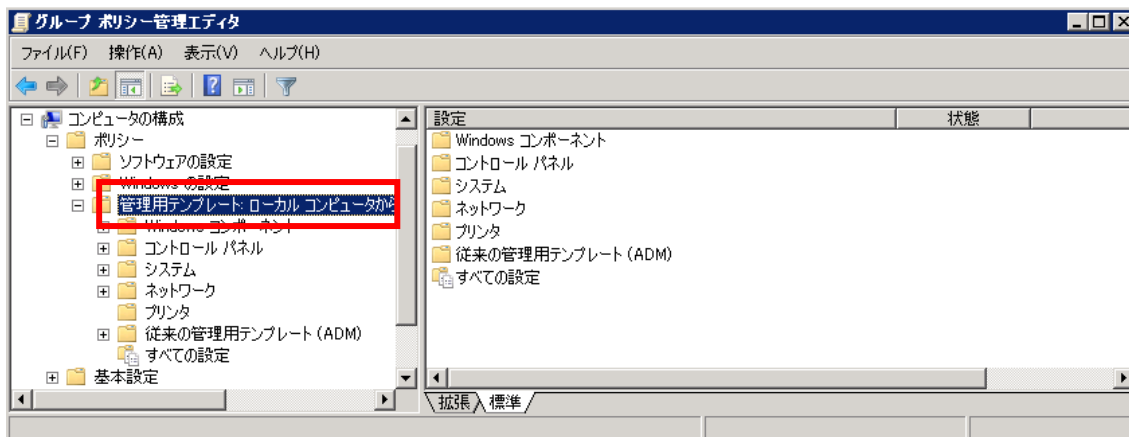
CATEGORY !!LogVillagePrint
    POLICY !!ChangePrintEventlogPolicy
        KEYNAME "System\CurrentControlSet\Control\Print\Providers"
        Valuename "EventLog"
            VALUEON NUMERIC 7
            VALUEOFF NUMERIC 3
        END POLICY
    END CATEGORY

[strings]
LogVillagePrint="LogVillage 用プリンタ設定"
ChangePrintEventlogPolicy="LogVillage 用プリンタ設定"
```

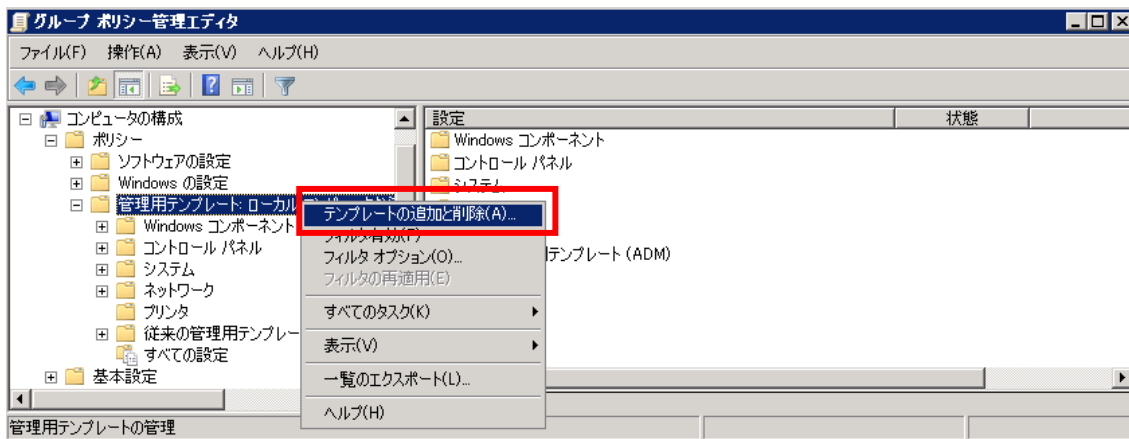
- ② 「LogVillage 用プリンタ設定 (WindowsVista 以前)」を追加します。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

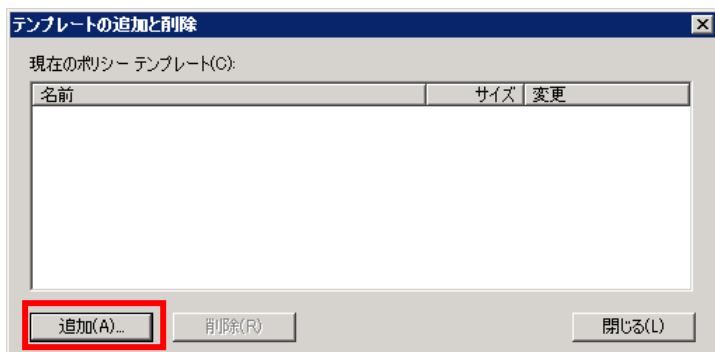
「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」を開きます。



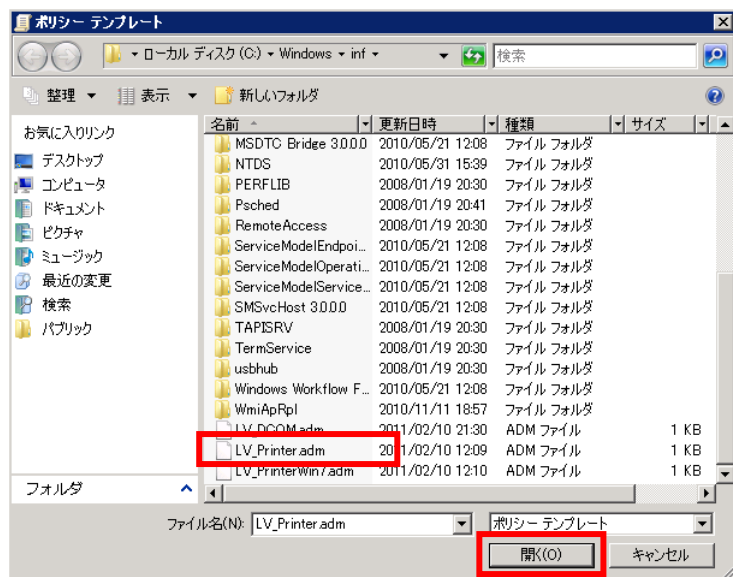
「管理者テンプレート」を右クリック、「テンプレートの追加と削除」をクリックします。



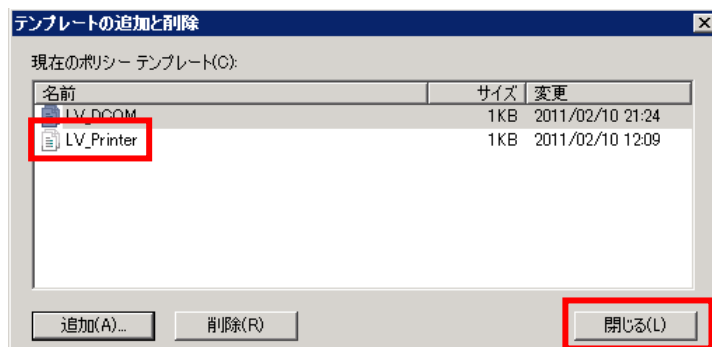
「追加」をクリックします。



「LV_Printer.adm」をクリック後「開く」をクリックします。



「LV_Printer」が一覧に表示された事を確認し、「閉じる」をクリックします。



※管理対象PCがWindows7の場合

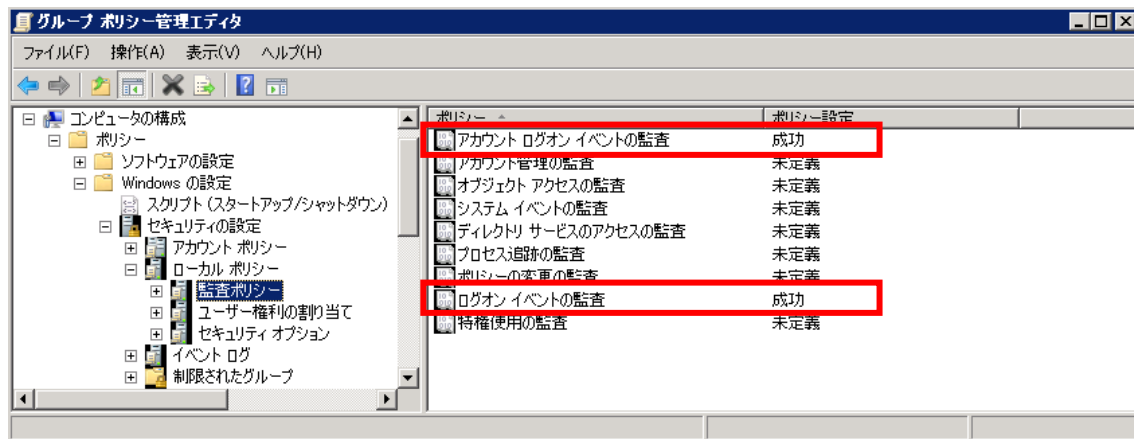
LogVillage ポーリングサーバが、該当 PC への初回ポーリング時に自動設定します。
そのため、Windows7の管理対象PCに対するプリンターログに関する設定変更は必要ありません。

3) アカウント・ログオン・ログ

① 「監査ポリシー」を開きます。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「監査ポリシー」の設定を開きます。

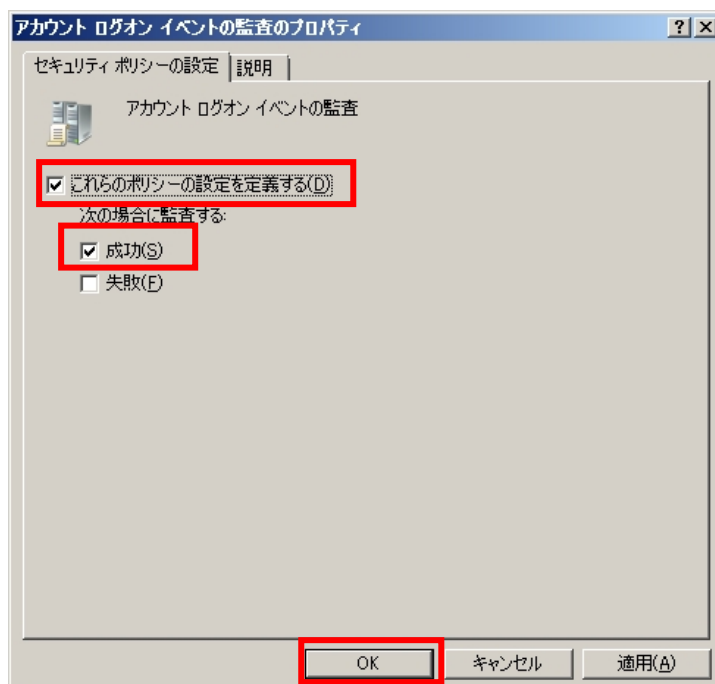


② 「アカウント ログオンイベントの監査」を設定します。

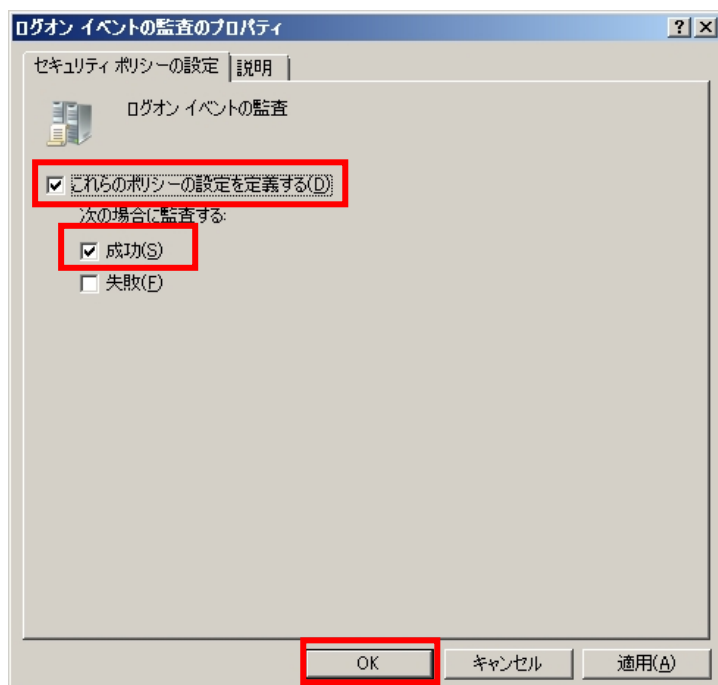
ポリシー名「アカウント ログオンイベントの監査」をダブルクリックします。

「これらのポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



- ③ 「ログオンイベント の監査」を設定します。
- ポリシー名「ログオンイベント の監査」をダブルクリックします。
- 「これらのポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。
- 「成功」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



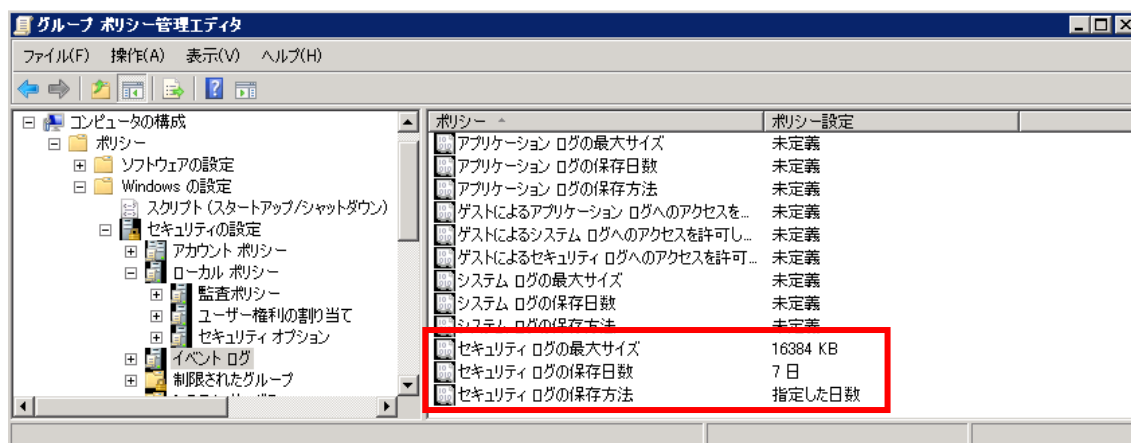
イベントログの修正

※手順③までの設定によりイベントログのセキュリティログにはLogVillagePSからのアクセスに対してもログが残ります。

このため、ユーザーのアクセスログを保存するために、セキュリティログの最大サイズを変更してください。

① 「イベントログ」を開きます。

「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「イベントログ」の設定を開きます。

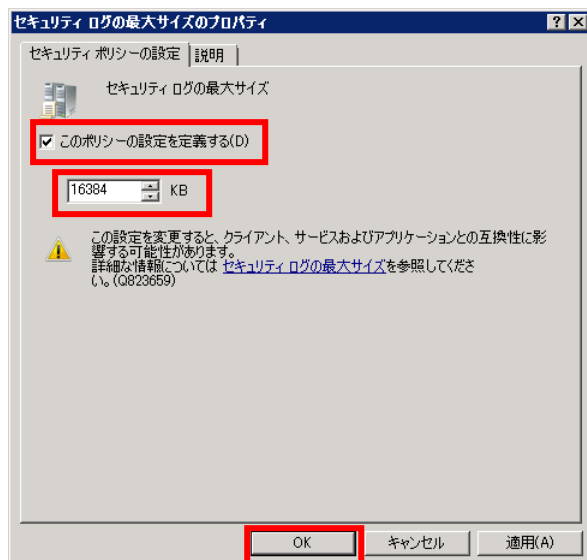


② 「セキュリティログの最大サイズ」を設定します。

ポリシー名「セキュリティログの最大サイズ」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

「(任意の数値) KB」に変更し、「OK」をクリックします。(推奨値 163,840KB)



※セキュリティログの最大サイズまでログが保存された場合の動作は、3種類あります。ポリシーに適した動作を選択してください。

- ・ 指定した日数を過ぎたら上書きする

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は、この設定により指定した日数のセキュリティログが必ず保存されます。

指定した日数を経過する前にセキュリティログが最大サイズになった場合、管理者権限を持ったユーザー以外ではOSにログインできなくなります。

指定した日数以上LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

- ・ 必要に応じてイベントを上書きする

セキュリティログが最大サイズになった場合、古いログから削除されます。

一定期間のログを必ず残すポリシーの場合は「指定した日数を過ぎたら上書きする」を選択する必要があります。

LogVillageにてセキュリティログを収集していない場合、上書により削除された期間のログが収集できません。

- ・ イベントを上書きしない（手動でログを消去）

セキュリティログを手動で削除する必要があります。

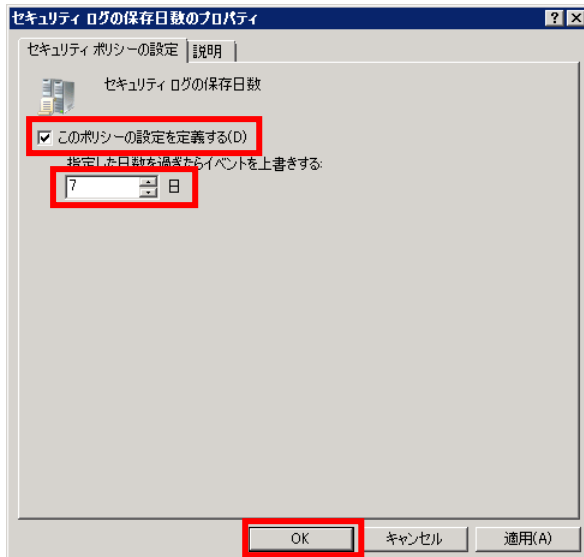
各PC毎に手動でイベントログのメンテナンスを行うポリシーの場合のみ、選択してください。

ログが自動的に削除されても問題無い場合は、「必要に応じてイベントを上書きする」を選択してください。

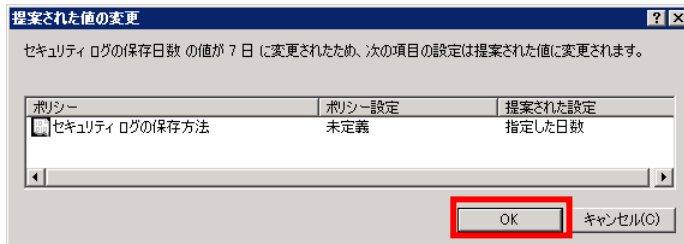
ログの削除を禁止している場合は、「イベントを上書きしない（手動でログを消去）」を選択してください。

※以下では、「指定した日数を過ぎたら上書きする」「7日間」の設定をご案内します。

- ③ 「セキュリティログの保存日数」を設定します。
「セキュリティログの保存日数」をダブルクリックします。
「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。
「（任意の数値）日」に変更し、「OK」をクリックします。



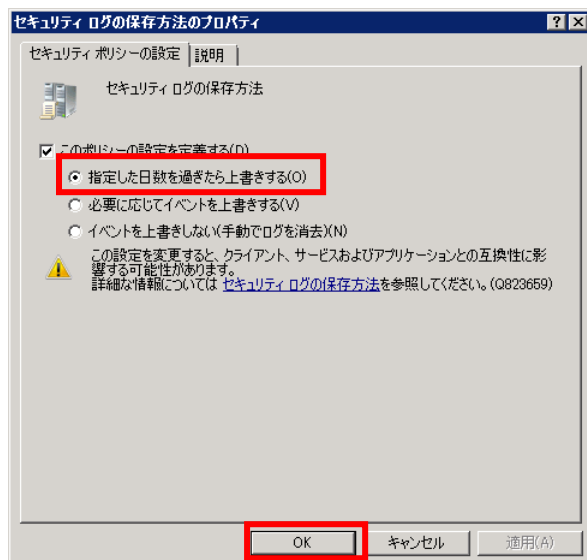
下図が表示されたら「OK」をクリックします。



④ 「セキュリティログの保存方法」を設定します。

「セキュリティログの保存方法」をダブルクリックします。

「指定した日数を過ぎたら上書きする」にチェックが入っている事を確認し、「OK」をクリックします。



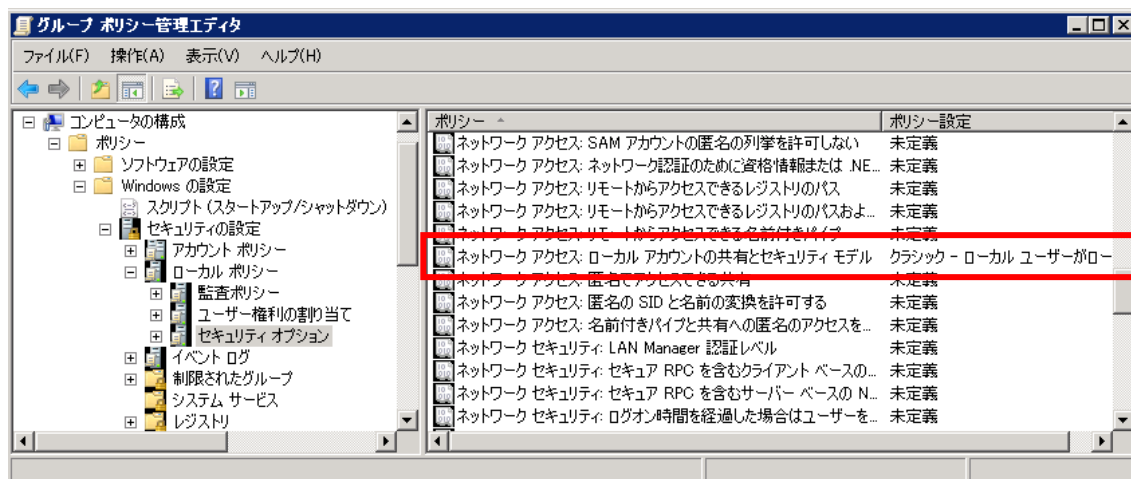
4) ネットワークアクセス時のアカウント認証方法

※以下の設定は、管理対象 PC が Windows XP 以降である場合、必要な設定項目です。

① 「セキュリティオプション」を開きます。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」の設定を開きます。

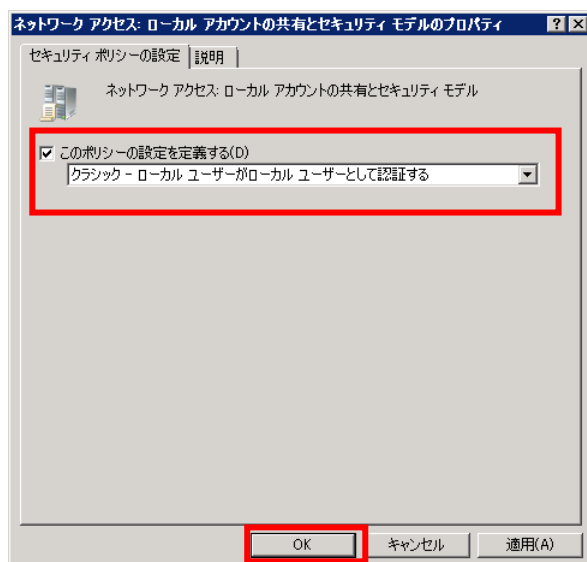


② 「ネットワーク アクセス: ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル」を設定します。

「ネットワーク アクセス: ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

「クラシックローカルユーザがローカルユーザとして認証する」が選択されている事を確認し「OK」をクリックします。

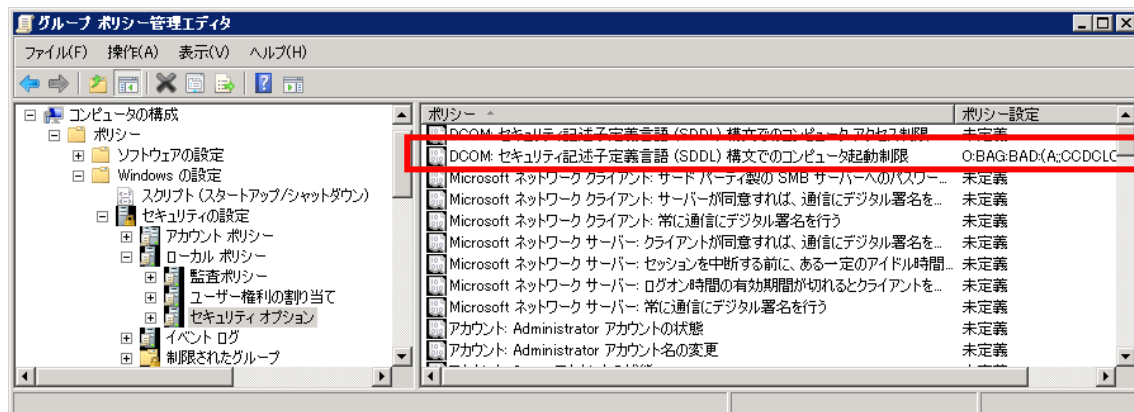


5)DCOM リモート起動のアクセス許可

- ① 「セキュリティオプション」を開きます。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

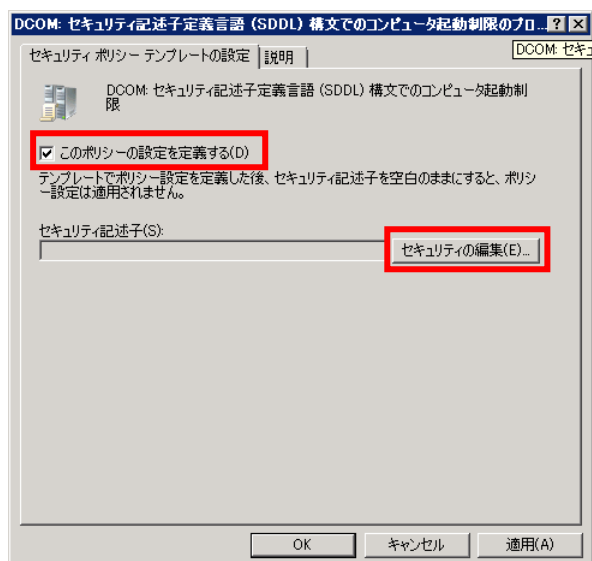
「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」の設定を開きます。



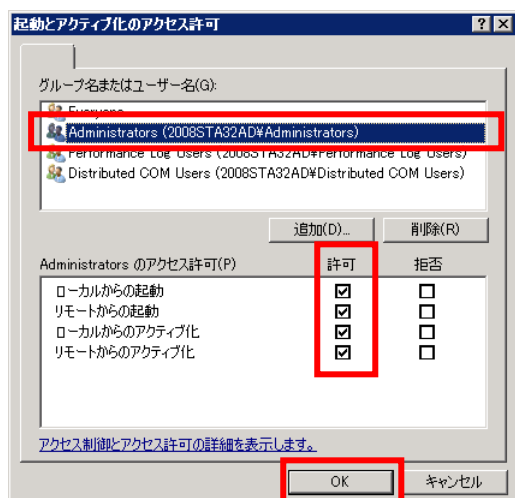
- ② 「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」を設定します。
ポリシー名「DCOM: セキュリティ記述子定義言語 (SDDL) 構文でのコンピュータ起動制限」をダブルクリックします。

「このポリシーの設定を定義する」にチェックを入れます。

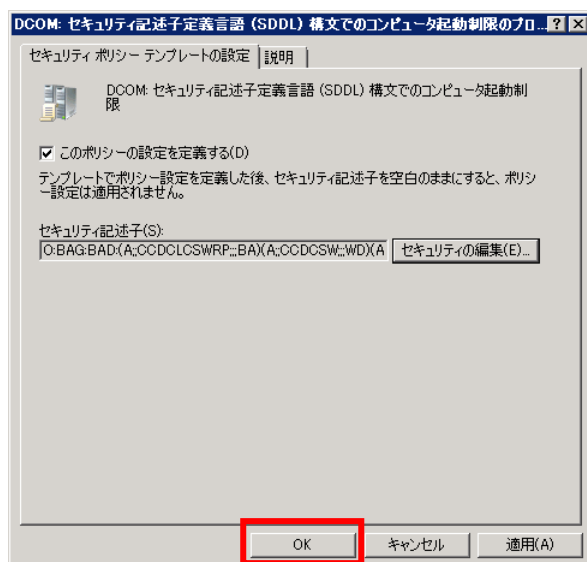
「セキュリティの編集」をクリックします。



「Administrators」をクリックし、「許可」に全てチェックが入っている事を確認後、「OK」をクリックします。



「OK」をクリックします。



③ 分散 COM 設定用の設定変更用ファイルを配置します。

設定変更用ファイル（インストール媒体内 Tools フォルダ下の LV_DCOM.adm）をドメインコントローラーサーバの x:\%Windows%\inf へコピーします。

※x は OS インストールドライブです。

LV_DCOM.adm は以下の内容のテキストファイルです。

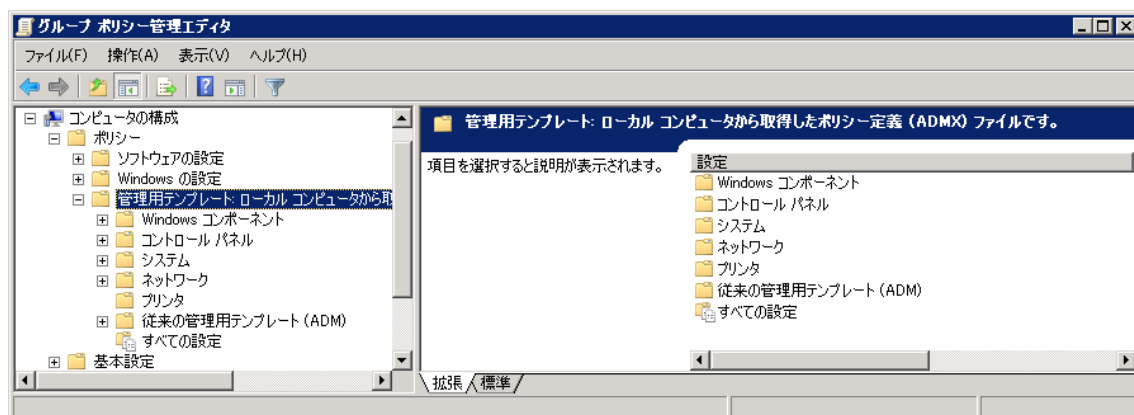
```
CLASS MACHINE

CATEGORY !!LogVillageDCOM
    POLICY !!ChangeEnabledDCOMPolicy
        KEYNAME "SOFTWARE\Microsoft\OLE"
        Valuename "EnabledDCOM"
        VALUEON "Y"
        VALUEOFF "N"
    END POLICY
END CATEGORY

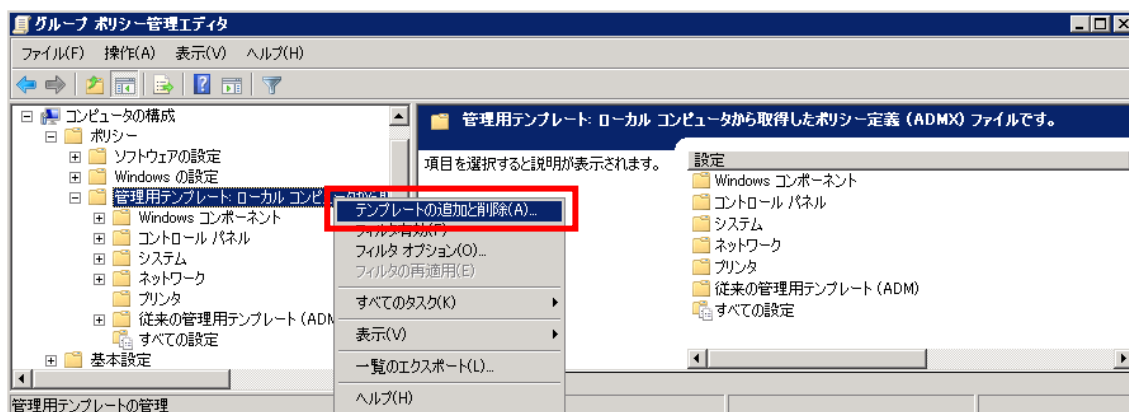
[strings]
LogVillageDCOM="LogVillage 用 DCOM 設定"
ChangeEnabledDCOMPolicy="LogVillage 用 DCOM 設定"
```

④ 「LogVillage 用 DCOM 設定」を追加します。

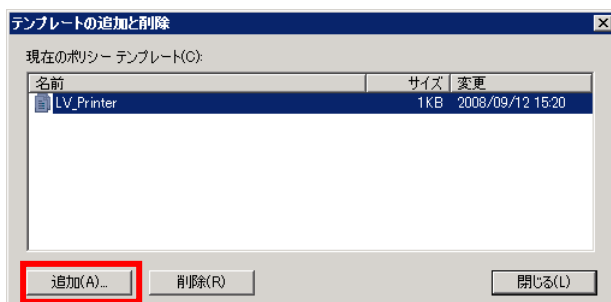
「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」を開きます。



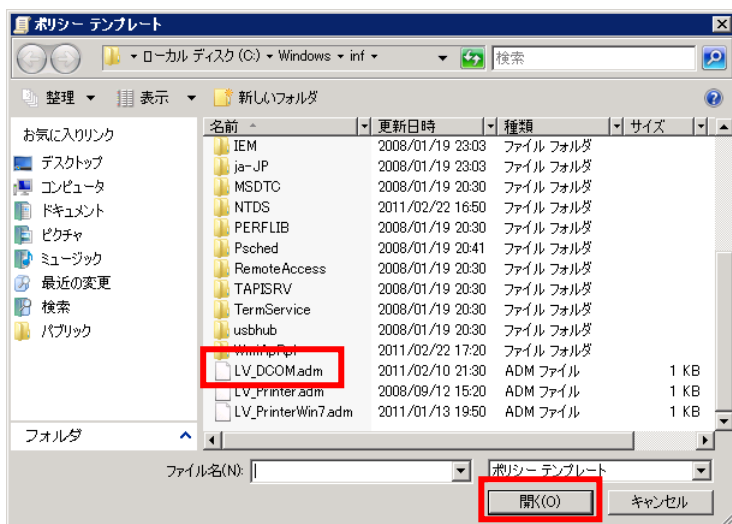
「管理用テンプレート」を右クリック、「テンプレートの追加と削除」をクリックします。



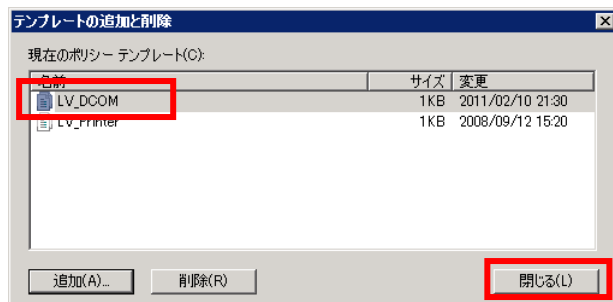
「追加」をクリックします。



「LV_DCOM.adm」をクリック後、「開く」をクリックします。

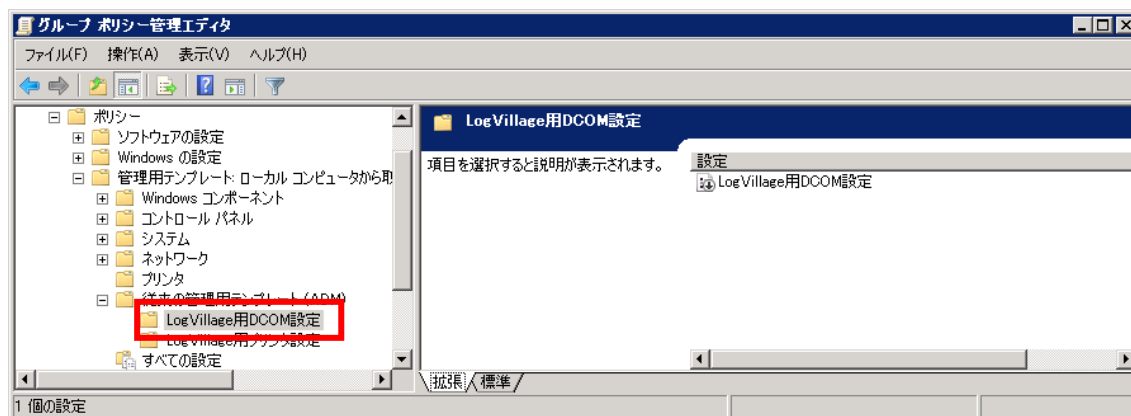


「LV_DCOM」が一覧に表示された事を確認し、「閉じる」をクリックします。

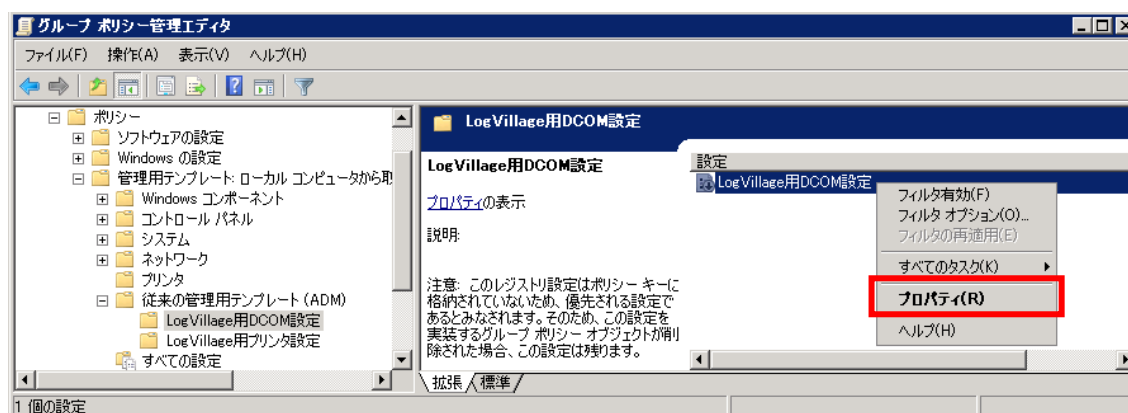


- ⑤ 「LogVillage 用 DCOM 設定」を有効に変更します。

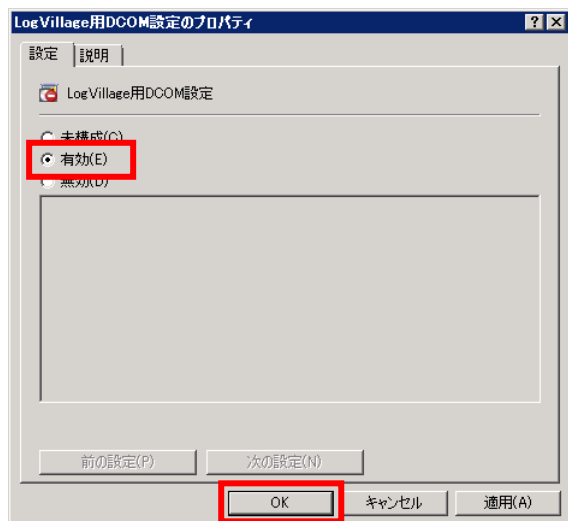
「管理用テンプレート」→「従来の管理テンプレート (ADM)」→「LogVillage 用 DCOM 設定」をクリックします。



「LogVillage 用 DCOM 設定」を右クリック「プロパティ」をクリックします。



「有効」をクリック後、「OK」をクリックします。



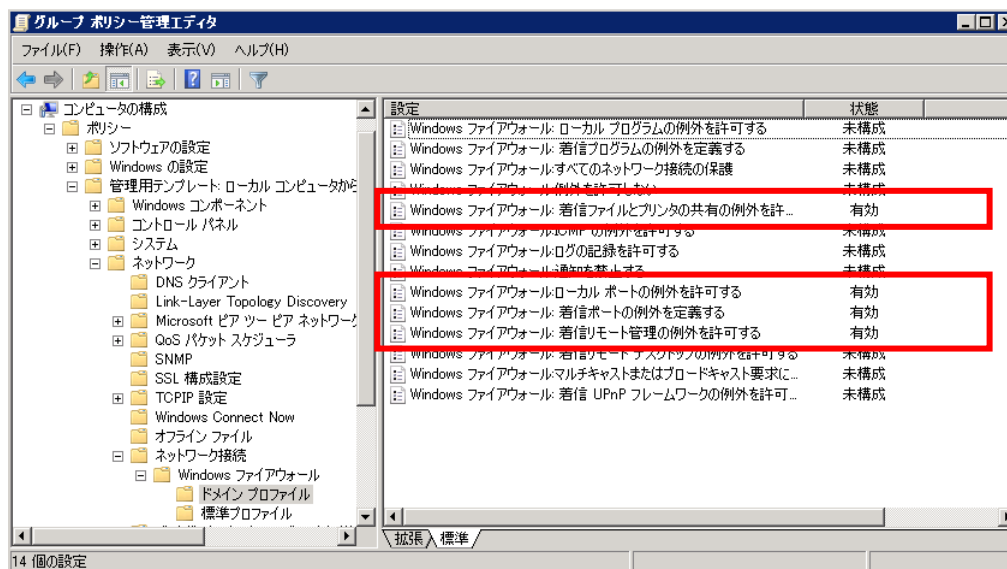
6)ファイアウォール

※以下の設定は、管理対象 PC が WindowsXP 以降である場合、必要な設定項目です。

① 「ドメインプロファイル」を開きます。

設定を変更する「グループ ポリシー管理エディタ」を開きます。

「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「管理用テンプレート」→「ネットワーク」→「ネットワーク接続」→「Windows ファイアウォール」→「ドメインプロファイル」の設定を開きます。

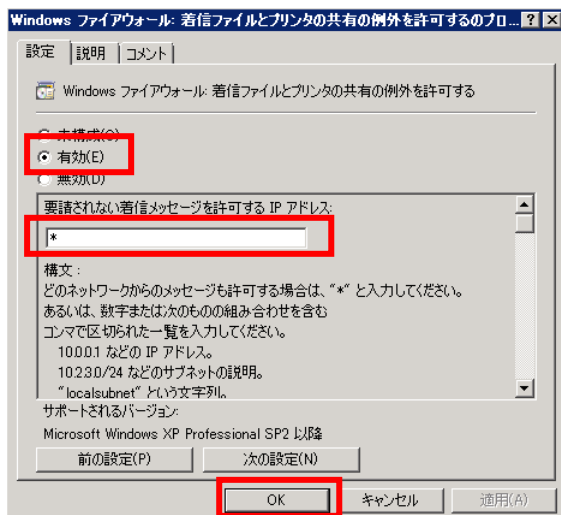


- ② 「Windows ファイアウォール：着信ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」を設定します。

設定名「Windows ファイアウォール：着信ファイルとプリンタの共有の例外を許可する」をダブルクリックします。

「有効」をクリックします。

「要請されない着信メッセージを許可する IP アドレス」に * を入力し、「OK」をクリックします。

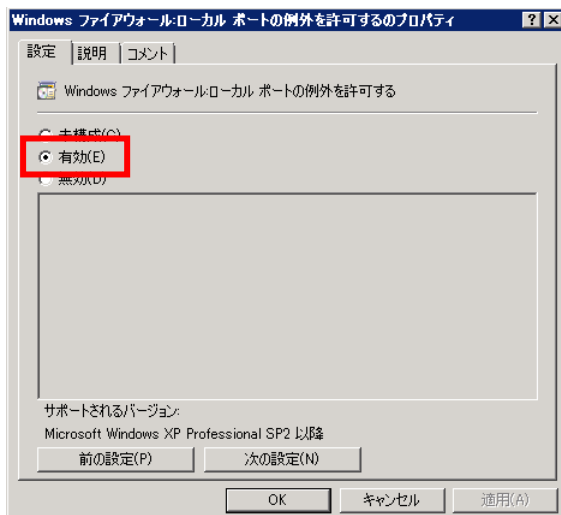


※各管理対象 PC 上で、本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合は、* をポーリングサーバーのアドレスに変更します。（スコープ設定）

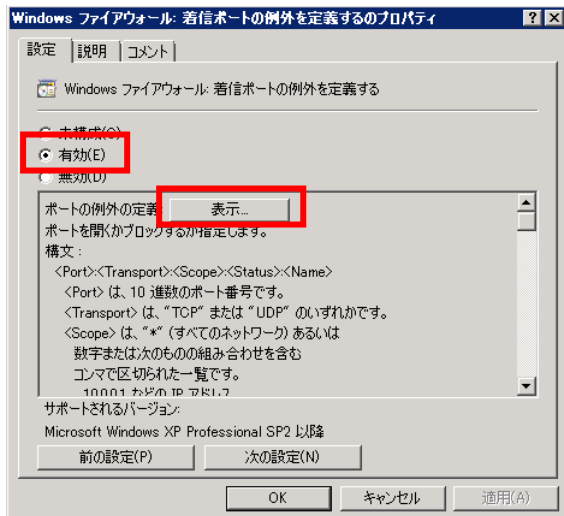
- ③ 「Windows ファイアウォール：ローカルポートの例外を許可する」を設定します。

設定名「Windows ファイアウォール：ローカルポートの例外を許可する」をダブルクリックします。

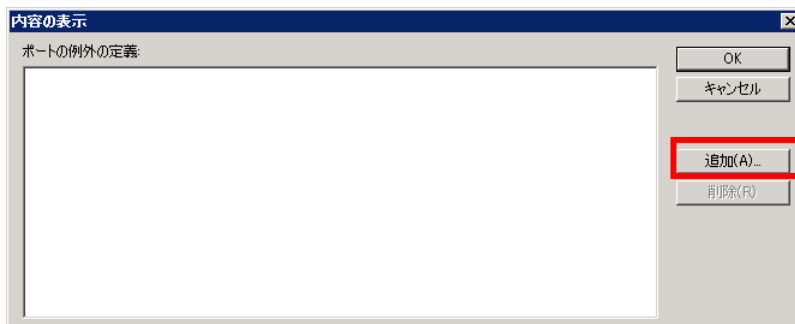
「有効」をクリック後、「OK」をクリックします。



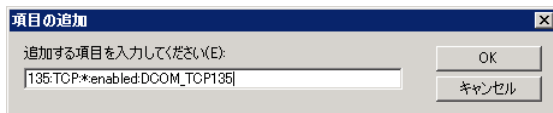
- ④ 「Windows ファイアウォール：着信ポートの例外を定義する」を設定します。
 設定名「Windows ファイアウォール：着信ポートの例外を定義する」をダブルクリックします。
 「有効」をクリックし、「ポートの例外定義」の「表示」をクリックします。



「追加」をクリックします。

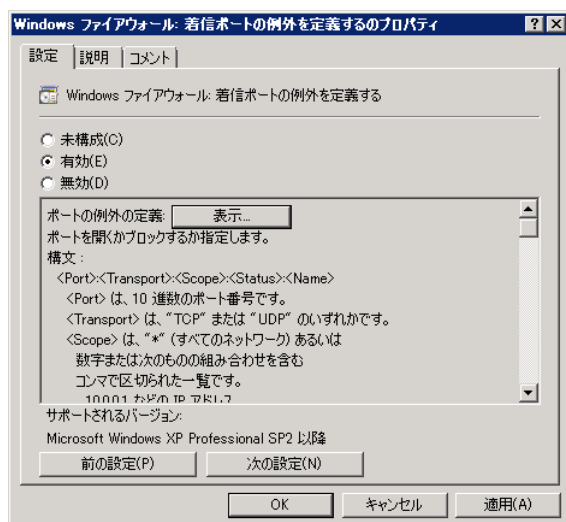
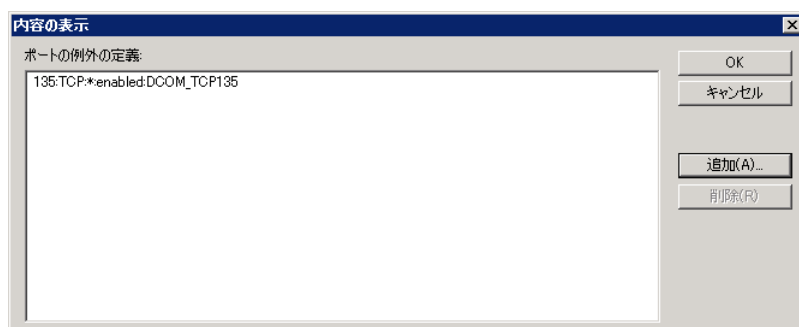


「追加する項目を入力してください」に「135:TCP:*:enabled:DCOM_TCP135」を入力し「OK」をクリックします。

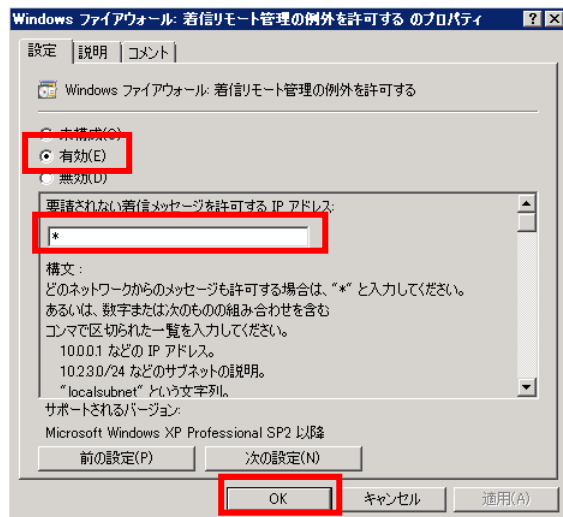


※各管理対象 PC にて本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合、*をポーリングサーバーのアドレスに変更して設定します。（スコープ設定）

「OK」を2回クリックし、画面を閉じます。



- ⑤ 「Windows ファイアウォール：着信リモート管理の例外を許可する」を設定します。
 設定名「Windows ファイアウォール：着信リモート管理の例外を許可する」をダブルクリック
 します。
 「有効」をクリックします。
 「要請されない着信メッセージを許可するアドレス」に * を入力し「OK」をクリックします。



※各管理対象 PC 上で、本設定をポーリングサーバーに対してのみ許可する場合は、* をポーリングサーバーのアドレスに変更します。（スコープ設定）

以上で「7-4-1-2. グループポリシー設定変更項目（Windows Server 2008 Active Directory 環境）」
 の設定は完了です。

次は「7-4-2. LogVillageMGR に登録いただく各管理対象 PC のユーザー設定項目」を行います。

7-4-2. LogVillageMGR に登録する管理対象 PC のユーザー設定項目

LogVillageMGR に登録する管理対象 PC のユーザー設定項目について説明します。

Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成を行います。

Domain Admins 権限を持ったユーザーを作成できない環境場合、OU レベルで管理者権限を持ったユーザーを作成する事も可能です。

- ・ Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成方法は、以下を参照してください。

7-4-2-1. Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録

- ・ OU レベルで管理者権限を持ったユーザーの作成方法は、以下を参照してください。

7-4-2-2. Active Directory 上で OU の管理者権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録

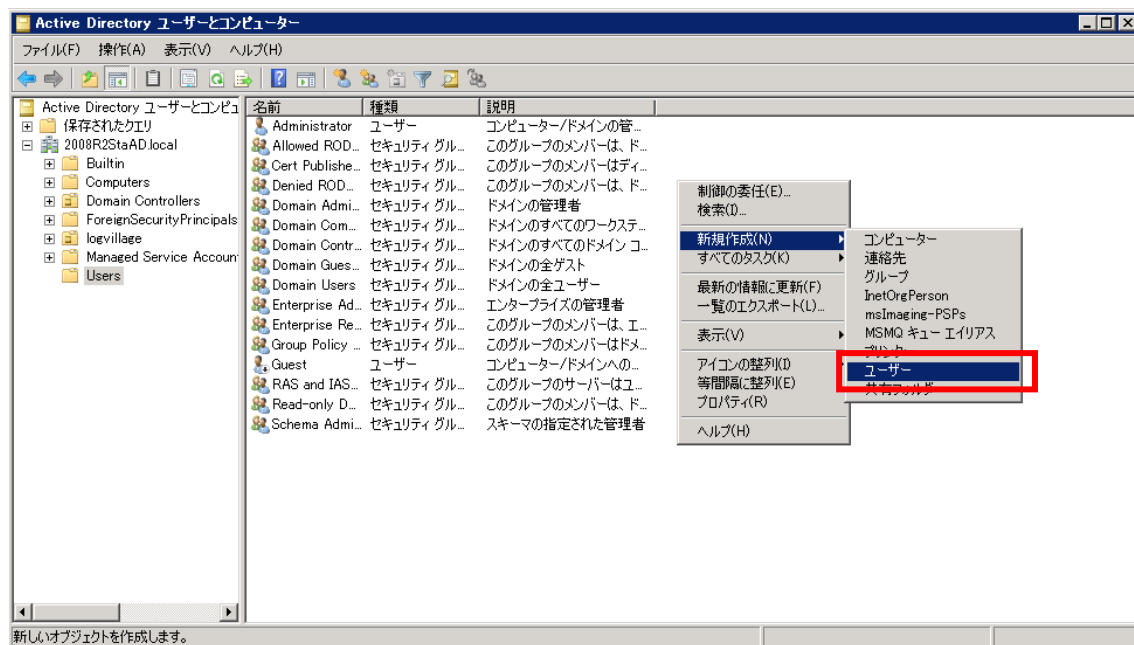
7-4-2-1.Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録

Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録について説明します。

- ・ ユーザー作成
- ・ 管理対象 PC に、グループ ポリシーを強制再適用する方法
- ・ 管理対象 PC 上で、設定反映を確認する方法
- ・ LogVillage 管理対象 PC の設定に登録する時の注意点

・ ユーザー作成

- ① 「Active Directory ユーザーとコンピュータ」起動します。
「Windows スタートメニュー」→「管理ツール」→「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を起動します。
- ② 新規「ユーザー」を作成します。
「Users」を選択し、空白部分で右クリック「新規作成」→「ユーザー」をクリックします。



「姓」と「ユーザー ログオン名」に任意のユーザー名を入力し「次へ」をクリックします。

例 : logvillage

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: 2008R2StaAD.local/Users

姓(L): logvillage

名(F): インisialID:

フル ネーム(A): logvillage

ユーザー ログオン名(U): logvillage @2008R2StaAD.local

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W): 2008R2STAADW logvillage

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

「パスワード」と「パスワードの確認入力」に任意のパスワードを入力します。

「ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要」のチェックを外します。

「ユーザーはパスワードを変更できない」「パスワードを無制限にする」にチェックを入れます。

「次へ」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: 2008R2StaAD.local/Users

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

☐ ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要(M)

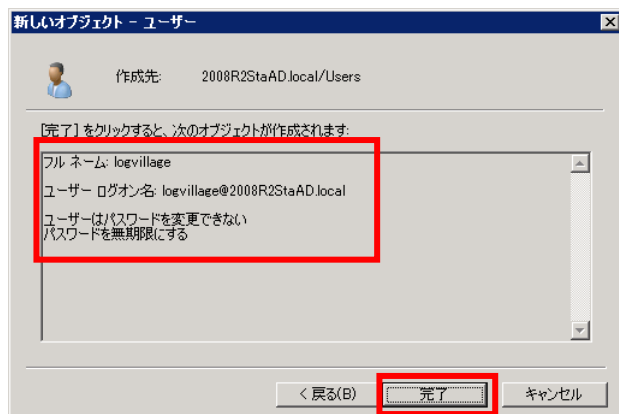
☒ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☒ パスワードを無制限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

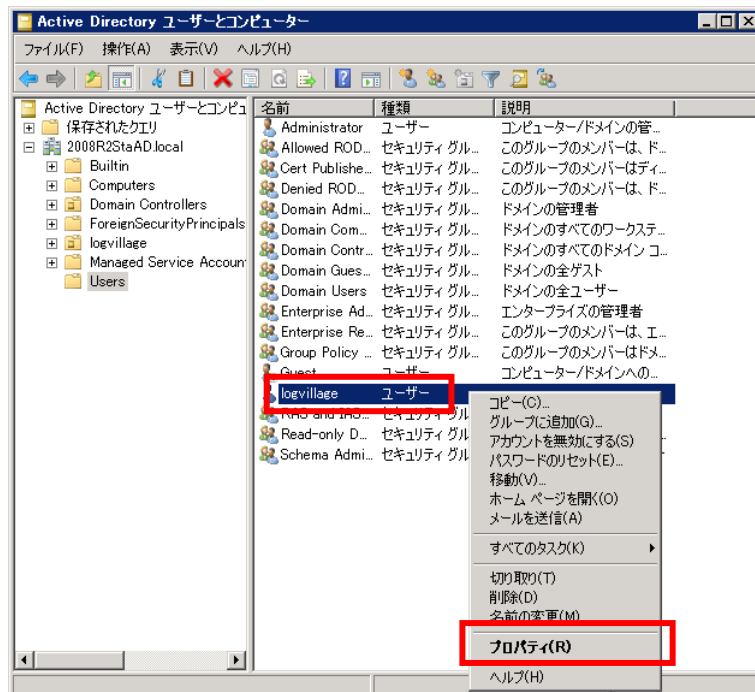
設定に間違いが無い事を確認後「完了」ボタンをクリックします。



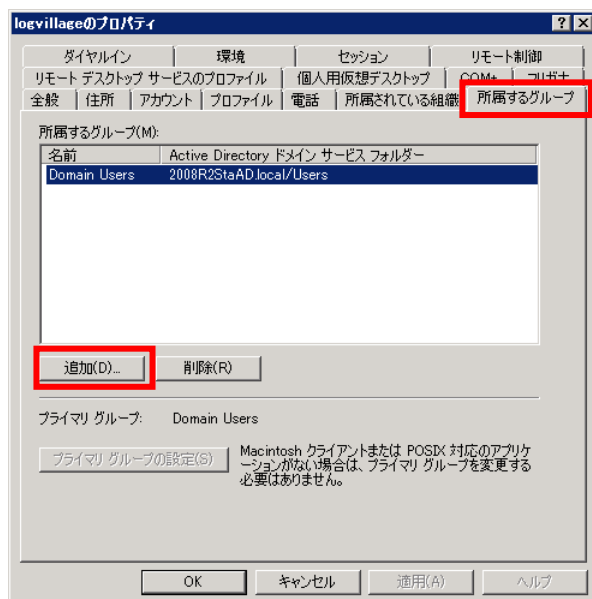
③ 権限を付与します。

作成したユーザーを右クリックし「プロパティ」をクリックします。

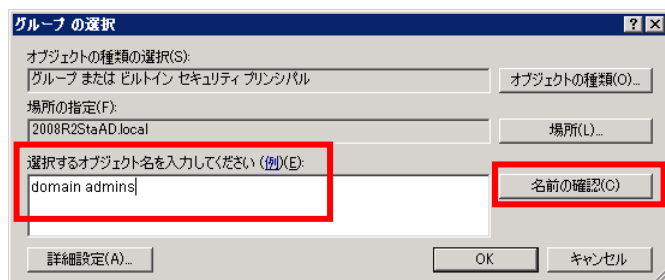
例: logvillage



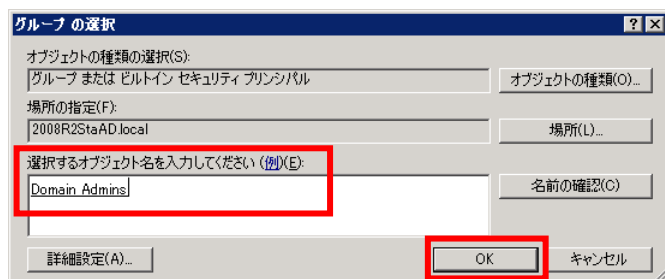
「所属するグループ」タブを開き、「追加」をクリックします。



「選択するオブジェクト名を入力してください」に「domain admins」を入力し、「名前の確認」をクリックします。

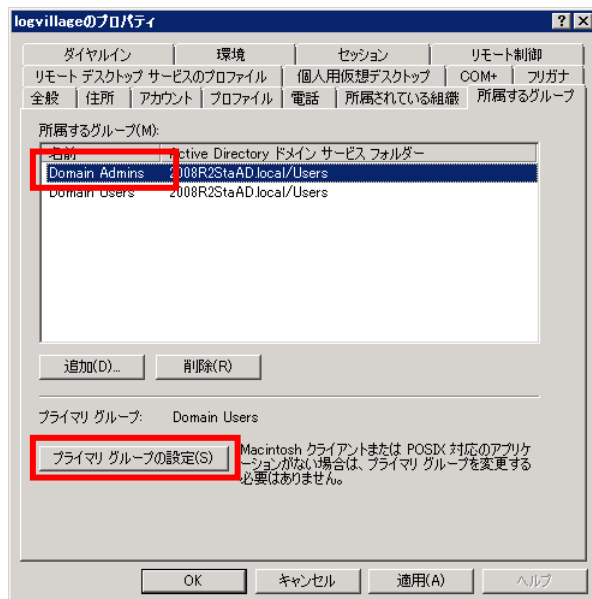


「domain admins」に下線が表示された事を確認後、「OK」をクリックします。

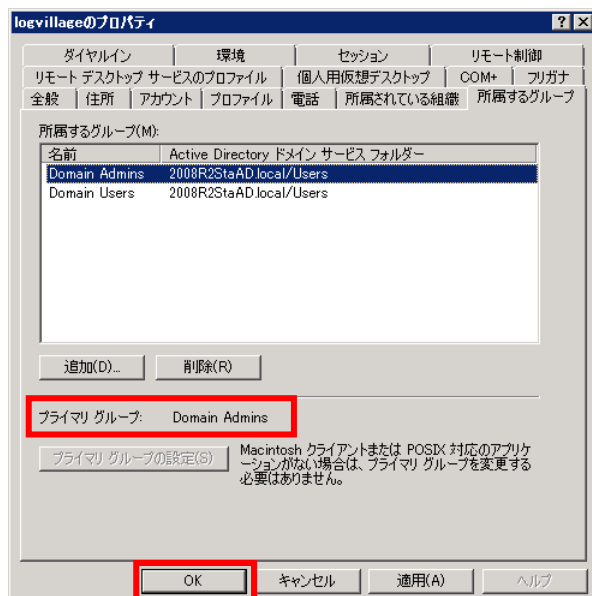


④ プライマリグループを変更します。

「Domain Admins」を選択し、「プライマリ グループの設定」をクリックします。



「プライマリ グループ」が「Domain Admins」に変更された事を確認後、「OK」をクリックします。

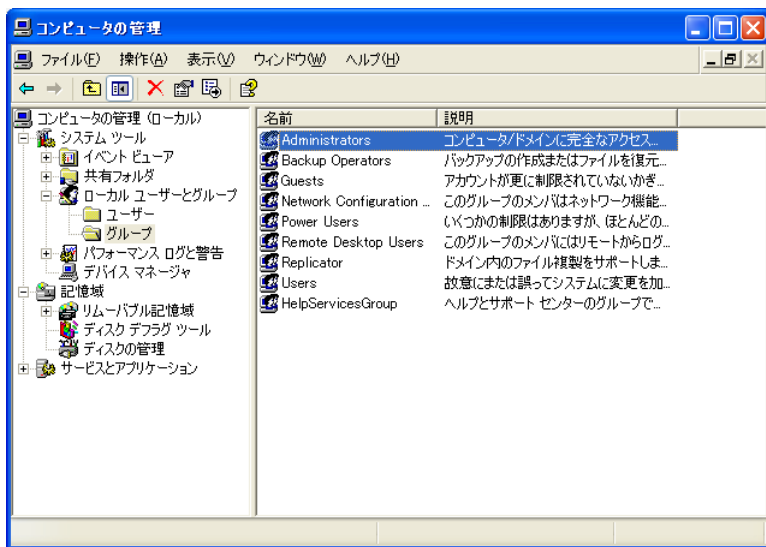


・管理対象PC上で、設定反映を確認する方法

① 「コンピュータの管理」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を起動します。

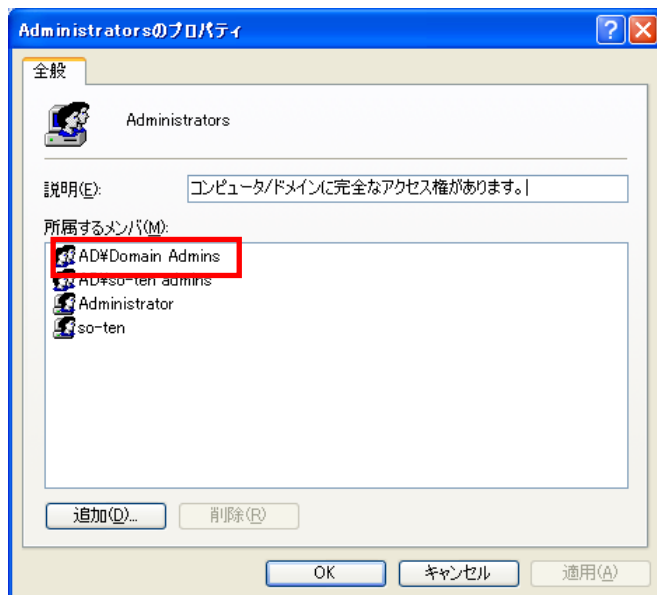
「コンピュータの管理（ローカル）」→「ローカル ユーザーとグループ」→「グループ」をクリックします。



② 「Administrators」を開き確認します。

「Administrators」をダブルクリックします。

所属するメンバー内に「<AD 名>¥Domain Admins」が表示される事を確認してください。



・管理対象PCに、グループ ポリシーを強制再適用する方法

管理対象PCで以下の操作を実施します。

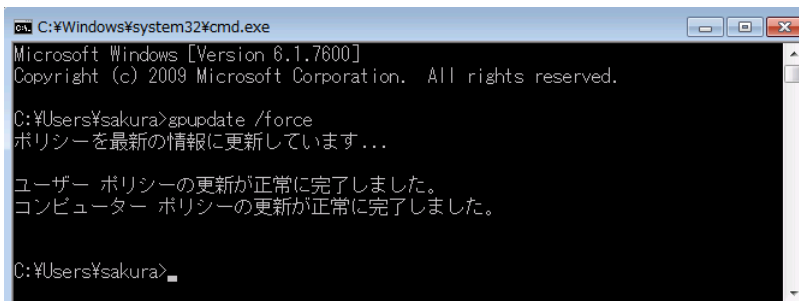
コマンドプロンプトを起動します。

“Windows スタートメニュー”→「ファイル名を指定して実行」に「cmd」と入力し「OK」をクリックします。

「gpupdate /force」を入力し、実行します。

※gpupdate /force はグループポリシーを反映するコマンドです。

成功した場合は、下図のようなメッセージが表示されます。



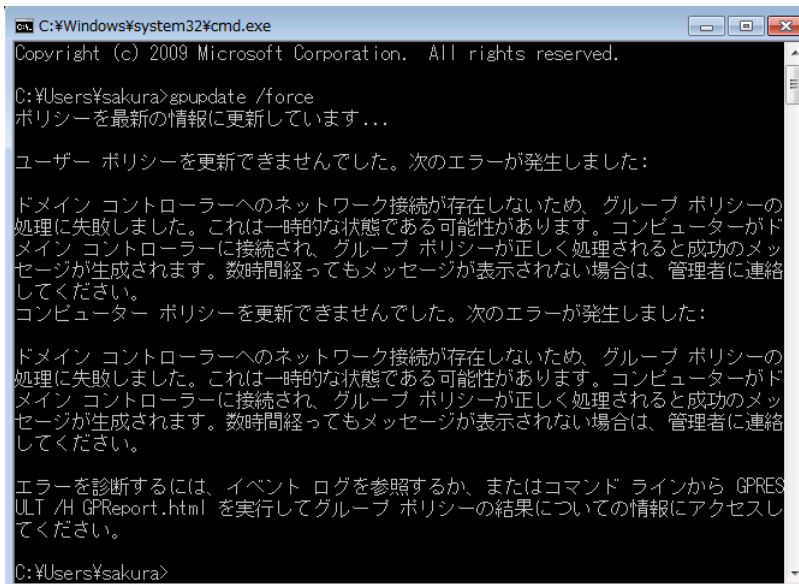
```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7600]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\sakura>gpupdate /force
ポリシーを最新の情報に更新しています...

ユーザー ポリシーの更新が正常に完了しました。
コンピューター ポリシーの更新が正常に完了しました。

C:\Users\sakura>
```

ドメインコントローラへ接続できない場合は、下図のようなメッセージが表示されます。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\sakura>gpupdate /force
ポリシーを最新の情報に更新しています...

ユーザー ポリシーを更新できませんでした。次のエラーが発生しました:

ドメイン コントローラへのネットワーク接続が存在しないため、グループ ポリシーの
処理に失敗しました。これは一時的な状態である可能性があります。コンピューターがド
メイン コントローラに接続され、グループ ポリシーが正しく処理されると成功のメッ
セージが生成されます。数時間経ってもメッセージが表示されない場合は、管理者に連絡
してください。
コンピューター ポリシーを更新できませんでした。次のエラーが発生しました:

ドメイン コントローラへのネットワーク接続が存在しないため、グループ ポリシーの
処理に失敗しました。これは一時的な状態である可能性があります。コンピューターがド
メイン コントローラに接続され、グループ ポリシーが正しく処理されると成功のメッ
セージが生成されます。数時間経ってもメッセージが表示されない場合は、管理者に連絡
してください。

エラーを診断するには、イベント ログを参照するか、またはコマンド ラインから GPRES
ULT /H GPREport.html を実行してグループ ポリシーの結果についての情報にアクセスし
てください。

C:\Users\sakura>
```

・LogVillage 管理対象 PC の設定に登録する時の注意点

登録時の「アカウント名」が通常と異なります。

例：以下の場合

ドメイン「AD.local」

管理対象 PC 「host01」

AD.local のユーザー「logvillage」

「システム設定」→「管理対象 PC の設定」に登録する内容は、以下になります。

- ① コンピュータ名：host01
- ② アカウント名：AD.local¥logvillage
- ③ パスワード：（logvillage ユーザーに設定いただいたパスワード）

管理対象PCの設定	
管理対象PCの登録リスト	
コンピュータ名	① <input type="text"/>
アカウント名	② <input type="text"/>
パスワード	③ <input type="text"/>
パスワード (確認用)	③ <input type="text"/>

7-4-2-2. Active Directory 上で OU の管理者権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録

OU 内に LogVillage 接続専用ユーザーを作成するために以下の作業を実施ください。

※「7-4-2-1. Active Directory 上で Domain Admins 権限を持ったユーザーの作成と LogVillage への登録」をご確認いただき、Domain Admins 権限を持ったユーザーを作成されている場合、この操作は不要です。

以下の項目があります。

- ・ユーザー作成
- ・管理対象 PC に、グループ ポリシーを強制再適用する方法
- ・管理対象 PC 上で、設定反映を確認する方法
- ・LogVillage 管理対象 PC の設定に登録する時の注意点

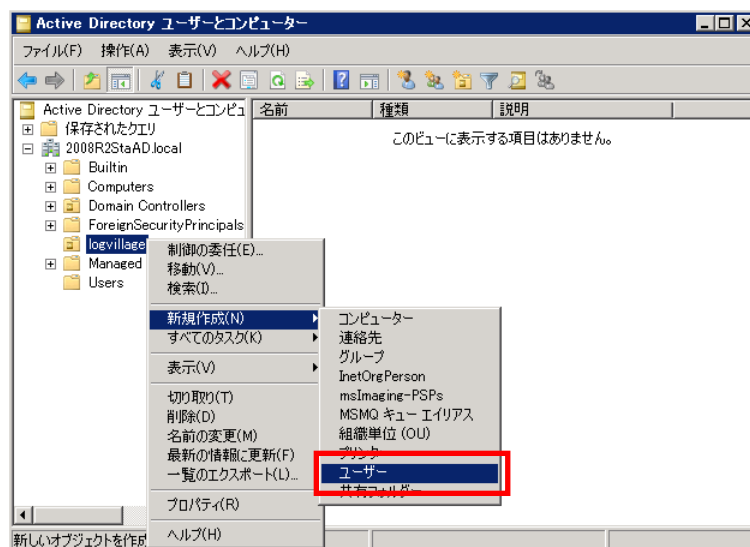
・ユーザー作成

- ① 「Active Directory ユーザーとコンピュータ」起動します。
 “Windows スタートメニュー”→「管理ツール」→「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を起動します。

- ② 新規「ユーザー」を作成します。

該当 OU の上で右クリック「新規作成」→「ユーザー」をクリックします。

例：OU 名：logvillage



「姓」と「ユーザー ログオン名」に任意のユーザー名を入力し「次へ」をクリックします。

例 : logvillage

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: 2008R2StaAD.local/Users

姓(L): logvillage

名(F): イニシャル(I):

フル ネーム(A): logvillage

ユーザー ログオン名(U): logvillage @2008R2StaAD.local

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W): 2008R2STAADW logvillage

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

「パスワード」と「パスワードの確認入力」に任意のパスワードを入力します。

「ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要」のチェックを外します。

「ユーザーはパスワードを変更できない」「パスワードを無制限にする」にチェックを入れます。

「次へ」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: 2008R2StaAD.local/Users

パスワード(P): ●●●●●●●●

パスワードの確認入力(C): ●●●●●●●●

☐ ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要(M)

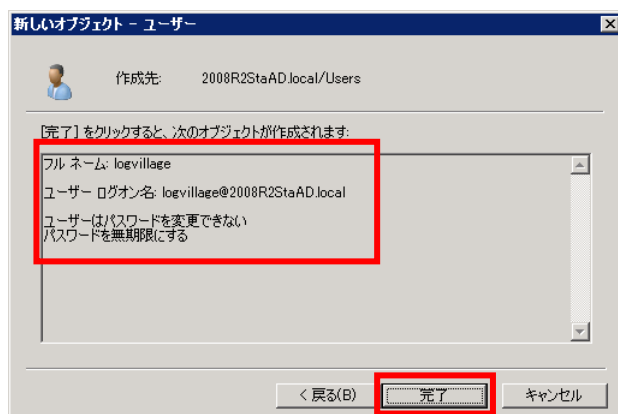
☒ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☒ パスワードを無制限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

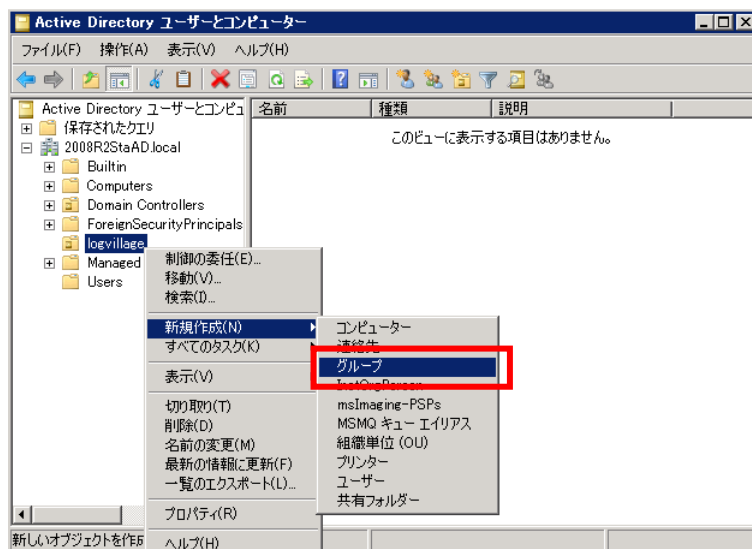
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

設定に間違いが無い事を確認後「完了」ボタンをクリックします。



③ セキュリティ グループを作成します。

該当 OU の上で右クリック「新規作成」→「グループ」をクリックします。



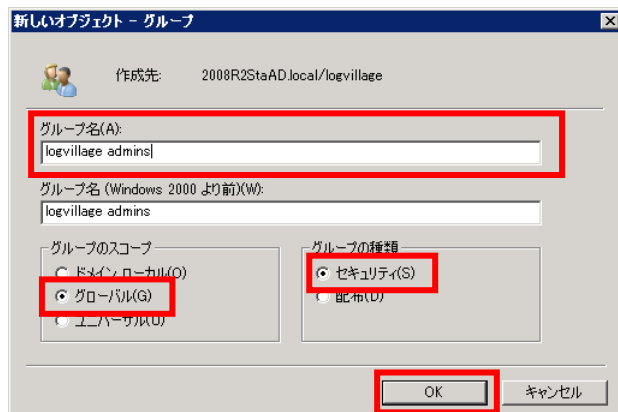
グループ名を入力します。

例 : logvillage admins

グループの範囲は「グローバル」を選択します。

グループの種類は「セキュリティ」を選択します。

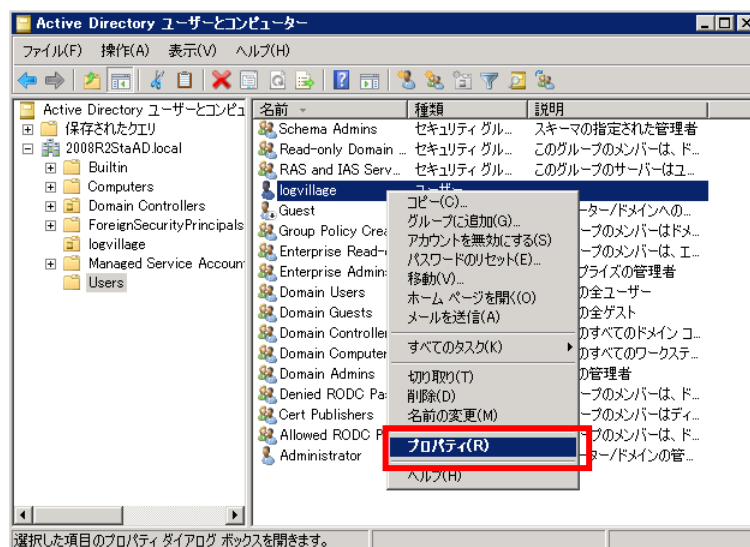
「OK」をクリックします。



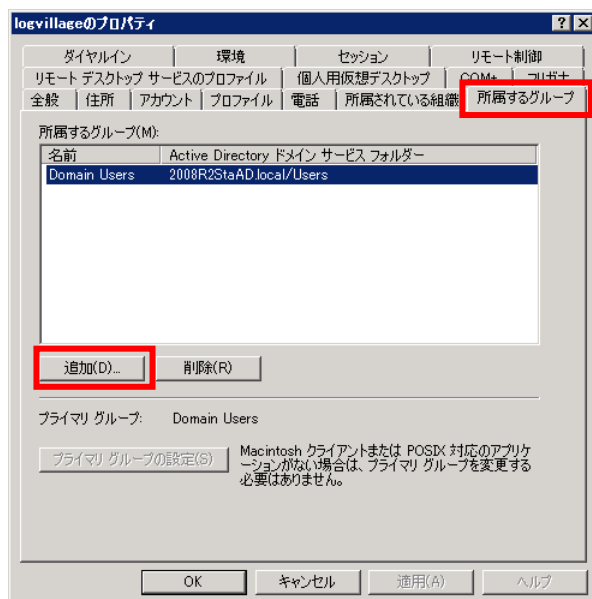
④ 権限を付与します。

「Users」を開き、作成したユーザーを右クリック「プロパティ」をクリックします。

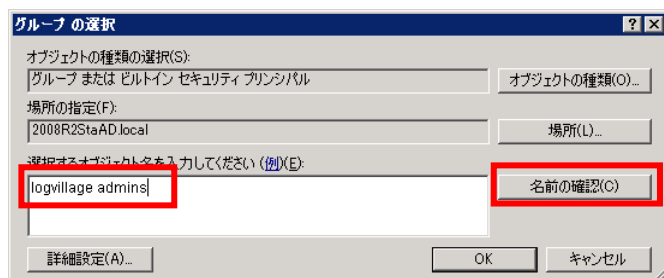
例 : logvillage



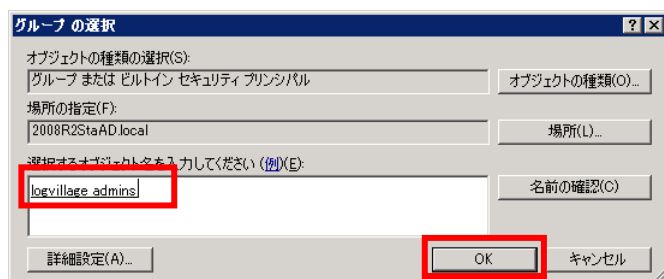
「所属するグループ」タブを開き、「追加」をクリックします。



「選択するオブジェクト名を入力してください」に「作成したセキュリティ グループ名 (例 : logvillage admins)」を入力し、「名前の確認」をクリックします。

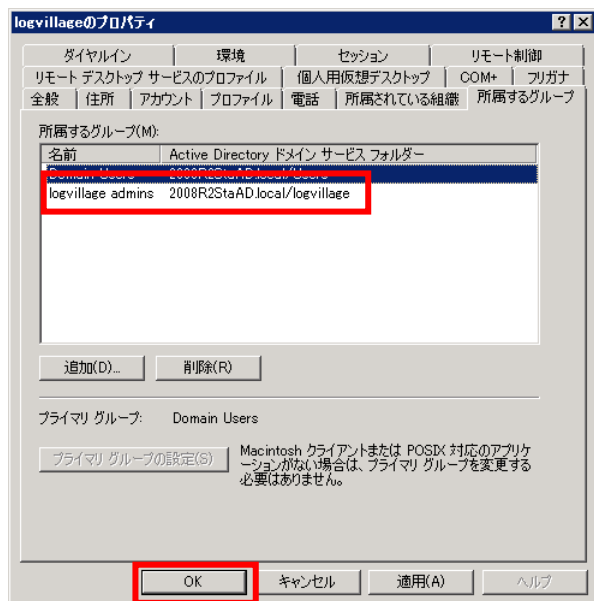


「domain admins」に下線が表示された事を確認後、「OK」をクリックします。



(下線が追加されない場合、セキュリティグループの指定に問題があります。入力文字列の確認、およびセキュリティグループが正しく作成されているかを確認してください)

所属するグループに指定したセキュリティグループが追加されている事を確認し、「OK」をクリックします。



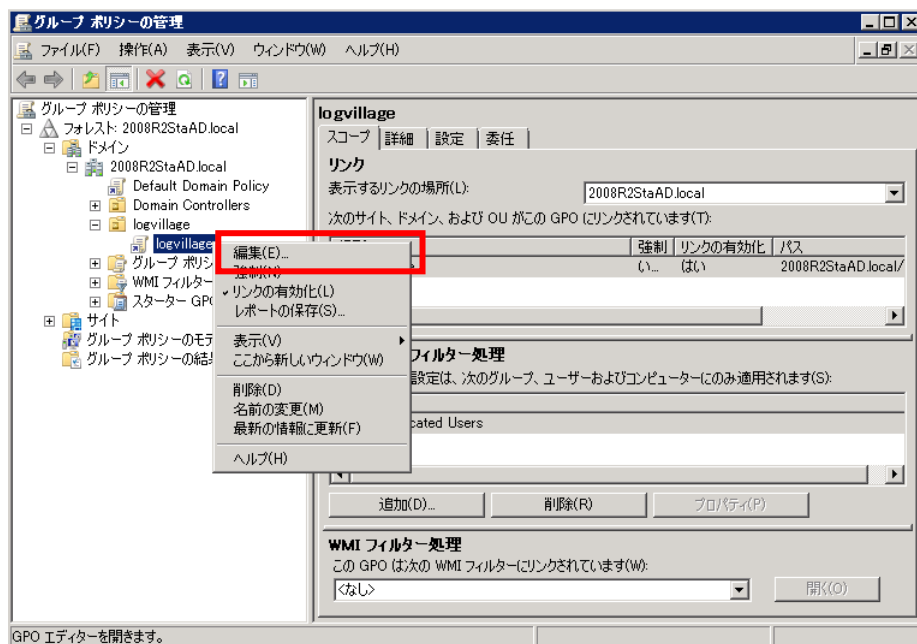
⑤ グループポリシーを編集します。

“Windows スタートメニュー”→「管理ツール」→「グループポリシーの管理」を起動します。

設定を行う OU を展開します。

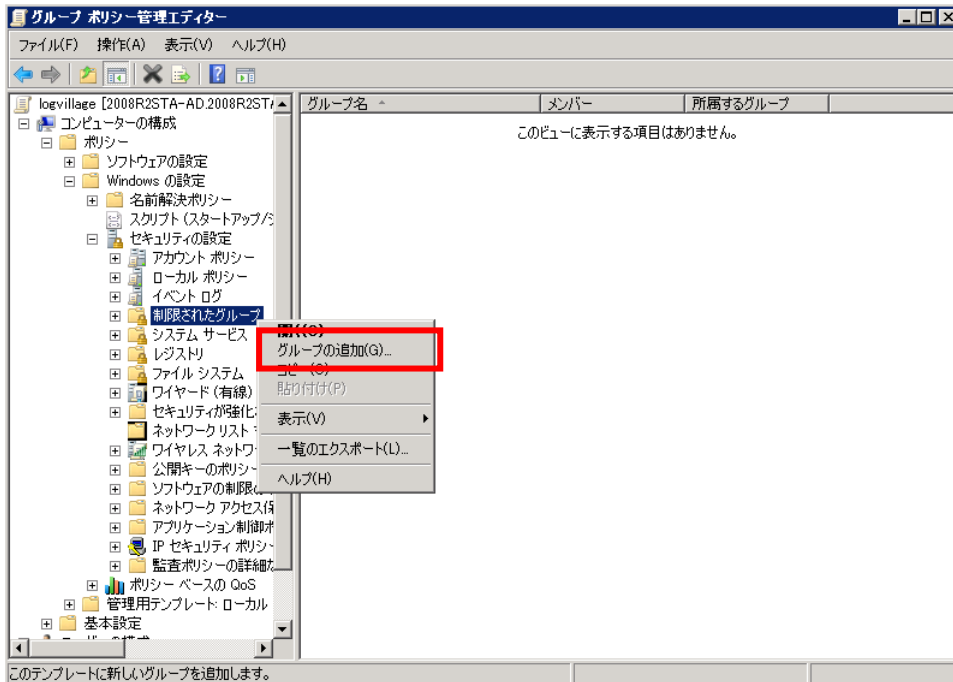
変更するポリシーを右クリックし、「編集」をクリックします。

例：OU 名：logvillage

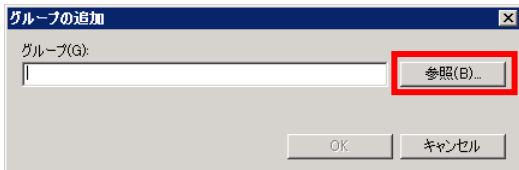


「コンピュータの構成」→「ポリシー」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「制限したグループ」を選択します。

「制限したグループ」の上で右クリックし、「グループの追加」を選択します。



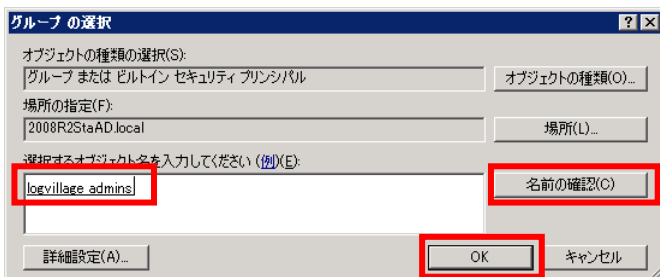
「参照」をクリックします。



作成したセキュリティグループ名を入力します。

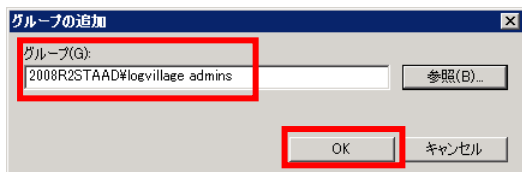
例 : logvillage admins

「名前の確認」をクリックし、入力文字列に下線が付与される事後、「OK」をクリックします。

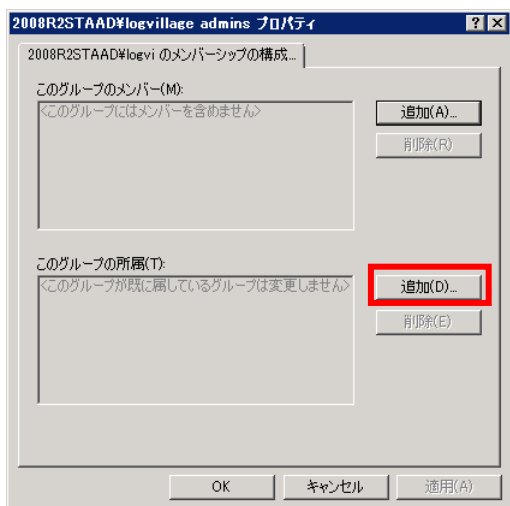


(下線が追加されない場合、セキュリティグループの指定に問題があります。入力文字列の確認、およびセキュリティグループが正しく作成されているかを確認してください)

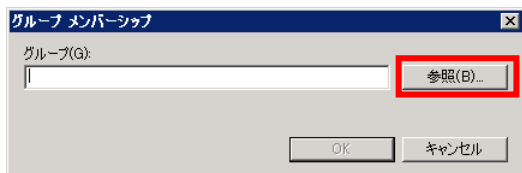
グループに「<AD 名>¥<作成したセキュリティグループ>」が表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



「追加」をクリックします。

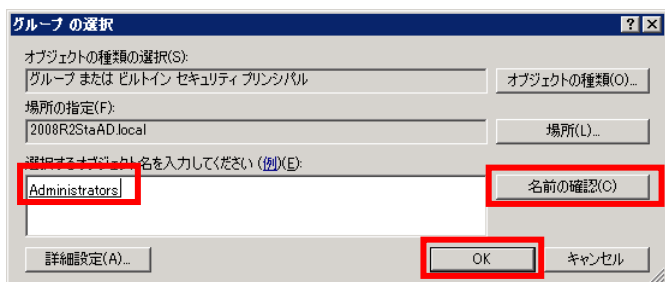


「参照」をクリックします。



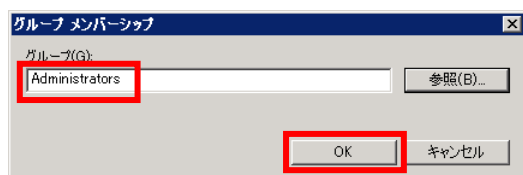
「Administrators」と入力します。

「名前の確認」を選択し、入力文字列に下線が付与される事を確認後、「OK」をクリックします。

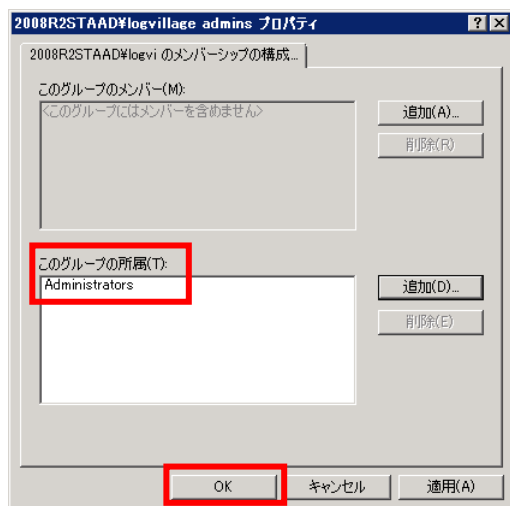


(下線が追加されない場合、セキュリティグループの指定に問題があります。入力文字列を確認してください)

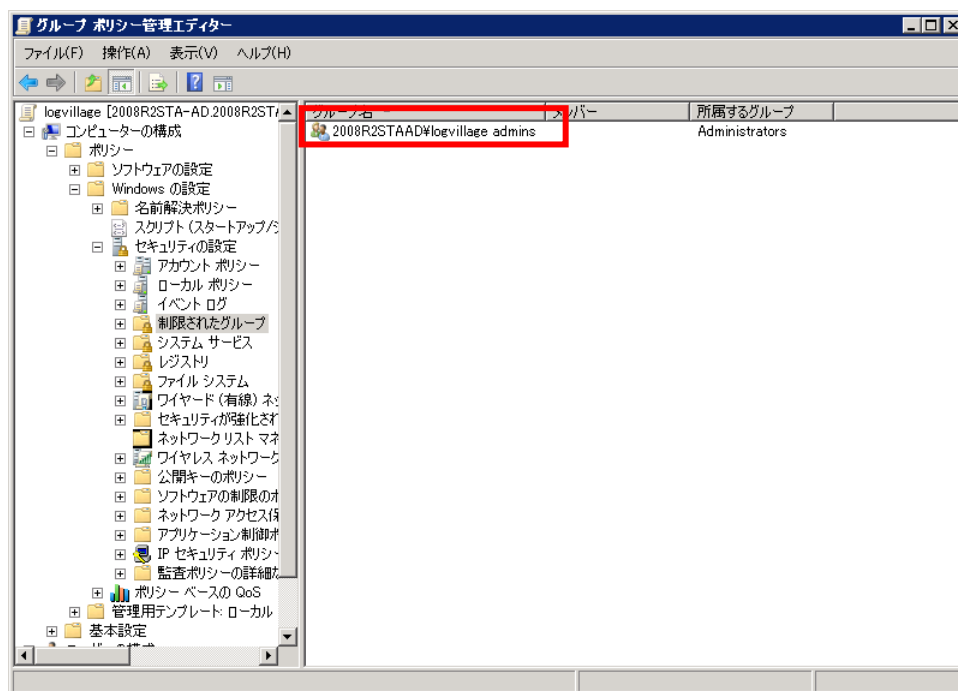
グループに「Administrators」が表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



このグループの所属に「Administrators」が表示される事を確認し、「OK」をクリックします。



制限されたグループに「<AD 名>¥<作成したセキュリティグループ>」が表示されることを確認します

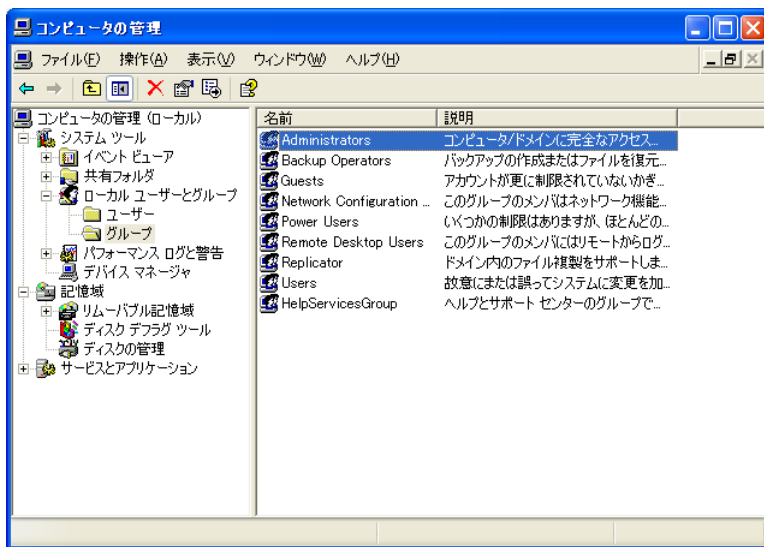


・管理対象PC上で、設定反映を確認する方法

① 「コンピュータの管理」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を起動します。

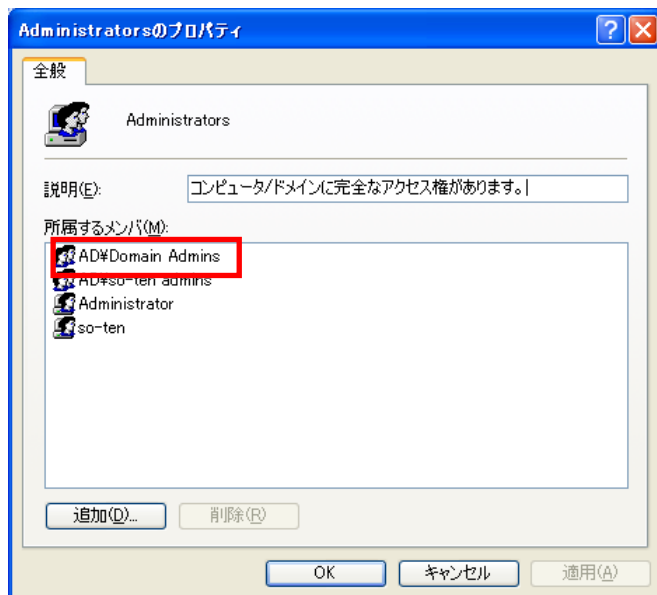
「コンピュータの管理（ローカル）」→「ローカル ユーザーとグループ」→「グループ」をクリックします。



② 「Administrators」を開き確認します。

「Administrators」をダブルクリックします。

所属するメンバー内に「<AD 名>¥Domain Admins」が表示される事を確認してください。



・管理対象PCに、グループ ポリシーを強制再適用する方法

管理対象PCで以下の操作を実施します。

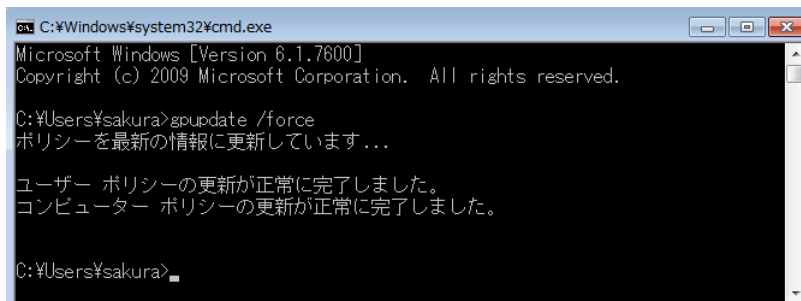
コマンドプロンプトを起動します。

“Windows スタートメニュー”→「ファイル名を指定して実行」に「cmd」と入力し「OK」をクリックします。

「gpupdate /force」を入力し、実行します。

※gpupdate /force はグループポリシーを反映するコマンドです。

成功した場合は、下図のようなメッセージが表示されます。



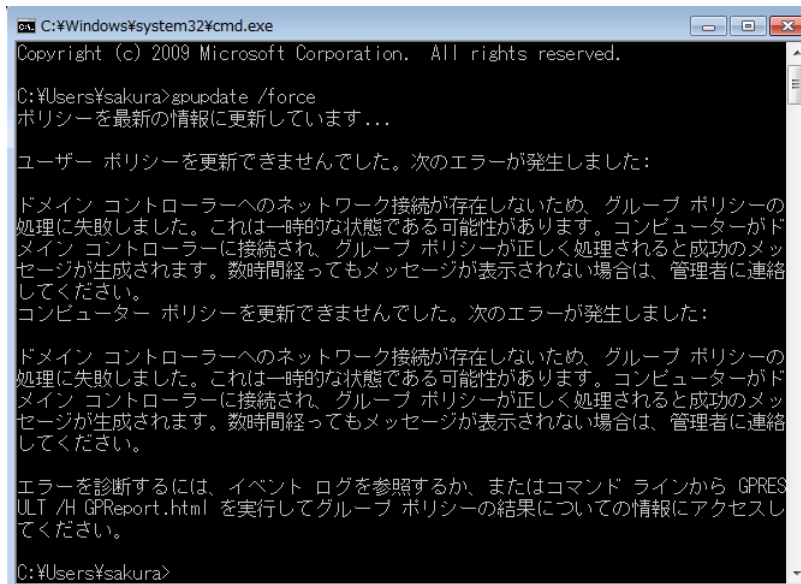
```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7600]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\sakura>gpupdate /force
ポリシーを最新の情報に更新しています...

ユーザー ポリシーの更新が正常に完了しました。
コンピューター ポリシーの更新が正常に完了しました。

C:\Users\sakura>
```

ドメインコントローラへ接続できない場合は、下図のようなメッセージが表示されます。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\sakura>gpupdate /force
ポリシーを最新の情報に更新しています...

ユーザー ポリシーを更新できませんでした。次のエラーが発生しました：

ドメイン コントローラへのネットワーク接続が存在しないため、グループ ポリシーの
処理に失敗しました。これは一時的な状態である可能性があります。コンピューターがド
メイン コントローラに接続され、グループ ポリシーが正しく処理されると成功のメッ
セージが生成されます。数時間経ってもメッセージが表示されない場合は、管理者に連絡
してください。
コンピューター ポリシーを更新できませんでした。次のエラーが発生しました：

ドメイン コントローラへのネットワーク接続が存在しないため、グループ ポリシーの
処理に失敗しました。これは一時的な状態である可能性があります。コンピューターがド
メイン コントローラに接続され、グループ ポリシーが正しく処理されると成功のメッ
セージが生成されます。数時間経ってもメッセージが表示されない場合は、管理者に連絡
してください。

エラーを診断するには、イベント ログを参照するか、またはコマンド ラインから GPRE
ULT /H GPRreport.html を実行してグループ ポリシーの結果についての情報にアクセスし
てください。

C:\Users\sakura>
```

・LogVillage 管理対象 PC の設定に登録する時の注意点

登録時の「アカウント名」が通常と異なります。

例：以下の場合

ドメイン「AD.local」

管理対象 PC 「host01」

AD.local のユーザー「logvillage」

「システム設定」→「管理対象 PC の設定」に登録する内容は、以下になります。

- ① コンピュータ名：host01
- ② アカウント名：AD.local¥logvillage
- ③ パスワード：（logvillage ユーザーに設定いただいたパスワード）

管理対象PCの設定	
管理対象PCの登録リスト	
コンピュータ名	① <input type="text"/>
アカウント名	② <input type="text"/>
パスワード	③ <input type="text"/>
パスワード (確認用)	③ <input type="text"/>

8. LogVillageMGR 画面の基本操作

LogVillageMGR 画面の基本操作について説明します。

8-1. LogVillageMGR 画面の表示方法

LogVillageMGR 画面の表示方法について説明します。

- ① LogVillage 管理画面にログインします。

Internet Explorer を起動します。

以下の URL にアクセスすると LogVillage ログイン画面が表示されます。

`http://<LogVillageMGR のコンピュータ名>/lv/login/`

インストール直後のログイン ID はユーザー設定を行うまでは以下の ID のみ有効となります。
また、ユーザー設定後は以下の ID は無効となりますので、新しく作成したユーザーの ID とパスワードを忘れないようにご注意ください。

新しく設定したユーザーID とパスワードを忘れた場合、LogVillage の再インストールが必要となります。ご注意ください。

- ・ユーザー名 so-ten
- ・パスワード so-ten

※ご利用ブラウザについて

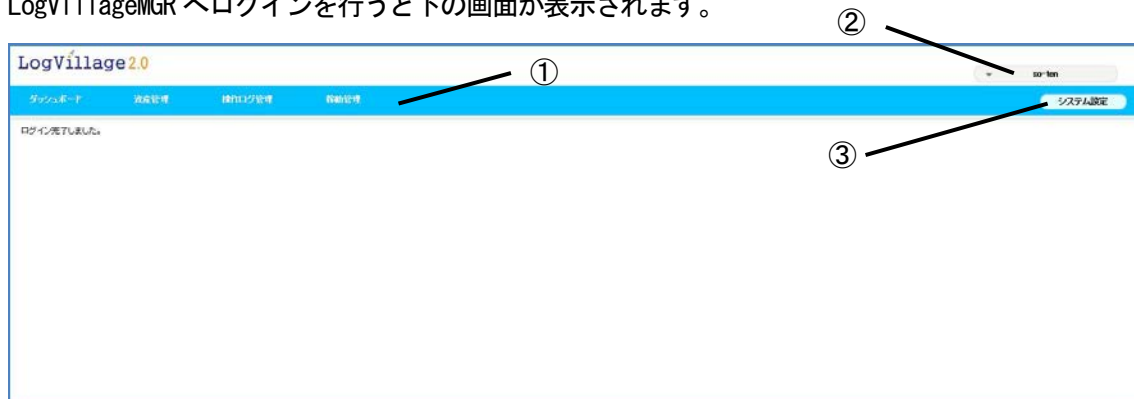
LogVillageMGR の対応ブラウザは Internet Explorer 6、7、8 となります。

但し、Internet Explorer 6 をご利用いただいた場合、「システム設定」画面の左サイドメニューの一部が表示されない場合があります。この場合、ページ更新を行っていただくことで表示可能となります。

蒼天では、Internet Explorer 7、8 のご利用を強く推奨いたしております。

8-2. 画面概要

LogVillageMGR へログインを行うと下の画面が表示されます。



① ログ表示メインメニュー

メインメニューの表示項目は、お買い上げいただいたライセンス、またはユーザー設定により異なります。

参照したいメニューをクリックすると、ログ表示サブメニューが表示されます。

② ログインユーザー名

現在のLogVillage へのログインユーザー名が表示されています。

ログオフする場合は、ログインユーザー名をクリックし、[ログアウト]を選択します。

③ システム設定

クリック後、システム設定メニューが表示されます。

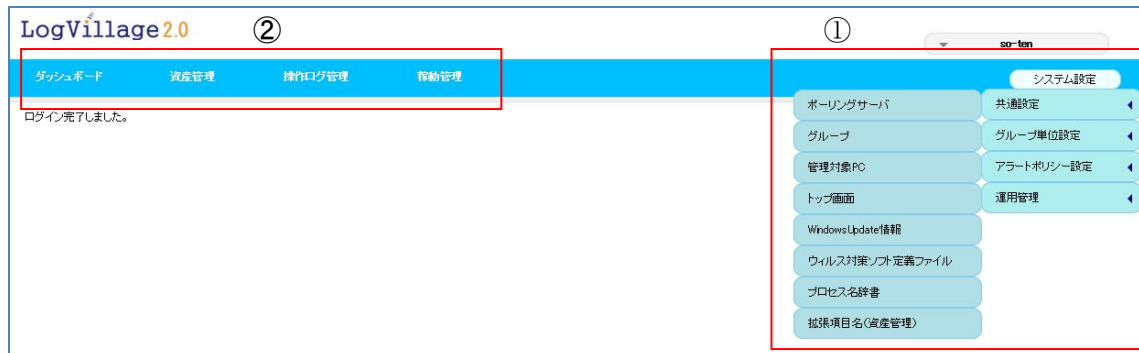
但し、ログインユーザーにシステム設定権限が付与されていない場合は表示されません。

※ブラウザの「戻る」ボタン

LogVillageMGR 画面ご利用にクリックすると画面がエラーとなる場合がありますのでご注意ください。

※LogVillageMGR 画面は複数画面を同時表示させることも可能です。

8-3. システム設定画面



① システム設定メニュー

- ・メニュー項目をクリックすると設定画面が表示されます。
- ・各設定項目で設定を行う機能、画面は運用マニュアルをご参照ください。

② ログ表示メインメニュー

クリックするとシステム設定画面が終了しログ表示サブメニューが表示されます。

【ご注意ください】

初期設定が全て完了するまで、サイドメニュー上部に「初期設定」メニューが表示されます。そのため、以下の設定項目が「初期設定」と「共通設定」または「グループ単位設定」に2重表示されますのでご注意ください。

- ・ライセンス登録・更新
- ・ポーリングサーバ
- ・管理対象PC
- ・ログ収集スケジュール

2重表示される設定項目は、どちらをクリックいただいても問題ありません。

9. 管理対象 PC 自動設定ツール（オプション）

ワークグループ環境下の管理対象 PC の設定を行うツールです。

9-1. LogVillage 管理対象 PC 設定ツール（ダウンロード版）

LogVillage 管理対象 PC 設定ツール（ダウンロード版）について説明します。

9-1-1. 対応 OS

Windows 2000

Windows XP（Home 除く）

Windows Vista（Home Basic, Home Premium 除く）

Windows 7

※Windows Vista、7 では UAC 機能をオフにする必要があります。

※Windows Server 2003, Windows Server 2008 は対象外となります。

9-1-2. 管理対象 PC での実行時の注意事項

- （1）管理者権限を持ったユーザーでのログインが必要となります。
- （2）自動的に PC 再起動が行われます。
- （3）LogVillage が使用する管理者権限ユーザーアカウントおよびパスワードが管理対象 PC にランダムに自動生成されます。自動生成されるユーザーアカウント名は、“LV” + 8 文字のランダム数値（例：LV84558403 等）となります。

9-1-3. 前準備

- ・ UAC 機能をオフにします。（Windows Vista のみ）

設定変更手順は「7-3. WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容」の「7) UAC 機能の停止」をご参照ください。

9-1-4. 設定手順

■LogVillageMGR での設定準備手順

① ファイルを配置します。

CD-ROM のクライアント自動設定ツール（ダウンロード版）¥pcsetupDL を、<LogVillageMGR プログラムインストール先>¥ Apache2¥htdocs¥に貼り付けます。

※<LogVillageMGR プログラムインストール先>は、インストール先ディレクトリパスに読み替えます。（32bit 版 OS にてデフォルトでインストールした場合 C:¥Program Files¥\$0-TEN¥LogVillage となります。）

■管理対象 PC での設定手順

① 管理対象 PC にログインします。

管理対象 PC に管理者権限を持ったユーザーでログインします。

② ダウンロードページにアクセスします。

Internet Explorer を起動し、ダウンロードページを開きます。

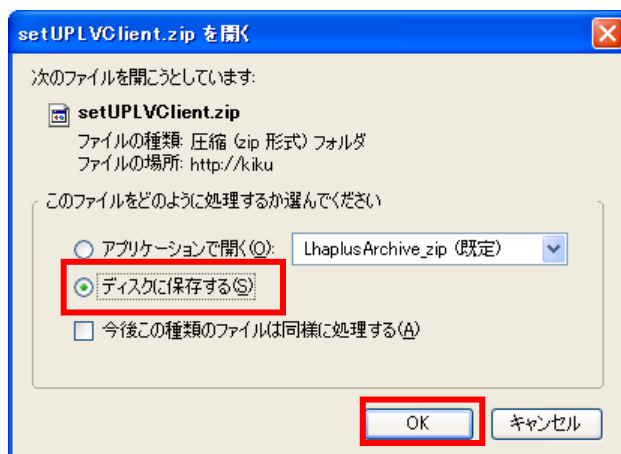
<http://<マネージャの URL>/pcsetupDL/>

③ 「ダウンロード」 ボタンをクリックします。



④ ファイルを保存します。

「ディスクに保存する」にチェックが入っている事を確認後「OK」をクリックします。



- ⑤ 保存したファイルを展開します。

保存したファイル「setUPLVClient.zip」を展開します。

- ⑥ ファイルを実行します。

■Windows2000、XP、Vista の場合

「setUPLVClient.exe」をダブルクリック（実行）します。

■Windows7 の場合

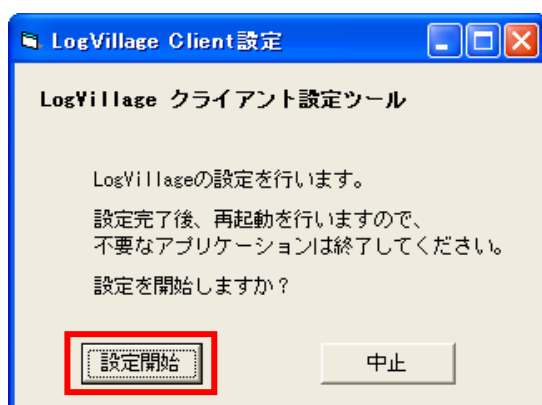
「Windows7.exe」をダブルクリック（実行）します。



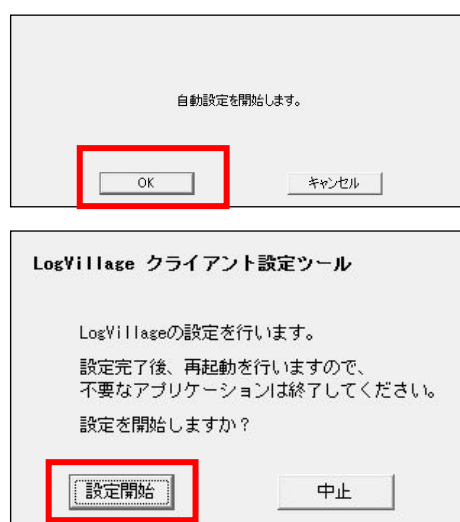
- ⑦ 「設定開始」をクリックします。

設定開始をダブルクリックし、「設定開始」をクリックします。

■Windows2000、XP、Vista

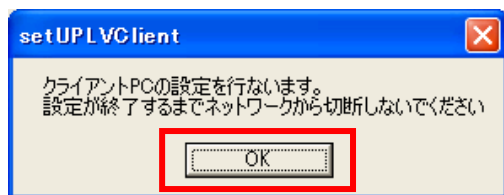


■Windows7



- ⑧ 「OK」をクリックします。

■Windows2000、XP、Vista

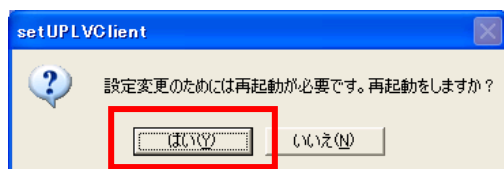


■Windows7

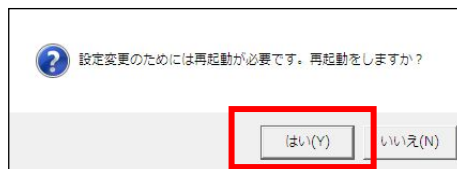


- ⑨ OS を再起動します。
「はい」をクリックします。

■Windows2000、XP、Vista



■Windows7



- ⑩ 設定完了確認。
OS 再起動後、設定完了のウィンドウが表示された事を確認します。

■Windows2000、XP、Vista、7



9-2. LogVillage 管理対象 PC 設定ツール (ActiveX 版)

LogVillage 管理対象 PC 設定ツール (ActiveX 版) について説明します。

9-2-1. 対応 OS

Windows 2000

Windows XP (Home 除く)

※Windows Server 2003, Windows Server 2008 は対象外となります。

※Windows Vista、7 は、「9-1. LogVillage 管理対象 PC 設定ツール (ダウンロード版)」をご利用下さい。

9-2-2. 管理対象 PC での実行時の注意事項

(1) セキュリティレベルの変更が必要です。設定変更手順は「9-4. セキュリティレベル変更手順」をご参照ください。

(2) 管理者権限を持ったユーザーでのログインが必要となります。

(3) 自動的に PC 再起動が行われます。

(4) LogVillage が使用する管理者権限ユーザーアカウントおよびパスワードが管理対象 PC にランダムに自動生成されます。自動生成されるユーザーアカウント名は、“LV” + 8 文字のランダム数値 (例: LV84558403 等) となります。

9-2-3. 前準備

・ UAC 機能をオフにします。(Windows Vista のみ)

設定変更手順は「7-3. WorkGroup 環境での管理対象 PC 設定内容」の「7) UAC 機能の停止」をご参照ください。

9-2-4. 設定手順

■LogVillageMGR での設定準備手順

ファイルを配置します。

CD-ROM のクライアント自動設定ツール (ActiveX 版) %pcsetup を、<LogVillageMGR プログラムインストール先>% Apache2%htdocs%に貼り付けます。

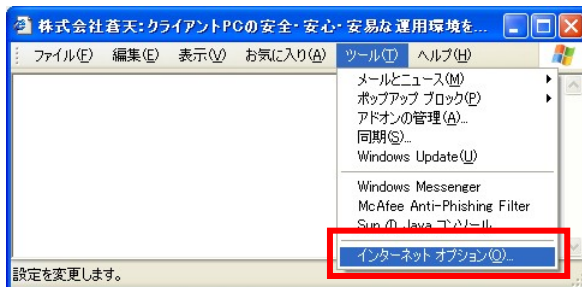
※<LogVillageMGR プログラムインストール先>は、インストール先ディレクトリパスに読み替えます。(32bit 版 OS にてデフォルトでインストールした場合 C:\Program Files\SO-TEN\LogVillage となります。)

■管理対象 PC 側でセキュリティレベルの変更

ActiveX を動作させるため、以下の変更が必要です。

① 「インターネットオプション」を開きます。

Internet Explorer のメインメニューの「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。

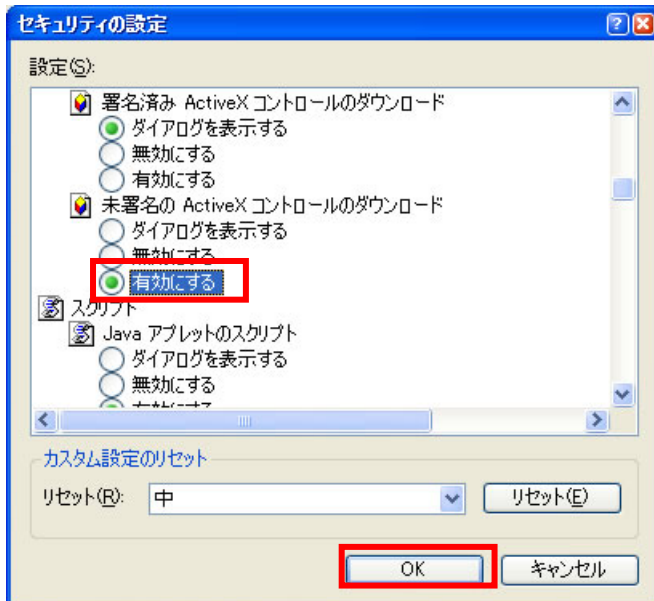


② レベルのカスタマイズをします。

「インターネットゾーンのセキュリティレベル」の、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックします。



「未署名の ActiveX コントロールのダウンロード」の項目を一時的に「有効にする」をクリックし、全ての画面を「OK」で閉じます。



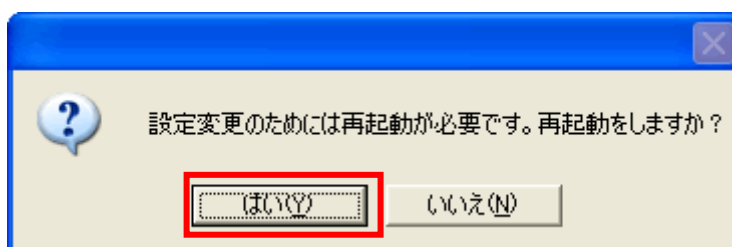
■管理対象 PC での設定手順

- ① 管理対象 PC にログインします。
管理対象 PC に管理者権限を持ったユーザーでログインします。
- ② ダウンロードページにアクセスします。
Internet Explorer を起動し、ダウンロードページを開きます。
<http://<マネージャの URL>/pcsetup/>

- ③ 「ダウンロード」 ボタンをクリックします。



- ④ OS を再起動します。
以下のダイアログ表示後、「はい」をクリックし OS を再起動します。



⑤ 設定完了確認。

OS 再起動後、設定完了のウィンドウが表示された事を確認します。

■ ActiveXコントロール ダウンロード・インストール画面

設定が完了いたしました。

9-3. 管理対象 PC を LogVillage マネージャに登録する

管理対象 PC を LogVillage マネージャに登録する方法を説明します。

① 「管理対象 PC」を開きます。

LogVillage 管理画面の「システム設定」→「管理対象 PC」をクリックします。



② 設定を変更します。

設定済みの管理対象 PC にチェックを入れます。

「グループ名」「所属するポーリングサーバー (PS) 名」を選択し、「移動」に変更後、「変更する」をクリックします。

このステータスに変更する事により、情報収集がはじまります。



10. LogVillage 運用のための情報

LogVillage 運用のための情報について説明します。

10-1. LogVillage マネージャ動作関連ログファイル

LogVillage マネージャ動作関連ログファイルについて説明します。

10-1-1. ログ保存場所

収集ログファイルの DB への取り込み作業など、LogVillage マネージャの動作に関するログファイルは以下のフォルダに保存されます。

＜LogVillage マネージャプログラムインストール先＞¥Manager¥logs

※＜LogVillage マネージャプログラムインストール先＞は、インストール先ディレクトリパスに読み替えます。（32bit 版 OS にてデフォルトでインストールした場合 C:¥Program Files¥SO-TEN¥LogVillage となります。）

ファイル名の例： LV-M-LOG20100130182054.txt

10-1-2. ログ保存期間

LogVillage マネージャのログファイルの保存期間は 30 日 となります。
30 日を経過したログファイルは自動削除されます。

10-2. LogVillage ポーリングサーバー動作関連ログファイル

LogVillage ポーリングサーバー動作関連ログファイルについて説明します。

10-2-1. ログ保存場所

管理対象 PC への接続・情報収集など、LogVillage ポーリングサーバーの動作に関するログファイルは以下のフォルダに保存されます。

＜LogVillage ポーリングサーバープログラムインストール先＞¥Server¥Logs

※＜LogVillage ポーリングサーバープログラムインストール先＞は、インストール先ディレクトリパスに読み替えます。（32bit 版 OS にてデフォルトでインストールした場合 C:¥Program Files¥SO-TEN¥LogVillage となります。）

ファイル名の例： LV-PS-LOG201001230182024.txt

10-2-2. ログ保存期間

LogVillage ポーリングサーバーのログファイルの保存期間は 30 日 となります。
30 日を経過したログファイルは自動削除されます。

10-3. Apache2 動作関連ログファイル

Apache2 動作関連ログファイルについて説明します。
標準では Apache2 のエラーログのみが記録されます。

10-3-1. ログ設定方法

管理画面にアクセスした際のログや収集されたログファイルの転送ログなども記録するためには次の設定を行ってください。

以下のフォルダを開き、「httpd.conf」ファイルを開きます。

<LogVillage マネージャプログラムインストール先>%Apache2%conf

※<LogVillage マネージャプログラムインストール先>は、インストール先ディレクトリパスに読み替えます。（32bit 版 OS にてインストール先ディレクトリを変更せずにインストールした場合 C:\Program Files\S0-TEN\LogVillage です。）

次の文字列を検索し、先頭の「#」を削除して保存します。

「#CustomLog "logs/access.log" common」

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→
「サービス」から、サービス「Apache2」を再起動します。

10-3-2. ログ保存場所

Apache2 の動作に関するログファイルは以下のフォルダに保存されます。

<LogVillage マネージャプログラムインストール先>%Apache2%Logs

ファイル名の例： access.log（アクセスログ）、 error.log（エラーログ）

10-3-3. ログ保存期間

Apache2 のログファイルは無期限に保存されます。

Apache2 インストールディスクの残容量が少なくなる場合、定期メンテナンス作業時などに手動にてログファイルを移動、または削除してください。

11. お問い合わせ

本製品に対するご意見、ご質問はメール、TEL、FAXにて下記までお問い合わせください。

お問い合わせの内容によっては、ご返答に多少お時間を頂戴する場合がありますので、予めご了承ください。

〒104-0032 東京都江東区福住 1-14-4 山崎ビル 1F
株式会社蒼天 サポートセンター

e-mail : support@so-ten.co.jp
TEL : 03-5809-8406
FAX : 03-5809-8495
受付・対応時間 : 月～金曜日（祝祭日、年末年始休暇除く）
10:00～17:00

■お客様情報

お客様番号

※「システム設定」→「ライセンスの登録・変更」画面に表示されます。

会社名（団体、学校名）、ご部署名

ご担当者名

メールアドレス

電話番号

FAX 番号

お問い合わせの内容（できるだけ詳しくお書きください）

■稼働環境

コンピュータメーカー名：

型番：

メモリ容量：

ハードディスク容量または種類：

OS バージョン：

サービスパック：

<< 補足資料 >>

■LogVillageMGR の再起動

- ① 通知領域のアイコンを停止します。

通知領域の「LV_TaskTray (M)」アイコンを右クリックし、「終了」を押下します。

- ② サービスを停止します。

“Windows スタートメニュー”→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」から、以下の順番にサービスを停止します。

Apache2

LV_M_MonitorSrv

LV_ManagerServer

Embedded Database - LOGVILLAGE

- ③ サービスを開始します。

以下の順番にサービスを開始します。

Embedded Database - LOGVILLAGE

LV_M_MonitorSrv

「LV_M_MonitorSrv」起動後、「LV_ManagerServer」と「Apache2」が開始される事を確認します。

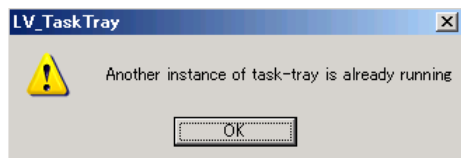
■LogVillagePS の終了と再起動

- ① 「LV_TaskTray (PS) の起動」を起動します。

“Windows スタートメニュー”→「すべてのプログラム」→「SO-TEN」→「LogVillage 2.0 ポーリングサーバー」→「LV_TaskTray (PS) の起動」を起動します。

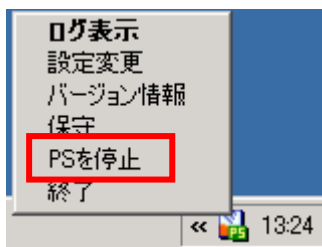
※起動中の場合、以下のメッセージが表示されます。

OK でダイアログを閉じてください。

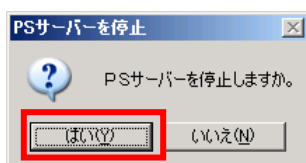


- ② タスクトレイ アイコンを右クリックします。

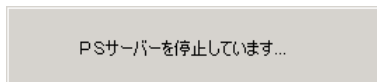
- ③ 「PS を停止」をクリックします。



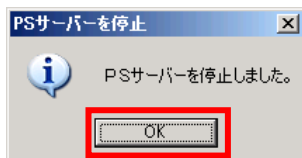
- ④ 「はい」をクリックします。



上図が消えるまで待ちます



- ⑤ OK」をクリックします。



※再起動する場合は「サービス」から「LV_P_MonitorSrv」を起動してください。

■■■ インデックス ■■■

ActiveDirectory, 15, 16, 39, 75, 79,
172

Apache, 11, 168

CSV, 16, 33

DBMaster, 11

NetBIOS, 10, 14, 15, 16

UAC, 38, 70

WorkGroup, 16, 39, 40

ライセンス登録, 22



株式会社 蒼天

〒135-0064 東京都江東区福住 1-14-4 山崎ビル 1F
<http://www.so-ten.co.jp/>